YAMAHA

取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

TRACER9 GT+

モーターサイクル

TRACER9 GT+ Y-AMT (MTT890D-SK)

BVV-28199-J0

安全運転のために 1
各部の名称 2
車両の特徴 3
スマートフォン連携システム 4
各部の取り扱いと操作 5
日常点検 6
運転操作 7
点検整備 8
お車の手入れ 9
製品仕様 10
ユーザー情報 11
索引 12

商標について

Bluetooth®のワードマーク及びロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。
iOS は、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

JAU27254

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ **警 告**	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身と同乗者のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-5
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

車両の特徴 3-1
- マトリックス LED ヘッドライト 3-1
- コーナリングライト 3-4
- ミリ波レーダー 3-5
- ライダー介入リクエスト 3-8
- FCW（フォワードコリジョンワーニング） 3-8
- BSD（ブラインドスポットディテクション） 3-10
- ACC（アダプティブクルーズコントロール）システム 3-11
- ACC（アダプティブクルーズコントロール）システムの操作 3-13
- YVSL（ヤマハバリアブルスピードリミッター） 3-17
- ブレーキシステム 3-19
- YRC（ヤマハライドコントロール） 3-21
- Y-AMT（ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション） 3-25
- ESS（緊急停止信号）システム 3-26
- 乗降時サスペンション減衰システム 3-27
- VHC（ビークルホールドコントロール） 3-27
- TPMS（タイヤ空気圧監視システム） 3-28
- スマートキーシステムの概要 3-29
- スマートキーシステムの作動範囲 3-30
- スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い 3-30
- スマートキー操作のしかた 3-32
- スマートキーの電池交換のしかた 3-33
- メインスイッチ 3-35
- フューエルタンクキャップの開閉 3-37

スマートフォン連携システム 4-1
- スマートフィーチャー 4-1
- 初期設定 4-3
- ナビゲーションシステム：Garmin Motorize 4-6
- 電話 4-7
- 接続エラーが発生したときは 4-9

各部の取り扱いと操作 5-1
- ハンドルスイッチ 5-1
- 警告灯と表示灯 5-4
- ディスプレイ 5-8
- ポップアップメニューシステム 5-20
- フューエルタンクキャップ 5-41
- 燃料 5-42
- シート 5-42
- ライダーシートの高さ調整 5-44
- ライダーフートレスト位置の調整 5-46
- ヘルメットホルダー 5-46
- 書類入れ 5-46
- 小物入れ 5-47
- ハンドル位置の調整 5-48
- サイドケースホルダー 5-48
- フロントフォークおよびリヤクッションの調整 5-48
- ブレーキレバーの握り調整 5-50
- DC コネクター 5-50
- USB ジャック 5-50
- ETC コネクター 5-52
- サイドスタンド 5-52
- イグニッションサーキットカットオフシステム 5-52

日常点検 6-1
- 日常点検の実施 6-1
- 日常点検箇所／点検内容 6-1

運転操作 7-1
- ならし運転 7-1
- エンジン始動 7-1
- ギヤチェンジのしかた 7-2
- ブレーキ 7-3
- 駐車 7-4

点検整備 8-1
- 点検整備の実施 8-1
- サービスツール 8-2
- エンジンオイル 8-2

エンジンのかかり具合、異音の点検...8-4
低速、加速の状態の点検 8-4
冷却水 8-4
エアクリーナーエレメントの交換....8-6
タイヤ 8-6
ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検 8-8
ブレーキランプスイッチの点検....8-8
ブレーキパッドの点検 8-8
ブレーキ液量の点検 8-9
ドライブチェーン 8-10
ドライブチェーンの給油 8-11
バックミラー 8-11
車体各部の給油脂状態の点検....8-12
アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム） 8-12
バッテリー 8-13
ヒューズ交換 8-14
灯火装置および方向指示灯の点検...8-17
運行において異常が認められた箇所の点検 8-17
こんなときは 8-18
スマートキーシステムのエマージェンシーモード 8-19

お車の手入れ 9-1
洗車 9-1
アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い 9-2
ウインドスクリーンの取り扱い....9-3
保管のしかた 9-3
アフターケア用品について 9-4

製品仕様 10-1

ユーザー情報 11-1
二輪車を廃棄する場合は？ 11-1
サービスマニュアル(別売)の紹介...11-2
車両情報 11-2

索引 12-1

安全運転のために

JAU27281

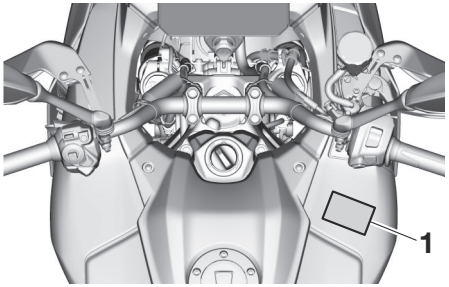
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU2737B

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - プロテクターを備えた保護性の高い服

で明るく目立つ色のもの
- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服





● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
● 同乗者にも上記の注意を守らせてくださ

い。

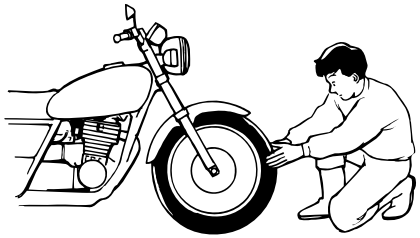
JWA11601

⚠警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。 運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



車の異状

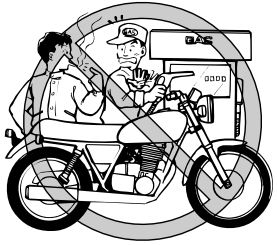
次のような場合は、車が故障しているおそれ

があります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

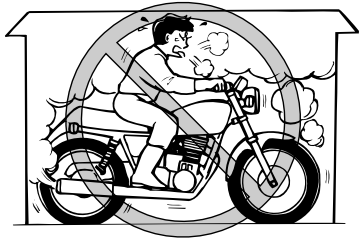
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



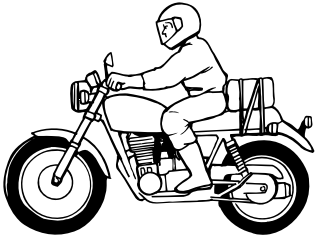
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



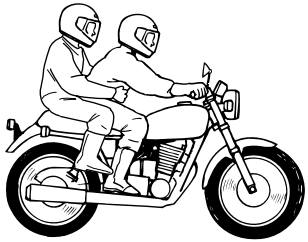
荷物はしっかり固定する



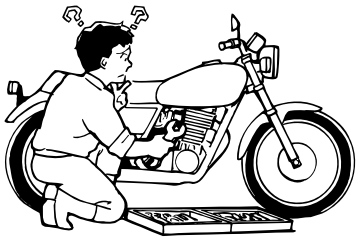
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。







乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から 3 年後に受け、2 回目以降の継続検査はその後 2 年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

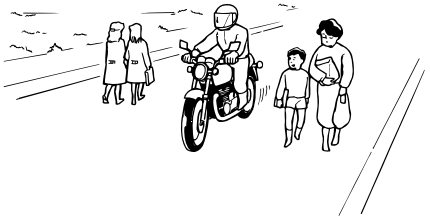


JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



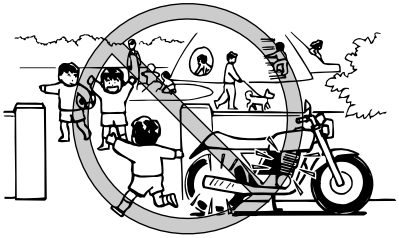
駐車

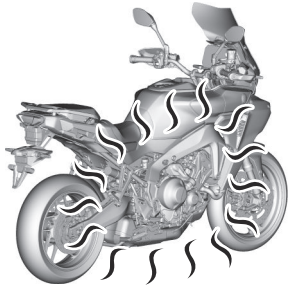
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。 また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**





昼間はヘッドライトを下向きに

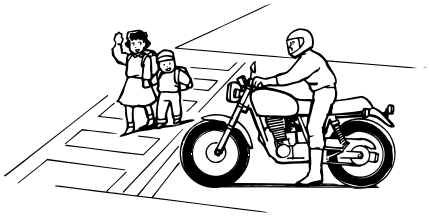
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582

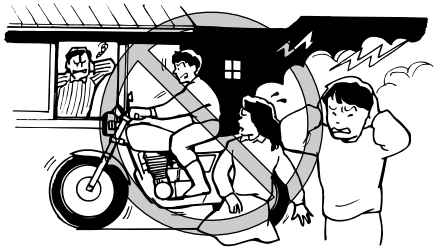
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

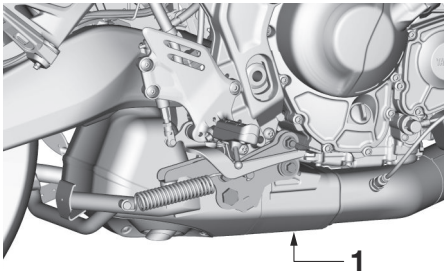


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



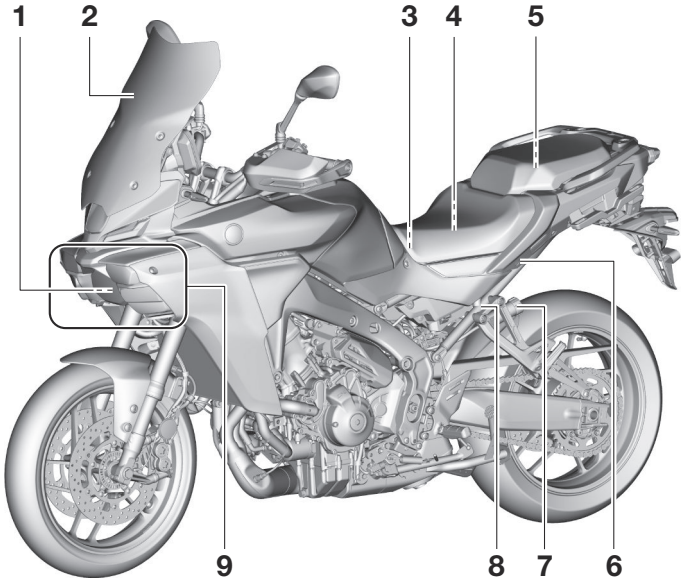
1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU10411

左側面

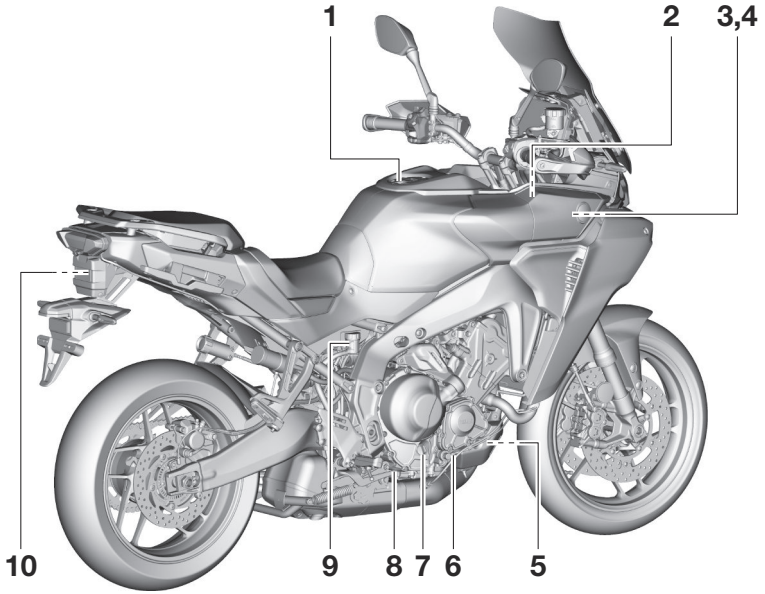


1. ミリ波レーダーユニット (P3-5)
2. ウインドスクリーン（P5-29）
3. バッテリー（P8-13）
4. ヒューズ（P8-14）
5. サービスツール（P8-2）
6. シートロック（P5-42）
7. スプリングプリロードアジャスター（P5-48）
8. ヘルメットホルダー（P5-46）
9. マトリックス LED ヘッドライト（P3-1）

各部の名称

JAU10421

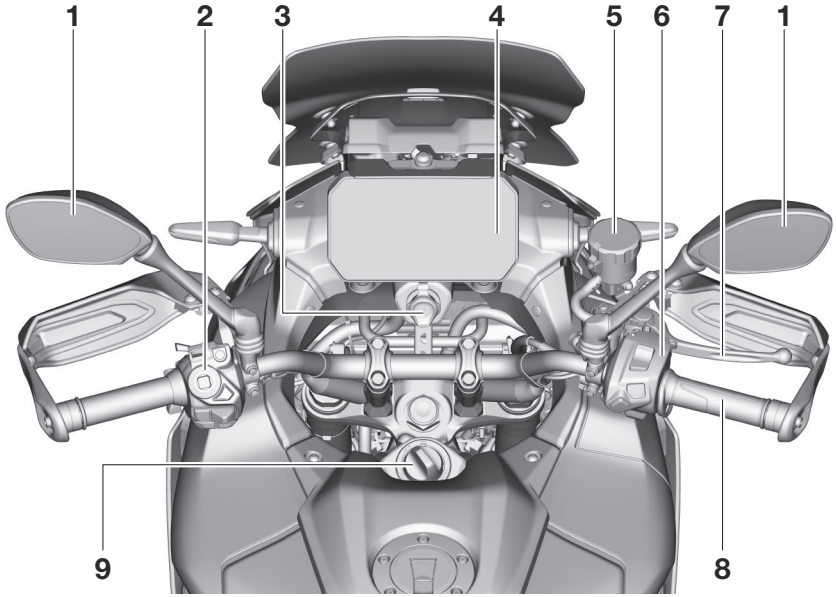
右側面



1. フューエルタンクキャップ（P3-37）
2. スプリングプリロードアジャスター（P5-48）
3. 小物入れ（P5-47）
4. USB Type-A ジャック（P5-50）
5. リカバリータンク（P8-4）
6. エンジンオイル点検窓（P8-2）
7. オイル注入口（P8-2）
8. ブレーキペダル（P8-8）
9. リヤブレーキリザーバータンク（P8-9）
10. ミリ波レーダーユニット (P3-5)

JAU10431

運転装置と計器類

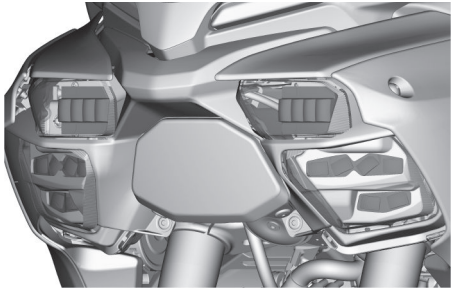


1. バックミラー (P8-11)
2. ハンドルスイッチ（左）(P5-1)
3. USB Type-C ジャック（P5-50）
4. ディスプレイ（P5-8）
5. フロントブレーキリザーバータンク（P8-9）
6. ハンドルスイッチ（右）(P5-1)
7. ブレーキレバー（P8-8）
8. スロットルグリップ
9. メインスイッチ（P3-35）

JAUA4316

マトリックス LED ヘッドライト

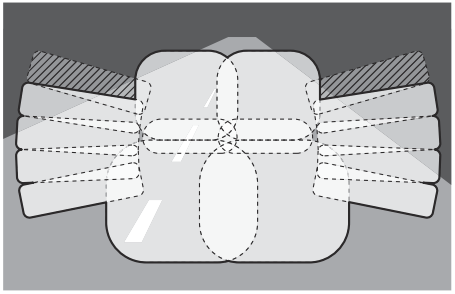
マトリック LED スヘッドライトは、異なる角度を照射する複数の LED ライトにより構成されています。ロービーム、ハイビーム、アダプティブハイビーム、コーナリングライトといった、さまざまなパターンで作動します。



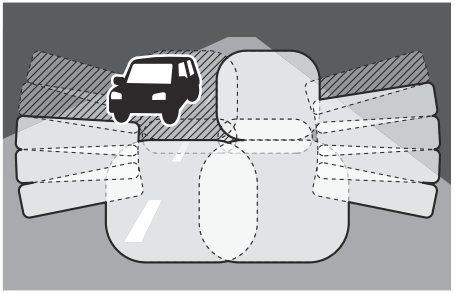
アダプティブハイビーム

アダプティブハイビームが作動すると、車両前方に取り付けられたカメラが先行車、周囲の明るさを検知します。ヘッドライトのハイビーム用 LED ライトが自動的に調整され、他のドライバーの眩惑を防ぎます。
カメラの検出スピードや左右の走行レーンの設定は、メニューシステムで調整できます。(5-20 ページ参照)

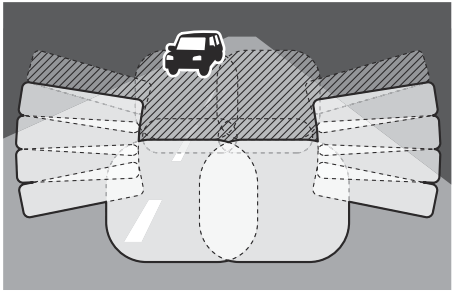
対向車・先行車がいないとき



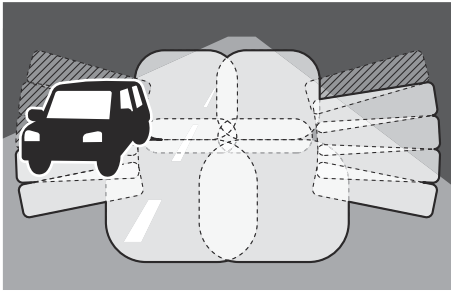
対向車が接近したとき



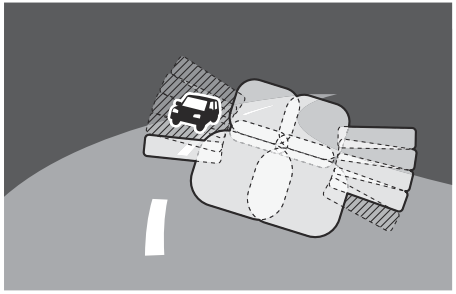
対向車を捉えたとき



対向車とすれ違うとき



バンク中に対向車を捉えたとき



通常走行



先行車エリアのみ消灯



対向車エリアのみ消灯



アダプティブハイビームオフ（コーナリング時）

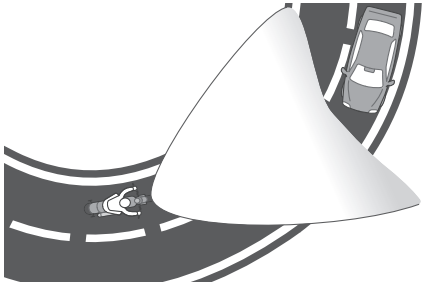


アダプティブハイビームオン（コーナリング時）



アダプティブハイビームオン（コーナリング時

に対向車を捉えたとき）



ヘッドライトスイッチを外側に長押しすると、アダプティブハイビームがオンになり、アダプティブハイビームアイコン “ⒶⒶ” が緑色に点灯します。
その後、時速 20 km/h 以上で走行すると、検出された車両と照明条件に基づいて、ハイビーム用 LED ライトが自動的にオン／オフになります。
アダプティブハイビームモードでハイビーム用 LED ライトが点灯すると、ハイビーム表示灯 “ⒶⒶ” も点灯します。
アダプティブハイビームは以下の条件では作動しません。

- 時速 15 km/h 以下
- 街灯が点灯している環境
- 霧
- 昼光

JWA22870

⚠警 告

アダプティブハイビームは、路面の視認性を高め、ライダーの疲労軽減を目的としています。カメラによる検知は、道路状況、天候、車両の姿勢などによって影響を受けることがあります。ライダーは常に周囲の状況や路面状況を把握し、必要に応じてヘッドライトを積極的に操作してください。

JCA28751

注 意

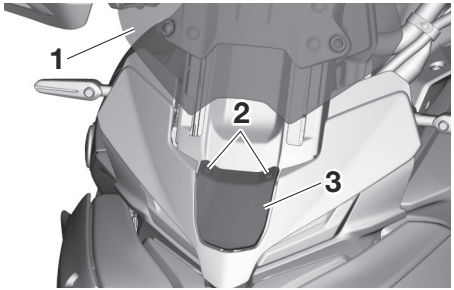
次のような場合、アダプティブハイビームが正しく作動しないことがあります。

- **カメラカバーの汚れ（ほこり、泥、虫など）、劣化、破損**
- **カメラカバーの周囲に異物、シール、フィルムを貼る**
- **カメラカバーに撥水ガラスコーティング剤を塗布する**
- **後部に重い荷物を積んだ状態で車両が傾いている**
- **悪天候によりカメラが使用できない（霧、大雨、雪など）**
- **前方の車両が煙や水を巻き上げている**
- **夕暮れ時**
- **街灯、標識、信号機などの光が、路面から強く反射する**
- **標識、ミラー、三角コーンなどが、カメラに向かって強く光を反射している**
- **急激な高低差のある道路**
- **他の車両のライトが強すぎる、または弱すぎる**
- **車両の前に突然物体が現れる**
- **車両の後方から物体が現れる（通過車両など）**
- **木、道路標識、道路の中央分離帯など、他のオブジェクトによってカメラから対象物が遮られる**
- **前方の対象物が小さい（自転車、スクーターなど）**
- **他の車両の表面が非常に反射している**
- **他の車両との距離が大きすぎる、または小さすぎる**
- **速度が速すぎる**
- **車両の姿勢が急に変化した（急旋回、急ブレーキなど）**

アダプティブハイビームにエラーが発生すると、アダプティブハイビームアイコン “ⒶⒶ” がオレンジ色に点灯します。
このような場合は、車両を安全な場所に停車し、カメラカバーを清掃してください。しば

らく走行してもアイコンが緑色にならない場合は、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。

カメラカバーの清掃



1. ウインドスクリーン
2. クイックファスナー
3. カメラカバー

カメラカバーが汚れていると、アダプティブハイビームが適切に機能しません。カメラカバーが汚れた場合は、以下の手順で清掃してください。

1. カメラカバーを取り外しできるように、ウィンドスクリーンを高い位置へ移動します。(5-29 ページ参照)
2. カメラカバーを取り外すには、クイックファスナーを取り外し、カメラカバーを上に引き上げます。
3. カメラカバーを柔らかい布やスポンジで中性洗剤を使用して洗ってください。必要に応じて、ガラスクリーナーを使用してください。
4. 十分に水洗いし、洗剤を洗い流してください。洗浄後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。
5. カメラカバーを取り付け、クイックファスナーを取り付けます。
   カメラの検出速度や走行レーンの左右設定は、メニューシステムで調整できます。(5-20 ページ参照)

JCA28960

注 意

- **カメラカバーにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるカメラカバーは使用しないでください。**

JAUA4842

コーナリングライト

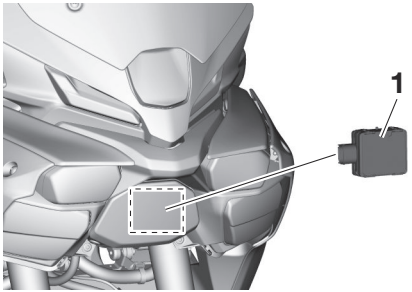
このモデルは、コーナリングライトとして使用するために側面に角度をつけた LED ライトを装備しています。
コーナリングライトは、車両が傾くと自動的にコーナリング方向に点灯します。
コーナリングライトは、ヘッドライトがロービーム “≡D” に設定されているときに作動します。
ヘッドライトがハイビーム “≡D” またはアダプティブハイビーム “≡Ⓐ” に設定されているときは、作動しません。

JAUA5683

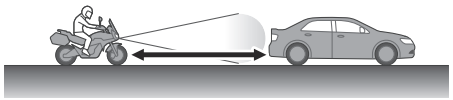
ミリ波レーダー

この車両は、ミリ波レーダーユニットを前後に搭載しています。前方ミリ波レーダーが先行車両を捕捉、車間距離を測定し、ACC(アダプティブクルーズコントロール)システム（3-11 ページ参照）、レーダー連携 UBS（3-19 ページ参照）、FCW(フォワードコリジョンワーニング)システム（3-8 ページ参照）の制御をおこなっています。後方ミリ波レーダーにより、後方車両を検知し、BSD（ブラインドスポットディテクション）システム（3-10 ページ参照）の制御をおこなっています。

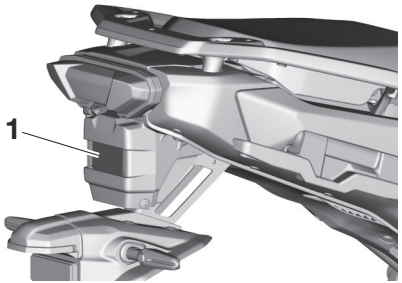
＜前方ミリ波レーダー＞



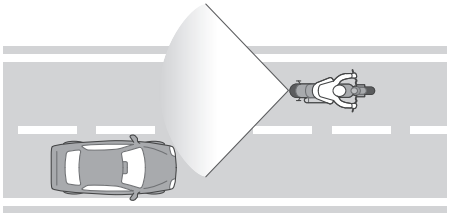
1. ミリ波レーダーユニット



＜後方ミリ波レーダー＞



1. ミリ波レーダーユニット



JWA22930

⚠警 告

ミリ波レーダーと連携するシステムを適切に使用するには、次の注意事項を理解し、使用してください。

● 注意事項：

- **ミリ波レーダーユニットの周りに、ステッカーを貼ったり、塗料を塗ったりしないでください。ACC システムやレーダー連携 UBS、FCW(フロントコリジョンワーニング)システム、BSD(ブラインドスポットディテクション)システム が正常に作動しない恐れがあります。**
- **ミリ波レーダーユニットの周囲に、検知を妨げるものがないことを確認してください。車両前部周辺にアクセサリーを取り付けたり、改造したりする**

と、ミリ波レーダーの検知を妨げる場合があります。
- 事故や転倒の際、ミリ波レーダーの位置がずれたりして、正しく作動しないことがあります。このような場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

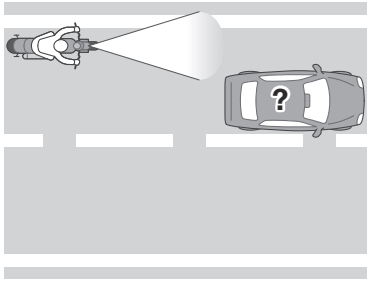
● 次のような場合、周囲の環境によってミリ波レーダーが正しく反応しないことがあります。
- 電磁波の干渉がある場所
- トンネル
- ガードレールや構造物の近く
- 大雨、雪、あられなど
- 工事現場

● 次のような場合、ミリ波レーダーが正しく機能しないことがあります。
- 歩行者や自転車の通行がある道
- 交通量が多く、車線変更が多く行われる状況
- カーブの多い道
- 滑りやすい、または、凹凸のある道路
- 一般公道以外または、砂利道

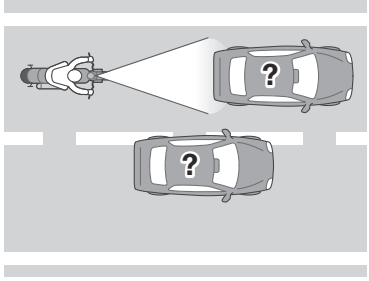
● 次のような場合、ミリ波レーダーが他の車両を正確に補足できないことがあります。
- 車両が車線の端を走行している
- 前方の車両が車線の左、または右に寄って走行している
- ハンドル操作が不安定で蛇行運転をしている
- 車両に負荷が掛かり、上向きになっている
- 隣の車線の車両が、自車線寄りに走行している
- 最大積載量を超える荷物を積んで後方に傾斜し、上向きになっている
- 急な上り坂、または下り坂を走行している

● 次のような場合、同一車線上にあっても車両を検知できなかったり、誤って検知することがあります。
- 道路上に駐車している車両、渋滞で停止している車両
- 静止しているもの（トンネル、ガードレール、料金所など）
- 歩行者、自転車、動物
- 二輪車（千鳥走行含む）
- 特殊な形状の車両（背の高い車両や荷台の長い車両など）
- 飛んでいるもの（ボール、ビニール袋、缶などの金属容器）
- 眼の前を横切る車両

車線の端に寄って走行

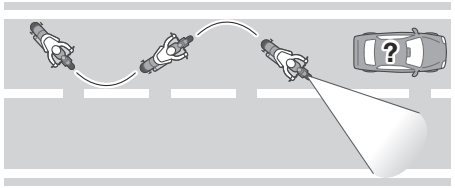


隣の車線の車両が、自車線寄りに走行

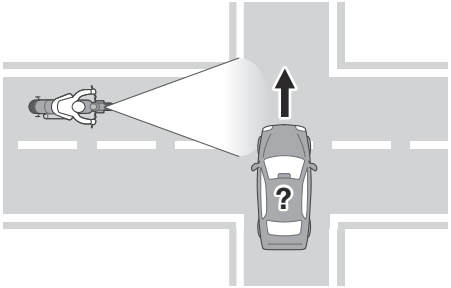


車両の特徴

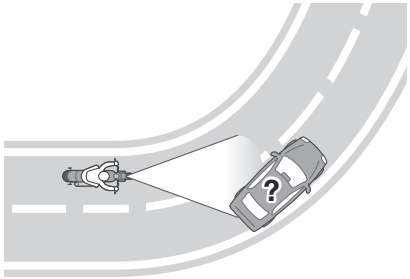
蛇行運転（不安定な運転）



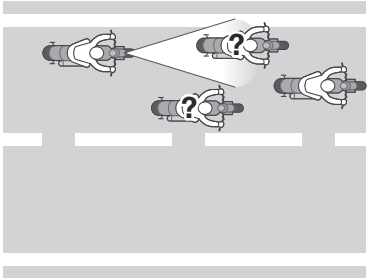
眼の前を車両が横切る



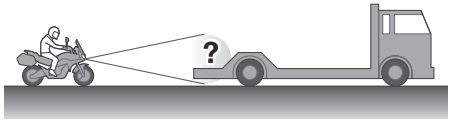
急カーブ



千鳥走行（レーダー捕捉対象が入れ替わる）



特殊な形状の車両



ライダー介入リクエスト

JAUA6601



1. ライダー介入リクエスト

ディスプレイの表示画面が替わり、ライダー介入リクエストが表示されたら、すぐに状況を確認して自身で車両の制御を行ってください。
ライダー介入リクエストが表示されると、ディスプレイはオレンジ色の背景に変わり、中央のアイコンが点滅します。ライダー介入リクエストは、次のような場合に表示されます。

ACC（アダプティブクルーズコントロール）システムがオンのとき

- 先行車に近づきすぎた場合
- 先行車の速度に対して、自分の速度が速すぎる場合

FCW（フォワードコリジョンワーニング）がオンのとき

- 先行車に近づきすぎた場合

JWA22540

⚠警 告

ライダー介入リクエストは、すべての状況下で表示されることを保証するものではありません。周囲の状況によっては、表示されなかったり、遅れたりすることがあります。常に周囲の環境や交通状況を把握し、いつでも自身で車両を操作できるようにしてください。

FCW（フォワードコリジョンワーニング）

JAUA5693

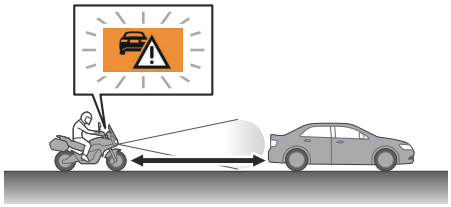
JWA22940

⚠警 告

常に安全な車間距離を保ち、前方の交通状況に注意してください。このシステムは安全な運転を保証するものではありません。安全運転を行う責任はライダーにあります。

FCW システムは、先行車両との車間距離が近づきすぎたことを検知したときに、ライダーへ衝突の可能性をお知らせします。
前方のミリ波レーダーユニットを使用して先行車両を検知し、２段階で警告します。

ステージ１：



車両の接近を検知すると、ディスプレイにライダー介入リクエストが警告表示されます

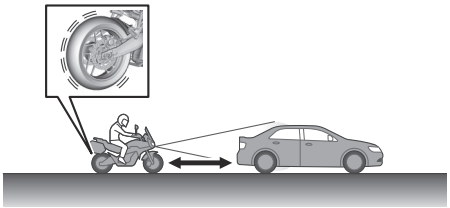
（3-8 ページ参照）。この警告は、検知された車両が検知範囲外に出るまで継続します。

JWA22540

⚠ 警 告

ライダー介入リクエストは、すべての状況下で表示されることを保証するものではありません。周囲の状況によっては、表示されなかったり、遅れたりすることがあります。常に周囲の環境や交通状況を把握し、いつでも自身で車両を操作できるようにしてください。

ステージ2：



検知された車両との距離が縮まってもライダーがブレーキを操作しない場合、リアブレーキが自動的に2回振動し、ライダーを警告します。

FCW の作動条件

- メニューシステムで FCW が“Near”または“Normal”に設定されている。（5-40 ページ参照）
- TCS（トラクションコントロールシステム）がオンに設定されている。（5-33 ページ参照）
- 車両の速度が時速 30 キロメートル以上
- 車体が大きく傾いていない

要 点

- ライダーがスロットルを大きく開け、明らかな加速意思が検知されると、FCW は作動しません。
- ステージ 1 の警告の上限速度は 200 km/h です。ステージ2の警告の上限速度は 160 km/h です。

メニューシステムには、“Near”、“Normal”と“OFF”の 3 つの設定があります。“Near”と“Normal”の設定は、先行車両を検知する距離を調整します。“OFF”を選択すると、FCW システムが無効になり、FCW オフアイコン“”が点灯します。（5-16 ページ参照）

要 点

- メニューシステムで TCS がオフになっている場合、FCW オフアイコン“”が点灯します。
- FCW が“Near”または“Normal”設定で、TCS がオン設定のときに FCW オフアイコン“”が消灯しない場合は、ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。
- FCW が“OFF”に設定されている場合、車両の電源を入れなおすと、FCW の設定が“Near”に変更されます。前回の設定が“Near”または“Normal”の場合、前回の設定が維持されます。

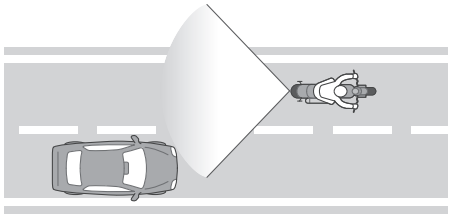
JAUA5703

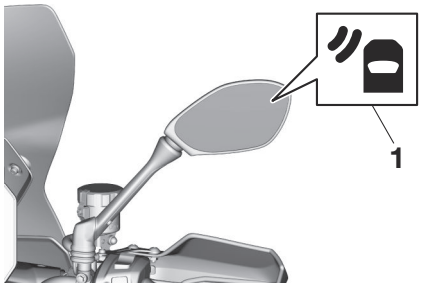
BSD（ブラインドスポットディテクション）

JWA22951

⚠警 告

- **車線を変更する前に、常に目視とミラーで確認してください。**
- **BSD（ブラインドスポットディテクション）システムは、ライダーが車線変更の判断を支援するシステムですが、安全な運転を保証するものではありません。**
- **システムがすべての車両を検出するわけではないため、事故を避けるために直接の目視確認を行ってください。これは、ライダーが周囲の交通環境を把握する代わりとなるものではありません。**
  安全運転を行う責任はライダーにあります。





1. BSD 表示灯

BSD（ブラインドスポットディテクション）システムは、後方のミリ波レーダーユニットにより、サイドミラーやライダーの周辺視野では見えない左右後方の車両を検知し、サイドミラーの表示灯でライダーに注意喚起するシステムです。

検出アラート:

- 死角検知エリアに車両が進入した場合、または接近検知エリアへ車両が急接近した場合、該当側のサイドミラーの BSD 表示灯“ ”が点灯します。
- 上記のいずれかに該当する車両を検知しているときに、検知方向の方向指示器を操作すると、該当側のサイドミラーの BSD 表示灯“ ”が点滅します。

BSD システムの作動条件:

システムは、以下のすべての条件が満たされた場合に作動します。

- メニューシステムで BSD がオンに設定されている。(5-39 ページ参照)
- TCS(トラクションコントロールシステム)がオンになっている。(5-33 ページ参照)
- 時速約 20km/h 以上で走行
- 車体が大きく傾いていない

メニューシステムで BSD または TCS がオフになっている場合、BSD オフアイコン“ ”が点灯します。

BSD システムまたは後方のミリ波レーダーユニットのいずれかが故障した場合、補助システム警告灯“ ”が点灯します。その場合は、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。

要　点

ABS または TCS が作動している間は、BSD システムは機能しません。

BSD システムは、次の条件下で検出できない場合があります。

- 他の車両が 7km/h 未満の速度で検知エリアに進入したとき

- 他の車両を 4km/h 以上の速度差で追い越すとき
- 小型バイク、自転車、歩行者
- 自車両から 2 車線以上離れている車両
- 他の障害物(トンネル、ガードレール、料金所、駐車車両など)
- 自車両と他の車両のスピードの差が大きいとき

JAUA7061

ACC（アダプティブクルーズコントロール）システム

JWA22571

⚠警 告

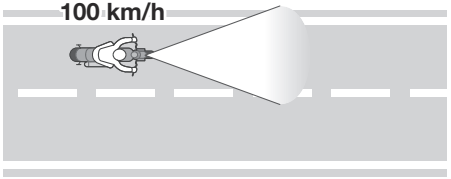
- **ACC システムは、ライダーの快適性を高め、疲労軽減を目的としています。安全や衝突回避のためのシステムではありません。安全運転を行う責任はライダーにあります。ライダーは常に周囲の環境や交通状況を把握し、車両を積極的に操作して安全に減速および加速する必要があります。**
- **ACC システムは、高速道路のような長く直線的な道路で最も効果を発揮します。またライダーが周囲の交通環境を把握する代わりにはなりません。**

この車両は、先行車との適切な距離を保持して追従するための ACC システムを装備しています。

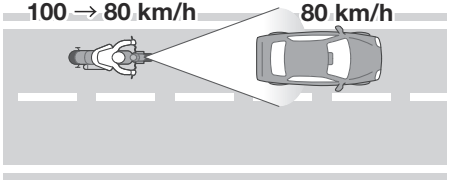
ACC システムは、装備されたミリ波レーダーユニットで先行車を検知し、エンジン、ブレーキ、Y-AMT、電子制御サスペンションを自動的に制御して、設定された車間距離を維持します。

ACC システムによるクルージング中は、次のように走行速度が制御されます。

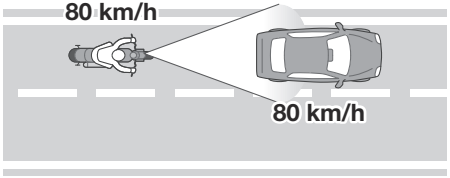
- 先行車がいないときは、設定したクルージングスピードで走行します。



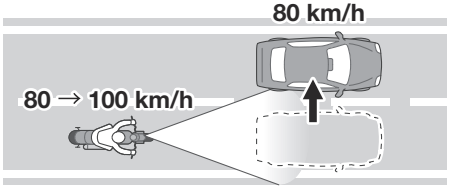
- 先行車を捕捉しているときは、設定したクルージングスピードを超えない範囲で、先行車の速度に合わせて加速や減速を行います。



- 自車両より遅い先行車を捕捉したときは、先行車の速度に合わせて減速します。



● 設定したクルージングスピード以下で走行中、先行車がミリ波レーダーの検知から外れたときは、設定したクルージングスピードまで加速します。



JWA22395

⚠警 告

● ACC システムは、周囲の環境や交通状況によっては、ライダーの予期しない加速や減速をすることがあります。ライダーはいつでもハンドル操作やアクセル操作、ブレーキ操作、シフトチェンジができるようにしてください。
● 速度と車間の設定は、交通ルールにしたがってください。
● 天候や交通状況に合わせて、いつでも無理なく減速できる車間設定にしてください。
● ACC システムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。ACC アイコン “ ” が消えていることを確認してください。
● ACC システムは、周囲の状況によっては先行車の動きを捕捉できないことがあります。次のような場合は、ACC システムの使用中でも、状況に応じて自身で車両の制御を行ってください。
  • 他車両が急に割り込んできたとき
  • 先行車が急ブレーキをかけたとき
  • 先行車との速度差が非常に大きいとき
● 次のような場合は、ACC システムを使用しないでください。ACC システムが正しく作動せず、事故につながる可能性があります。
  • 歩行者や自転車の通行がある道路
  • 交通量が多く、車線変更が多く行われる状況
  • 悪天候時
  • カーブの多い道
  • 滑りやすい道
  • 凹凸のある道
  • 砂利道
  • 工事中の道路
  • 一般公道以外

JWA23041

⚠警 告

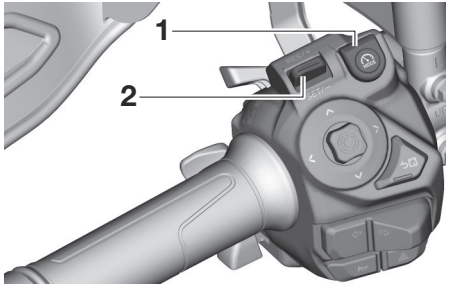
● 次のような場合、ACC システムが先行車を正確に捕捉できないことがあります。
  • 車両が車線の端を走行している
  • 前方の車両が車線の左、または右に寄って走行している
  • ハンドル操作が不安定で蛇行運転をしている
  • 車両が後方に傾斜し、上向きになっている（最大積載量を超える荷物を積んでいる）
  • 隣の車線の車両が、自車線寄りに走行している
  • 急な上り坂、または下り坂を走行している
● ACC システムが先行車を検知できなくなったり、誤った車両を検知した場合、加減速が行われることがあります。特に急

カーブやワインディングロードでは、レーダーコーンの角度により先行車を検知できなくなったり、他車線の車両を検知する場合があります。

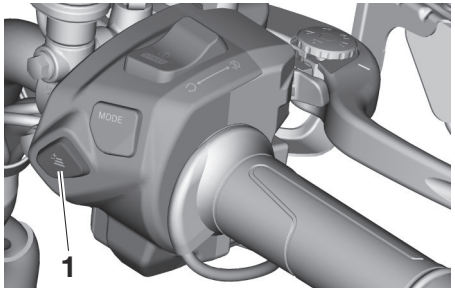
JAUA5713

ACC（アダプティブクルーズコントロール）システムの操作

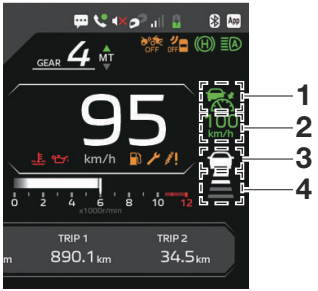
ACC システムの使い方



1. ACC/YVSL ボタン “MODE”
2. ACC/YVSL 設定スイッチ “RES/+” / “SET/–”



1. ACC 車間設定ボタン “”



1. ACC アイコン “” / “”
2. 速度設定アイコン
3. 先行車捕捉アイコン “”
4. 車間設定アイコン “”

1. ACC/YVSL ボタン “MODE” を押すと、ACC はスタンバイ状態になり、ACC アイコン “” は、黒/白に点灯します。
2. ACC/YVSL 設定スイッチを “SET/-” 側へ押すと、ACC システムが作動し、現在の速度がクルージングスピードとして設定されます。ACC アイコン “” が緑色に点灯し、速度設定アイコン “100 km/h” に設定速度が表示されます。

要　点

- ACC システムを使用する際は、先行車を正確に検出できるように、車線の中央付近を走行してください。

- TCS（トラクションコントロールシステム）がオフで、スタビリティコントロール表示灯“SC”が点灯している場合、ACCシステムは作動しません。
- ACC 異常アイコン“”が点灯している場合は、ヤマハ販売店にて点検を受けてください。



1. ACC 異常アイコン “”

ACC システムを使用し走行中、ACC/YVSL 設定スイッチ“RES/+”側を押すとクルージングスピードが増加し、ACC/YVSL 設定スイッチ“SET/-”側を押すとクルージングスピードが減少します。

要　点

ACC/YVSL 設定スイッチ“RES/+” / “SET/-”を押すごとに、設定したクルージングスピードが 1.0 km/h ずつ変化します。ACC/YVSL 設定スイッチ“RES/+” / “SET/-”を押したまま保持すると、10 km/h 単位で変更できます。

ACC システムを使用し走行中、スロットルグリップを使用して加速した場合、スロットルを離すと車両は設定したクルージングスピードまで減速します。加速後に新しいクルージングスピードを設定するには、スロットルを開けた状態で、ACC/YVSL 設定スイッチ“SET/-”側を押してください。
現在の速度が最低設定クルージングスピードを下回っている場合、ACC は作動しません。MT モードでの設定クルージングスピードは次の通りです。

最低設定クルージングスピード：
1 速ギヤ： 30 km/h
2 速ギヤ： 30 km/h
3 速ギヤ： 40 km/h
4 速ギヤ： 40 km/h
5 速ギヤ： 50 km/h
6 速ギヤ： 50 km/h
最高設定クルージングスピード：
160 km/h

要　点

- AT モードの、最低クルージングスピードは時速 30 km です。
- AT モードでは、ACC を作動させると、必要に応じて Y-AMT が自動的に適切なギアにシフトします。

車間距離の設定

ACC システムを使用し走行中、先行車が検出されると、先行車捕捉アイコン“”が点灯します。先行車が検出されない場合、インジケータは消灯します。
ACC 車間設定ボタン“”を押して、先行車までの追従距離を 4 段階に切り替えます。
車間距離の設定は、車間設定アイコン“”のバーの本数で表示されます。

バー 1 本“”：最短 （100 km/h 走行時で約 27 m）
バー 2 本“”：短 （100 km/h 走行時で約 33 m）
バー 3 本“”：長 (100 km/h 走行時で約 44 m)
バー 4 本“”：最長 （100 km/h 走行時で約 55 m）

要　点

- 同じ車間設定でも、走行している速度が速いと車間距離は長くなり、遅いと短くなります。
- ACC システムを再起動するとき、車間設定は前回の設定が維持されます。

ACC システムの解除と停止

ACC システムを使用し走行中、次のいずれかの操作を行うと、ACC システムは解除され、スタンバイ状態に戻ります。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回す
- フロントブレーキまたはリヤブレーキをかける

ACC システムを停止にするには、ACC/YVSL ボタン“MODE”を押します。ACC がオフになると、ACC アイコン“”と速度設定アイコンが消灯します。

レジューム機能の使用方法

ACC システムをスタンバイ状態から再び作動させるには、ACC/YVSL 設定スイッチ“RES/+”側を押します。クルージングスピードが前回の速度設定に戻り、ACC アイコンが緑色“”に点灯します。

JWA22400

⚠警　告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、レジューム機能を使用することは危険です。

要　点

ACC システムをオフにすると、前回設定したクルージングスピードが消去されます。レジューム機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

ACC システムの自動解除と自動停止

ACC システムを使用し走行中、次のいずれかの操作を行うと、ACC システムは自動的に解除され、スタンバイ状態に戻ります。

- ABS または TCS（トラクションコントロールシステム）が作動した場合
- 手動で加速しているときに、車両の速度が 180 km/h を超えた場合
- 車両の速度が、次の下限速度を下回った場合

1速ギヤ：	25 km/h
2速ギヤ：	25 km/h
3速ギヤ：	35 km/h
4速ギヤ：	35 km/h
5速ギヤ：	45 km/h
6速ギヤ：	45 km/h

要　点

AT モードの、自動解除の下限速度は、時速 25 km です。

また以下の条件で、ACC システムは自動的にオフになります。

- スターター/エンジンストップスイッチ“/”を“”にした場合
- エンジンが停止した場合
- サイドスタンドが下げられた場合

ACC システムが上記の条件で停止した場合、ACC アイコン“”と速度設定アイコンが 4 秒間点滅してから消灯します。

JWA22410

⚠警　告

- **ACC システムが解除、または停止した場合に備えて、運転者はいつでもハンドル操作やアクセル操作、ブレーキ操作、シフトチェンジができるようにしてください。**
- **ACC システムが自動的に解除、または停**

止した場合は、停車してから周囲の状況や路面状況を確認して、車両が運転に適した状態であることを確認してください。

要　点

上り坂または下り坂を走行する際、ACC システムは場合により、設定した速度を維持できない可能性があります。

- 上り坂を走行する場合、実際の走行速度は設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行速度まで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の走行速度は設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。速度を落とすには、ギアを下げるか、ブレーキ操作を行ってください。

JWA22431

⚠警　告

ACC システムを使用し走行中は、減速のために前後ブレーキを電子制御しています。連続して下り坂を走行する場合、ブレーキが過熱してブレーキ性能が落ちる可能性があります。下り坂を走行するときは、ギヤを下げてエンジンブレーキをなるべく使用してください。

追い越しアシスト

ACC システムで走行車線を追従走行中、追い越し車線の方向に方向指示器スイッチ“⇦/⇨”を作動させると ACC システムが車両を加速して追い越しをアシストします。

要　点

先行車との車間に余裕がない場合は、追い越しアシストを使用しても加速しません。

- 追い越しアシストを使用してもしばらく追い越しをしなかった場合は、車両は加速をやめて元の車間に戻ります。
- 連続で追い越しアシストを作動させても車線変更をしなかった場合、加速が弱くなったり加速しなくなったりします。車線を変更したり、先行車が捕捉から外れると、再度追い越しアシストが使用できます。
- 追い越しアシストは、追越車線の方向へ合図して曲がる場合にのみ作動します。追い越し車線の方向（左または右）は、お住まいの国の交通法規によって決まります。追い越し車線の方向が逆である他国に入国する場合、システムは走行データを分析して調整する必要があります。この場合、システムが調整できるまでのしばらくの間、追い越しアシストは作動しません。

ACC システムによる制御

ACC システムは、次の機能により快適な走行をアシストします。

コーナリングアシスト機能

ACC システムを使用し走行時、コーナリング中に先行車を検知すると、ACC は車体の傾きを検知し、安定性を保つために急加速を制限します。

電子制御サスペンションシステムとブレーキの連携

ACC システムを使用し走行中、エンジンブレーキ、フロントブレーキ、リアブレーキの順に作動して、減速し車間距離を維持します。同時に、電子制御サスペンションシステムが減衰力を調整し、過度の前傾を抑えます。

JAUA6622

YVSL（ヤマハバリアブルスピードリミッター）

このモデルには、走行時の最高速度を制限する、YVSL が装備されています。50 km/h から 180 km/h での間で設定できます。設定した制限速度に達すると、車両が設定速度を超えないようにエンジン出力が制御されます。

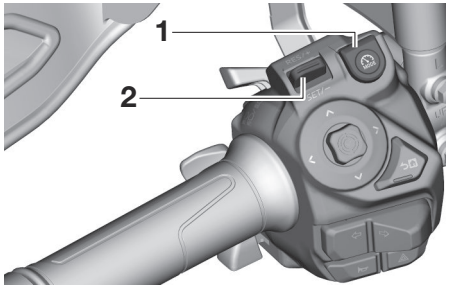
JWA22900

⚠ 警 告

- **YVSL を誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。YVSL は、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。**
- **上り坂または下り坂を走行する場合、または急加速を行った場合は、YVSL は設定した制限速度を維持できない可能性があります。**
- **走行前に YVSL システムのオン／オフを確認してください。**
- **YVSL を誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。YVSL アイコンが消灯していることを確認してください。**



1. YVSL アイコン
2. 速度設定アイコン



1. ACC/YVSL ボタン “MODE”
2. ACC/YVSL 設定スイッチ “RES/+” / “SET/–”

要 点

- YVSL は、下り坂を走行しているときや急加速しているとき、またはギアシフトの直後は設定速度を維持できないことがあります。
  - 設定した制限速度を 5km/h 以上で 3 秒以上経過すると、車両速度が設定速度内に下がるまで YVSL アイコン “LIM” と速度設定アイコン “100 km/h” が点滅します。
  - 設定した制限速度を超えた場合は、ブレーキをかけてください。
- YVSL を解除すると、エンジン出力の制限が徐々に解除され、通常のスロットル操作ができます。
- AT モードで YVSL が作動中のときは、設定速度に達した後にスロットルグリップを回しすぎると、Y-AMT は低いギアに入ったままになります。高いギアにシフトするには、Y-AMT がシフトアップするまでスロットルグリップを減速方向に少し回してください。

YVSL の作動と設定

1. ハンドルバー（左）の ACC/YVSL ボタン “MODE” を押します。ACC アイコン “” が点灯します。
2. ACC/YVSL ボタン “MODE” をもう一度押すと、YVSL スタンバイモードに切り替わります。YVSL アイコン “LIM” と速

度設定アイコン“100 km/h”が点灯します。
3. ACC/YVSL 設定スイッチの“SET–”側を押して、YVSL を作動させます。YVSL アイコン“LIM”が緑色に点灯し、制限速度が現在の車速に設定され、速度設定アイコンに表示されます。

要　点

- ACC システムが作動中に、ACC アイコン“”が点灯しているときに ACC/YVSL ボタン“MODE”を押すと、YVSL スタンバイモードに切り替わります。
- ACC システムと YVSL システムの両方を同時に作動させることはできません。

制限速度の設定

YVSL の作動中、ACC/YVSL 設定スイッチを“RES+”側へ押すと、設定した制限速度が増加し、“SET–”側へ押すと設定した制限速度が減少します。

要　点

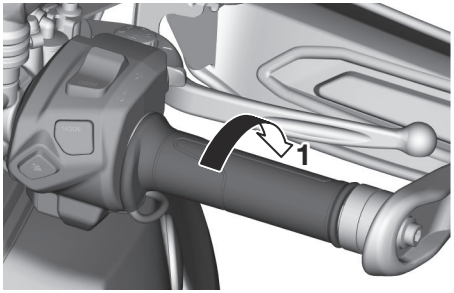
ACC/YVSL 設定スイッチを一度押すごとに、設定スピードが約 1.0 km/h 変化します。設定スイッチを一度長押しするごとに、設定スピードが 10 km/h 変化します。

YVSL の解除

YVSL が解除されると、エンジン出力制限が解除され、通常のスロットル操作ができます。

YVSL を解除するには、次のいずれかの操作を行います。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。YVSL アイコンが“LIM”から“LIM”へ変わり、システムはスタンバイモードに戻ります。



1. 減速方向

- ハンドルバー（左）の ACC/YVSL ボタン“MODE”を押します。YVSL アイコンと速度設定アイコンが消灯します。

YVSL レジューム機能の使用方法

スタンバイモード中に YVSL を再び作動させるには、ACC/YVSL 設定スイッチの“RES+”側を押します。制限速度が前回設定した制限速度に戻ります。

JWA21210

⚠ 警 告

前回設定した制限速度が現在の走行状況に対して遅すぎる場合、レジューム機能を使用することは危険です。

要　点

YVSL の作動中に ACC/YVSL ボタン“MODE”を押すと、YVSL システムは完全にオフになり、前回設定した制限速度が消去されます。レジューム機能は、新たに制限速度を設定するまで使用できません。

3

JAUA5722

ブレーキシステム

この車両は、ABS（アンチロックブレーキシステム）と UBS（ユニファイドブレーキシステム）が統合されたブレーキシステムを装備しています。

ブレーキのかけ方

ブレーキレバーとペダルは、従来のブレーキと同様に操作してください。ブレーキング時に車輪のスリップが検知されると、ABS が作動し、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じることがあります。そのままブレーキをかけ続けて、ABS を作動させてください。ブレーキを効果的に作動させるために、ポンピングブレーキはしないでください。

要　点

ABS は、車両が時速 5 km を超えると、自己診断を行います。自己診断中、ハイドロリックコントロールユニットからクリック音が聞こえ、ブレーキレバーやペダルに振動が感じられる場合がありますが、故障ではありません。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABS は、前後のブレーキに独立して作用します。

JWA15363

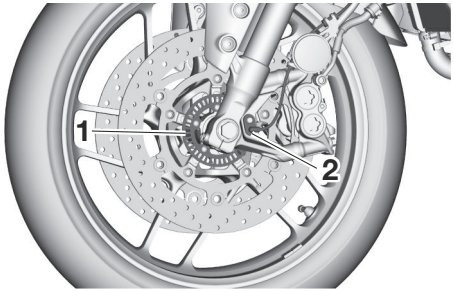
⚠警 告

- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。 速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。**

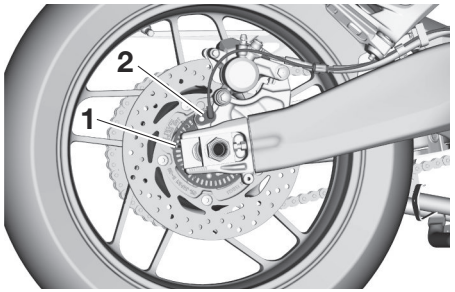
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサーローター
2. フロントホイールセンサー



1. リヤホイールセンサーローター
2. リヤホイールセンサー

UBS（ユニファイドブレーキシステム）

UBS は、前後ブレーキを連動したブレーキシステムです。オートバイやスクーターのブレーキは、フロントブレーキとリアブレーキを同時に使用するのが基本です。 UBS がアクティブな場合、フロントまたはリヤブレーキのいずれかを操作すると、制動力がもう一方のブレーキにも適切に配分されます。また、コーナリング中の制動力も UBS が自動的に調整します。

要　点

- BC（ブレーキコントロール） が、オフに設定されている場合、UBS は作動しませ

ん（3-23 ページ参照）。
- UBS は、時速 30 km/h 以上で、ライダーが自らブレーキを操作したときに作動します。
- ライダーのブレーキ操作によっては、30 km/h 以下になっても UBS が作動し続けることがあります。
- ライダーがブレーキを操作しない場合、UBS は、作動しません。
- コーナリング時、車両の傾きが大きすぎると、UBS が働かない場合があります。
- UBS が作動すると、ブレーキレバーやペダルの操作感が変わることがありますが、故障ではありません。

レーダー連携 UBS

レーダー連携 UBS は、ミリ波レーダーからの先行車との車間距離情報も統合し、検知した車間距離に応じて、制動力を調整します。

要　点
- ライダーがブレーキを操作しない場合、レーダー連携 UBS は、作動しません。
- メニューシステムで FCW（フォワードコリジョンワーニング）をオフにすると、レーダー連携 UBS も無効になります。
- BC（ブレーキコントロール）がオフに設定されていても、FCW（フォワードコリジョンワーニング）が“Near”または“Normal”に設定されている場合は、レーダー連携 UBS は引き続き、作動します。

JWA22600

⚠警 告

前後アシスト UBS およびレーダー連携 UBS は、衝突被害軽減ブレーキではありません。安全運転を行う責任はライダーにあります。ライダーは常に周囲の環境や交通状況を把握し、積極的にブレーキ操作を行って安全運転に努めてください。

レーダー連携 UBS により強いブレーキがかかると、ライダー介入リクエストが表示されます。ライダー介入リクエストが表示されたら、すぐに周囲の状況を確認して自身で車両の制御を行ってください。



1

1. ライダー介入リクエスト

JWA23020

⚠警 告

- **周囲の環境や交通状況によっては、レーダー連携 UBS が作動しなかったり、予期しない減速をすることがあります。ライダーはいつでもハンドル操作やアクセル操作、ブレーキ操作、シフトチェンジができるようにしてください。**
- **次のような場合、レーダー連携 UBS は先行車の動きを捕捉できないことがあります。状況に応じてブレーキ操作を行ってください。**
  - **他車両が急に割り込んできたとき**
  - **先行車が急ブレーキをかけたとき**
  - **先行車との速度差が非常に大きいとき**

JAUA5872

YRC（ヤマハライドコントロール）

YRC は、多くのセンサーや制御を組み合わせ、より良い走行を支援するシステムです。車両の傾斜角度、加速度や、前後、上下、左右の各方向に沿った力を検出し、1 秒間に複数回の演算処理を行い、必要に応じて自動的に各システムが調整されます。下記の個々の YRC 項目について、オン／オフを切り替えたり、ライダーや走行状況に合わせた調整をすることができます。設定の詳細は、メニュー画面の項目をご覧ください。（5-33 ページ参照）

JWA18221

⚠ 警 告

ヤマハライドコントロール（YRC）システムは、過度の速度超過などによる車両のコントロール不能やコーナリング時のスリップ、急カーブ走行および制動中からの急激な加速への移行といった、不適切な運転操作に対しては車輪のスリップや前輪が浮いてしまうことを防ぐことはできません。運転者自身の技量限度内で運転し、周囲の状況に応じた運転を心がけましょう。無理な走行は行わず、YRC の設定や運転操作全般に慣れるようにしましょう。

SC（スタビリティコントロールシステム）

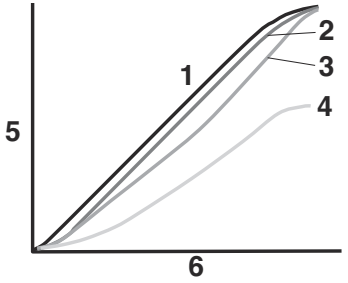
スタビリティコントロールシステムは、TCS（トラクションコントロールシステム）、SCS（スライドコントロールシステム）、LIF（リフトコントロールシステム）、BSR（バックスリップレギュレーター）で構成されています。これらは、メニューシステムで個別に設定するか（5-33 ページ参照）、メニューシステムで TCS をオフにすることで一括してオン／オフを切り替えることができます。（5-39 ページ参照）

走行中にスタビリティコントロールシステムのいずれかが作動すると、スタビリティコントロール表示灯 “SC” が点滅します。（5-6 ページ参照）

PWR（パワーデリバリーモード）

PWR は、スロットルグリップの操作量に応じてスロットルバルブの開度を調整する、4 つの制御マップから構成されています。ライダーの好みや、走行状況に適したモードが選択できます。

レベル 1：スポーティなエンジン出力
レベル 2：スムーズなエンジン出力
レベル 3：マイルドなエンジン出力
レベル 4：雨天等のエンジン出力を抑えたい場合



1. レベル 1
2. レベル 2
3. レベル 3
4. レベル 4
5. スロットルバルブ開度
6. スロットルグリップ操作量

TCS（トラクションコントロールシステム）

TCS は、加速時のスリップを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、スリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。

また、車両の傾斜角度に応じて自動的に制御します。最適な加速のため、車両が直立しているときはトラクションコントロールシステム制御が抑えられ、コーナリング時には、

強くなります。
TCS は、３段階の設定レベルがあります。設定レベルが高いほど、システム介入量が大きくなり、より後輪のスリップを抑制するようになります。
レベル１：スポーティな走行に適しています。
レベル２：ストリート走行に適しています。
レベル３：濡れた路面や滑りやすい路面での走行に適しています。



トラクションコントロールシステム

要　点

- TCS は、車両が段差を乗り越えたときなどに作動することがあります。
- TCS や他のシステムが作動すると、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。
- メインスイッチをオンにすると、TCS が自動的にオンになります。TCS は、メインスイッチがオンで車両が停止している場合にのみ、手動でオン／オフを切り替えることができます。
- 泥や砂などの柔らかい路面で車両がスタックしたときは、TCS をオフにすると後輪が抜け出しやすくなります。

JWA15433

⚠警 告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。（8-6 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

SCS（スライドコントロールシステム）

SCS は、後輪の横すべりを検知したとき、車体の傾きに応じてエンジン出力を制御します。このシステムは、トラクションコントロールシステムと合わせて、スムーズな走行になるよう支援します。
SCS は、３段階の設定レベルがあります。設定レベルが高いほど、システム介入量が大きくなり、より後輪の横滑りを抑制するようになります。
レベル１：スポーティな走行に適しています。
レベル２：ストリート走行に適しています。
レベル３：濡れた路面や滑りやすい路面での走行に適しています。

LIF（リフトコントロールシステム）

LIF は、発進時やコーナーからの脱出時など、極端な加速時に前輪が浮き上がることを抑制します。前輪の浮き上がりを検知すると、エンジン出力を調整して前輪の浮き上がりを緩やかにし、最適な加速が得られるよう制御します。
LIF は、３段階の設定レベルがあります。

設定レベルが高いほど、システム介入量が大きくなり、よりホイールの浮き上がりを抑制するようになります。
レベル１：リフトコントロールが、最も少なくなります。よりスポーティな走行に適しています。
レベル２：中程度のリフトコントロールになります。スポーティな走行に適しています。
レベル３：リフトコントロールが、最も多くなります。ストリート走行に適しています。

EBM（エンジンブレーキマネージメント）

EBM は、スロットルオフやシフトダウンの際のエンジンブレーキの強さを制御します。EBM は、２段階の設定レベルがあります。設定レベルが高いほど、エンジンブレーキを軽減するためのシステム介入量が大きくなります。
レベル１：EBM の制御を最小限に抑え、エンジンブレーキが強い制御になります。スポーティな走行に適しています。
レベル２：EBM の制御が強く、エンジンブレーキが弱い制御になります。ストリート走行に適しています。

JWA20880

⚠警 告

ギヤをシフトダウンする前に、エンジンが十分に減速していることを確認してください。エンジン回転数が高過ぎる状態でシフトダウンすると、後輪のトラクションが失われる可能性があります。これにより、車両の制御が不能になり、事故や怪我の原因となります。また、エンジンや駆動系を損傷するおそれがあります。

SUS（電子制御サスペンションダンピングシステム）

SUS は、走行状況に合わせてサスペンションの減衰力を自動調整することができる電子制御サスペンションダンピングシステムです。システムには、４つのコントロールマップ（A-1、A-2、C-1、C-2）があります。

JWA21170

⚠警 告

走行中はサスペンションモードの設定変更をしないでください。

A-1：減衰力を強めた自動スポーツマップ
A-2：減衰力を弱めた自動コンフォートマップ
C-1/C-2：カスタマイズマップ
C-1/C-2 は、 Yamaha Motorcycle Connect アプリでカスタマイズすることができ、自動マップと非自動マップの２種類があります。
自動マップは、様々な走行状況に合わせてサスペンションを自動調整するためのカスタマイズが可能です。
非自動マップは、フロントとリアの伸側減衰力と圧側減衰力の標準設定があります。

BC（ブレーキコントロール）

BC は、ブレーキを操作し、ホイールがロックしたとき、前後輪それぞれのブレーキの油圧を個別に調整します。このシステムは、２つの設定があります。

- OFF：標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車体が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大限の効果を得られるように設計されています。
- ON：標準の ABS 制御に加え、コーナリングアシストブレーキが有効になります。IMU からの情報に基づきコーナリング時の制動力を調整し、ホイールがスリップすることを抑制します。

ブレーキシステムの詳細については、3-19ページを参照してください。

要　点

- 熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BC システムが希望のコーナリングスピードや意図したコーナリングラインに対して、想定よりも早く作動する場合があります。
- BC（ブレーキコントロール）が、オフに設定されている場合、UBS は作動しません。

JWA22532

⚠警 告

- **BC を ON にしていても、コーナリング中に強いブレーキングをすると、ホイールが滑ってバランスを崩すことがあります。十分に減速してからコーナーに進入してください。**
- **一般公道以外では、BC を使用しないでください。BC が正しく作動せず、事故につながる可能性があります。**

BSR（バックスリップレギュレーター）

BSR は、滑りやすい路面での減速時やシフトダウン時のスリップやロックを抑制します。センサーが後輪のスリップを検知すると、バックスリップレギュレーターはスリップ状態が回復するまで、エンジン出力を制御します。

要　点

- BSR は、車両が段差を乗り越えたときなどに作動することがあります。
- BSR や他の YRC システムが作動すると、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。
- 熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BSR の介入によって意図した車体コントロールと異なる場合があります。

JWA22700

⚠警 告

バックスリップレギュレーターは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。コーナー進入時やブレーキング時のスピードの出し過ぎによるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことはできません。他の車両と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。

JCA28580

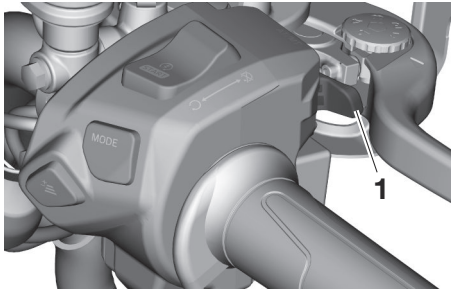
注 意

必ず指定タイヤを使用してください。（8-6 ページ参照）指定サイズ以外のタイヤを使用すると、バックスリップレギュレーターは、タイヤの回転を正確に制御することができません。

JAUA2704

Y-AMT（ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション）

この車両には、シーケンシャル 6 速ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション (Y-AMT) が搭載されており、クラッチレバーやシフトペダルを操作せずにギヤチェンジすることができます。

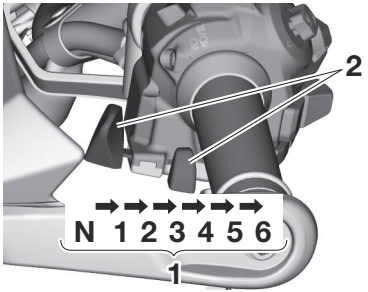


1. Y-AMT スイッチ“AT/MT”

Y-AMT には 2 つのモードがあります。
“AT”：自動変速
“MT”：左ハンドルバーにあるシフトレバーによる変速
Y-AMT スイッチ“AT/MT”を使用して“AT”モードと“MT”モードを切り替えます。(5-3 ページ参照)
現在選択されている Y-AMT モードは、Y-AMT 表示“AT”/“MT”に表示されます。(5-16 ページ参照)
“MT”には 5 つの YRC モード、“AT”には 2 つの YRC モードがあります。(5-33 ページ参照)
Y-AMT スイッチ“AT/MT”で“AT”と“MT”を切り替えると、それに応じて YRC モードも切り替わります。

要　点

“AT”から“MT”に変更した場合、YRC モードは“STREET”になります。“MT”から“AT”に変更した場合、YRC モードは以前に設定したモードになります。



1. ギヤの位置
2. シフトレバー

シフトレバーは“AT”と“MT”の両方のモードで変速をするときに使用します。

Y-AMT は“MT”モードでも停車すると自動的に 1 速までシフトダウンします。1 速ギヤで停止すると、スロットルグリップを回すまでクラッチが自動的に切断され、停止時にニュートラルにシフトしなくてもエンジンがアイドリング状態になります。エンジンが停止すると、トランスミッションが自動的にクラッチを接続するため、車両を移動することができなくなります。
車両の電源をオフにした状態で車両をニュートラルポジションに保つには、シフトダウンしてニュートラルにしてからメインスイッチを OFF にします。
ギヤチェンジの詳細については、7-2 ページを参照してください。

要　点

- “AT”モードでシフトレバーを使用して手動で変速すると、変速完了後に再び“AT”モードに戻ります。
- Y-AMT は、エンジン回転数が高すぎたり低すぎたりすると、手動での変速ができなくなります。
- ギヤを入れた状態で車両の電源をオンにした場合、ブレーキレバーを握るまたはブレーキペダルを踏むまでギヤを変えることはできません。

- “MT”モードでは、エンジン回転数が低すぎる場合、Y-AMT が自動的にシフトダウンします。

JWA22740

⚠警 告

エンジンがかかっている場合は、車両を押さないでください。不用意にスロットルグリップが回ったり、シフトレバーが動いて、事故の原因となります。

JWA22750

⚠警 告

Y-AMT の部品に損傷や磨耗のおそれがある場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。Y-AMT には繊細な部品が含まれていますので、点検を怠ると事故の原因となります。

JAUA1773

ESS（緊急停止信号）システム

急減速が発生した場合、このシステムが自動的に作動し、すべての方向指示灯が急速に点滅します。
これにより、車両が急速に減速していることを周囲の車両にさらに警告します。
ESS システムは、以下の条件で解除されます。

- ブレーキを解除したとき
- 急減速が検出されなくなったとき

JWA22680

⚠警 告

ESS は衝突防止システムではありません。不必要な急ブレーキは避け、安全運転をこころがけてください。

要　点

- ESS システムは、車両が時速 50 km 以上で走行しているときに急ブレーキを検知した場合にのみ作動します。
- ハザードランプがすでに作動しているときは、ESS は作動しません。
- 方向指示灯のひとつがすでに点滅しているときに ESS が作動した場合、ESS が優先され、すべての方向指示灯が急速に点滅します。
- ABS 警告灯が点灯している場合、ESS は作動しません。

JAUA4852

乗降時サスペンション減衰システム

乗降時にサスペンションの減衰力を自動的に減少させ、ライダーが車両に乗り降りする際のサポートをします。
システムは以下の場合に 30 秒間作動します。

- 車両の電源をオンにする
- メインスイッチが ON のまま、エンジンストップスイッチでエンジンを停止する

30 秒経過後、またはエンジンがオンになると、システムは解除され、選択されたサスペンション設定に戻ります。

要　点

エンジンが、かかっているときは、乗降時サスペンション減衰システムは作動しません。

JCA28820

注 意

乗降時サスペンション減衰システムを繰り返し作動させるとバッテリーが消耗するため、エンジンをかけずに車両の電源を繰り返しオン／オフしないでください。

JAUA5734

VHC（ビークルホールドコントロール）

VHC（ビークルホールドコントロール）システムは、停車中のブレーキ保持を補助し、意図しない動きを防いで車両を安定させるのに役立ちます。

JWA22960

⚠警 告

常に周囲の状況や交通状況に気を配り、必要に応じて手動でブレーキを操作し、車両のコントロールを維持してください。

- **VHC は、パーキング ブレーキではなく、ライダーのブレーキ操作をアシストするためのシステムです。いかなる状況下でも車両が停止していることを保証するものではありません。**
- **急な坂道などで停車した場合、VHC を作動させても車両が前進または後退することがあります。**

VHC には３つの設定があり、メニューシステムで変更できます。（5-39 ページ参照）

- Standard：停車中にブレーキレバーまたはブレーキペダルを強く作動させると、VHC が解除されるまでブレーキの作動を保持します。
- Advanced：“Standard”と同じですが、傾斜地に、停車した時には、システムが自動的にブレーキの作動状態を維持します。
- OFF：システムが無効で、VHC オフアイコン“Ⓝ”が点灯します。

VHC によるブレーキの作動中は、VHC アイコン“Ⓗ”は緑色に点灯します。
VHC は、以下の条件がすべて満たされている場合に作動します。

- VHC が“Advanced”または“Standard”に設定されている
- 車両が停止している
- フロントブレーキまたはリアブレーキが作動している
- サイドスタンドが上がっている
- ABS 警告灯が消灯している

上記の条件がすべて満たされているにもかかわらず、VHC オフアイコン“Ⓝ”が点灯している場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要　点

車両が 5 km/h を超える速度で走行していない場合、ABS 警告灯が点灯し、VHC は作動しません。

VHC を無効にしてブレーキを解除するに

は:
- フロントブレーキレバーを素早く 2 回押します
- スロットルグリップを回して発進させます

VHC を無効にすると、VHC アイコン“Ⓗ”がオレンジ色に点滅してから消灯します。

要　点

VHC は 5 分後に自動的に解除されます。VHC アイコン“Ⓗ”が 10 秒間オレンジ色に点滅し、その後ブレーキが解除されます。

JAUA5883

TPMS（タイヤ空気圧監視システム）

タイヤの空気圧が低いと検知された場合に、タイヤ空気圧警告灯“(!)”が点灯します。前後のタイヤ空気圧は、それぞれインフォメーションディスプレイ（5-11 ページ参照）で選択したり、ステータスディスプレイ（5-13 ページ参照）に表示することもできます。

JWA22850

⚠ 警 告

インフォメーションディスプレイに表示される空気圧は、走行中のタイヤの温度に影響を受けるため、参考情報としてご利用ください。運行前点検の際は、必ずタイヤが冷えているときに、タイヤゲージで点検してください。

要　点

- センサーの電池残量が少なくなった場合、またはセンサーに異常が検知されると、タイヤ空気圧警告灯“(!)”が点滅します。タイヤ空気圧警告灯“(!)”が点滅した場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- 車両の電源をオンにすると、インフォメーションディスプレイの空気圧は、走行が開始されるまで“---”を表示します。

JCA28720

⚠ 警 告

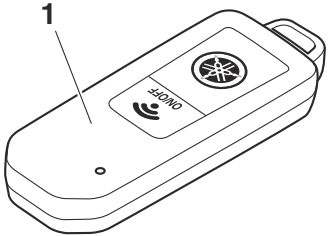
- **専用タイヤのみを使用してください。他のタイヤを使用すると、TPMS の精度に影響を与え、センサーや電池に不具合が生じる場合があります。**
- **タイヤ交換はヤマハ販売店のみで行ってください。TPMS の精度に影響を与え、センサーや電池に不具合が生じる場合があります。**
- **TPMS の電池を充電したり、再利用しないでください。**
- **電池を分解したり、燃やしたりしないでください。**
- **地域の法律や規則に従って電池を廃棄してください。**

スマートキーシステムの概要

JAUA2502

スマートキーシステムは、スマートキーを持っていることにより、メカニカルキーを取り出すことなく次の操作が可能になるシステムです。

- 電源のオン／オフ
- エンジンの始動と停止
- ハンドルロックの解除／施錠
- フューエルタンクキャップリッドの解除



1. スマートキー

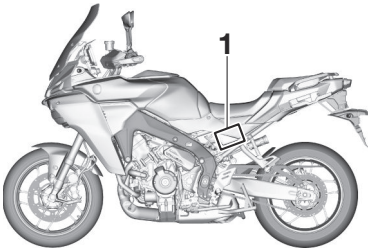
要　点

最後に車を使用してから（車両の電源をオンからオフにしてから）約 9 日間経過すると、バッテリー保護のためスマートキーの使用ができなくなります。このようなときは、再度車両の電源をオフにすると、スマートキーが使用できるようになります。（3-35 ページ参照）

JWA22770

⚠ 警　告

植え込み型心臓ペースメーカーを装着されている方は、車載アンテナ（イラスト参照）から約 22cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。スマートキーシステムは、車載アンテナを使用して微弱電波を発信しています。この電波により、植え込み型心臓ペースメーカーや植え込み型除細動器などの医療機器の作動に影響を与えるおそれがあります。その他の医療用電子機器をご使用のお客様は、医師や医療用電気機器製造業者などに影響の有無を確認してからご使用ください。



1. 車載アンテナ

JCA27770

注　意

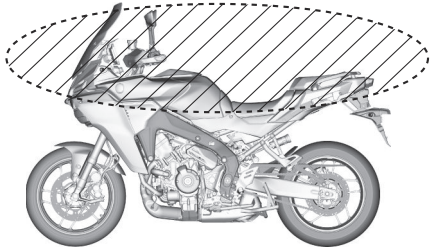
スマートキーシステムは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはスマートキーシステムが正常に作動しないことがあり、各種ロックの解除や電源のオンなどができないことがあります。

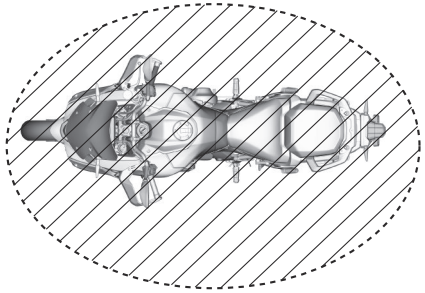
- **強い電波、ノイズのある場所に置いたとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**
- **スマートキーを、携帯電話や無線機などの通信機器と一緒に携帯しているとき、または使用しているとき。**
- **スマートキーが金属物に触れていたり、覆われているとき。**
- **スマートキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき。**
- **近くで他の車がスマートキーシステムを使用しているとき。**

このようなときはスマートキーの場所を移動して、再度操作を行ってください。それでも作動しないときは、エマージェンシーモード（8-19 ページ参照）の操作を行ってください。

JAUA2511
スマートキーシステムの作動範囲

車がスマートキーの所在を確認して認証するときの作動範囲は、以下に示す図の通りです。





スマートキーがロック状態の場合、スマートキーを持っていてもスマートキーシステムは作動しません。スマートキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所などでは、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。

要　点

- 小物入れにスマートキーを置かないでください。
- スマートキーは、必ず運転者が携帯してください。
- 車から離れるときは、スマートキーをロックの状態にしてください。

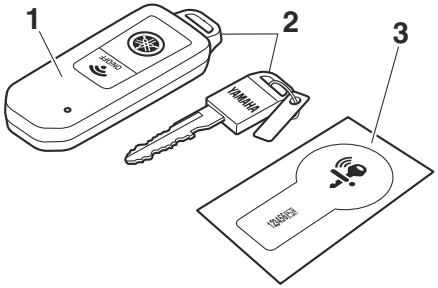
JAUA2524
スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い

JWA22790

⚠警 告

- **スマートキーは、運転者が必ず携帯してください。**
- **スマートキーが作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない人でもエンジンの始動やハンドルロックの解除／施錠が可能ですので、充分に注意してください。**

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないよう、充分に注意してください。
- この車には、スマートキー 1 個（組み込まれたメカニカルキー 1 本を含む）、メカニカルキー 1 本、ID 番号カード 1 枚が付属しています。メカニカルキーと ID 番号カードは、車の保管場所とは別にして大切に保管してください。また、ID 番号カードの紛失に備えて、**ID 番号をメモなどに控えておくことをおすすめします。**



1. スマートキー
2. メカニカルキー
3. ID 番号カード

- スマートキーと ID 番号カード（ID 番号の控えを含む）を全て紛失または破損したときは、スマートキーシステム全体の部品交換になります。詳しくは販売店にご相談ください。
- 緊急時にはスマートキーの ID 番号（6 桁数字）を入力することで、スマートキーを使用せずに各種ロックの解除やエンジンの始動が可能になります。緊急時の操作方法については、8-19 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JCA15771

注 意

スマートキーは、信号を発信するための精密な電子部品を内蔵しています。故障の原因となりますので、以下のことを守ってください。

- **無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。**
- **水に濡らさないでください。**
- **重いものを上に置かないでください。**
- **直射日光があたる場所や、高温、多湿になるところに放置しないでください。**
- **火であぶったりしないでください。**
- **削ったり、穴を開けたりしないでください。**
- **超音波洗浄器などで洗浄しないでください。**
- **磁気を帯びたキーホルダーなどを近づけないでください。**
- **テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かないでください。**
- **低周波治療器などの医療用電気機器の近くに置かないでください。**
- **ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着しないようにしてください。変形したり、ひび割れたりすることがあります。**
- **シールを貼らないでください。**

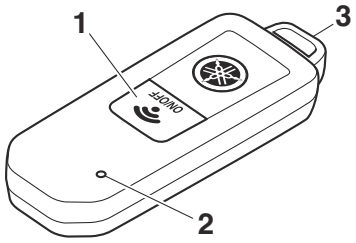
要 点

- スマートキーは車から離れているときも電池を消耗しています。
- 電池の寿命は使用状況により異なりますが、約 2 年程度です。（全く使用しなくても電池は消耗します。）
- 車両の電源をオンにした時にメーターのスマートキーシステム表示灯が点滅（約 20 秒）した場合は、新しい電池に交換してください。（電池交換のしかたは、3-33 ページ参照）
- スマートキーは電波を受信し続けた場合、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。（例：テレビやパソコンなどの電気製品の近くに置いているとき）
- スマートキーのロック／アンロックスイッチを押してもスマートキー表示ランプが点灯しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。電池を交換しても直らない場合は、販売店にご相談ください。
- 予備のスマートキーが必要な場合は、販売店にご相談ください。スマートキーは、同じ車に最大 6 個まで登録することができます。
- スマートキーを紛失したときは、盗難など

を防ぐため、ただちにヤマハ販売店にご相談ください。

スマートキー操作のしかた

JAUA2531



1. ロック／アンロックスイッチ“ON/OFF”
2. スマートキー表示ランプ
3. メカニカルキー

スマートキーのロック／アンロック切替

スマートキーを使用できる状態（アンロック）にするか、使用できない状態（ロック）にするかの切替方法です。
スマートキーのロック／アンロックスイッチ“ON/OFF”を長押し（1 秒以上）することで、スマートキーの通信モードを切り替えることができます。

- スマートキーの表示ランプが 1 回点滅したとき・・・スマートキーがアンロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できます）
- スマートキーの表示ランプが長めに 1 回点滅したとき・・・スマートキーがロックの状態になりました。（スマートキーシステムを使用できません）

スマートキーのロック／アンロックを確認する

スマートキーのロック／アンロックスイッチ“ON/OFF”を短押し（1 秒以内）することで、現在の通信モードの状態をスマートキー表示ランプによって確認することができます。

- スマートキーの表示ランプが 1 回点滅したとき・・・アンロックになっています。
- スマートキーの表示ランプが長めに 1 回点滅したとき・・・ロックになっています。

メカニカルキーを使用するとき

メカニカルキーをスマートキー本体から引き抜きます。使用後はメカニカルキーを元の位置へ押し戻します。

JAUA2543

スマートキーの電池交換のしかた

次のようなときは電池残量が少なくなっているので、新しい電池と交換してください。

- 車両の電源をオンにしたときに、スマートキーシステム表示灯が数秒間点滅するとき。
- スマートキーの“ON/OFF”スイッチを押しても作動しないとき。



1. スマートキーシステム表示灯“ ”

JWA22830

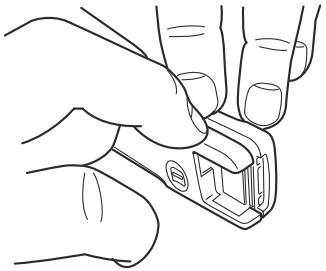
⚠ 警 告

この電池にはリチウム金属や有機電解質などの可燃性物質が含まれています。安全に使用するために、次のことを守ってください。

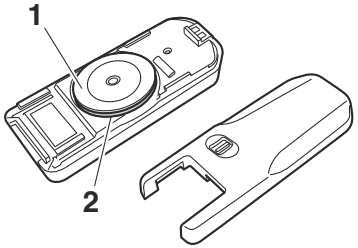
- **ショートさせないでください。**
- **充電しないでください。**
- **水に濡らさないでください。**
- **変形させたり損傷させたりしないでください。**
- **改造しないでください。**

電池交換のしかた

1. 図のように、スマートキーのケースを慎重に開けます。開かない場合は、ヤマハ販売店に電池交換を依頼してください。



2. カバーとOリングを取り外します。



1. カバー
2. Oリング

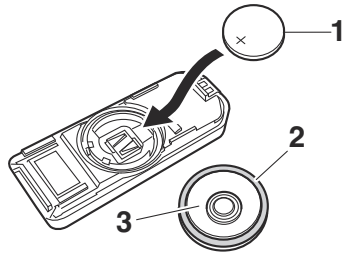
3. 電池を取り外します。

要 点

取り外した電池は、電池の説明書や各自治体の規則に従って処分してください。

4. 電池の向き（表裏）に注意し、図のようにプラス面を上に向けて、新しい電池を取り付けてください。

使用電池：
ボタン電池　CR2025×1 個



1. 電池
2. O リング
3. カバー

5. O リングとカバーを取り付けます。
6. スマートキーのケースを閉じます。

JCA24011

注 意

- 電池交換の際、スマートキー本体に無理な力を加えないでください。
- キーを開けるときは、ドライバーや硬いものでこじ開けないでください。
- 防水シール部分の傷つきや、汚損に注意してください。
- 内部の回路や端子に触れないでください。故障の原因となります。
- 電池が正しく取り付けられているか確認してください。電池の＋極の向きが合っているか確認してください。

JWA20632

⚠警 告

バッテリーを誤って交換すると、爆発のおそれがあります

- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。
- バッテリーの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。
- バッテリーを廃棄する際は、焼却や断裁を絶対にしないでください。
- バッテリーを誤って廃棄したり、高温（100°C 以上）に加熱したりすると、バッテリー内部にガスが発生し、電解液の漏れ、内部短絡（ショート）、発熱、爆発、および激しく発光するおそれがあります。

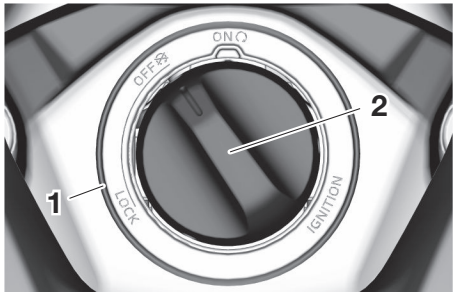
電池を直射日光に当てたり、熱源に近づけるなどしないでください。

バッテリー液に触れないでください。化学薬品による火傷の危険があります

- この製品にはボタン電池が含まれています。ボタン電池を飲み込んだり、体内に入れると、重度の火傷を負う可能性があり、死亡につながるおそれがあります。新しい電池や使用済みの電池は、子供の手の届かない場所に保管してください。
- スマートキーのケースがしっかりと閉じない場合は、製品の使用を中止して、お子さまの手の届かない場所に保管してください。
- ボタン電池を誤って飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

メインスイッチ

JAUA2553



1. メインスイッチ
2. メインスイッチノブ



1. スマートキーシステム表示灯 “ ”

メインスイッチは車両の電源のオン／オフ、ハンドルロック操作を行います。メインスイッチノブを押してスマートキーが認証された後、スマートキーシステム表示灯が点灯している間（約 4 秒）メインスイッチを回すことができます。

JWA22722

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

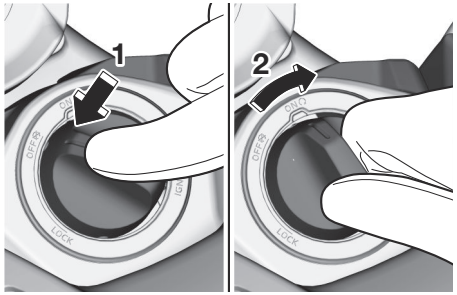
要　点

- メインスイッチノブを何度も押さないでください。メインスイッチノブを何度も押すと、メインスイッチを保護するためにスマートキーシステムは一時的に無効となり、スマートキーシステム表示灯が点滅します。この場合、表示灯が消灯してからメインスイッチを再び操作してください。
- バッテリーを節約するために、エンジンを停止した状態でメインスイッチを数秒間オンにしたままにすると、アラームが鳴り、メインスイッチをオフにするようにお知らせします。

メインスイッチの位置は以下のとおりです。

ON

JAUA2563



1. 押す
2. 回す

全ての電気回路に電源が供給され、エンジンを始動させることができます。

車両の電源のオンのしかた

1. スマートキーをアンロック状態にして、作動範囲内に移動します。
2. メインスイッチノブを押すとスマートキーシステム表示灯が数秒間点灯します。
3. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチノブを ON にします。すべての方向指示器が 2 回点滅し、車両の電源がオンになります。

要　点

- 車両のバッテリー電圧が低下している場合、方向指示器は点滅しません。
- スマートキーを使わずに車両の電源をオンにするには 8-19 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JAUA2583

OFF



1. 回す

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。

車両の電源のオフのしかた

1. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを OFF にします。
2. すべての方向指示器が 1 回点滅し、車両の電源がオフになります。

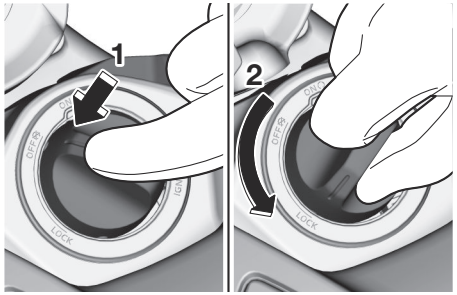
要　点

メインスイッチを OFF にしたとき、スマートキーが認識できない（スマートキーが作動範囲外もしくはロック状態になっている）場合、ブザーが 3 秒間鳴り、スマートキーシステム表示灯が 30 秒間点滅します。

- スマートキーシステム表示灯が点滅している 30 秒間はメインスイッチを操作できます。
- 30 秒後、車両の電源は自動的にオフになります。
- 車両の電源をすぐにオフにする場合は、メインスイッチノブを 2 秒以内に 4 回押します。

JAUA2590

LOCK



1. 押す
2. 押し回し

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。

ハンドルロックのしかた

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを押します。
3. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチノブを押して LOCK にします。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらメインスイッチノブを回しま

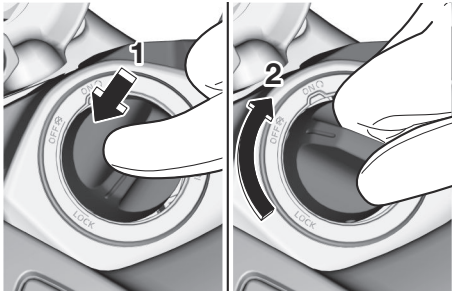
す。

JWA14742

⚠警 告

車が動いている状態では、ハンドルロック操作をしないでください。

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 押し回し

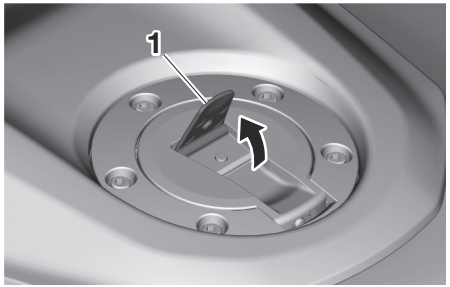
1. スマートキーをアンロック状態にして作動範囲内に移動し、メインスイッチノブを押します。
2. スマートキーシステム表示灯が点灯中にメインスイッチノブを押して任意の位置に回します。

JAUA2601

フューエルタンクキャップの開閉

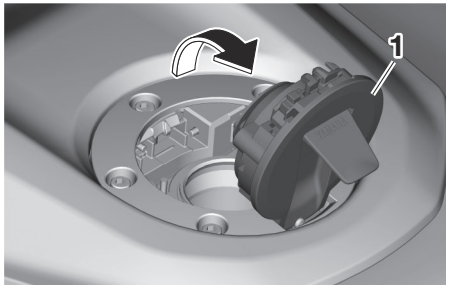
フューエルタンクキャップの開けかた

1. 車両の電源をオフにしてから、2 分以内にフューエルタンクキャップレバーを引き上げます。



1. フューエルタンクキャップレバー

2. フューエルタンクキャップを開けます。



1. フューエルタンクキャップ

要　点

車両の電源をオフにしてから 2 分後に、フューエルタンクキャップのロックがかかります。その場合は、フューエルタンクキャップレバーを引き上げると、スマートキーシステムと認証が行われます。
フューエルタンクキャップレバーを再度引き上げて、フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

フューエルタンクキャップを元の位置に押します。

要　点

- フューエルタンクキャップが開いたまま電源をオンにすると、アラームが鳴ります。アラームは、フューエルタンクキャップを閉めるか、30 秒経過すると止まります。
- 短時間に 5 回連続で操作をすると、フューエルタンクキャップのロックがかかり、スマートキーシステム表示灯が 3 秒間点滅します。最後の操作から 5 分後にロックが解除されます。

JWA21301

⚠警 告

車両を運転する前に、フューエルタンクキャップが確実に閉じられていることを確認してください。燃料漏れは火災のおそれがあり危険です。

スマートフォン連携システム

スマートフィーチャー

JAUA4890

JWA21412

⚠警 告

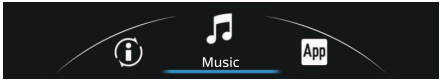
- **走行中に注意を怠ると、死亡または重傷を負うおそれがあります。常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **設定を変更する場合は、必ず車両を停止してください。**
- **走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

この車両はスマートフォン連携システムを搭載しており、CCU（コミュニケーションコントロールユニット）と Yamaha Motorcycle Connect アプリを介して接続されたスマートフォンを利用して、いろいろなスマートフィーチャーを使用できます。

- GPS ナビゲーション（USB を介して、Garmin Motorize アプリとの接続が必要です) (4-3 ページ参照)
- 電話（4-7 ページ参照）
- オーディオプレイヤー（5-21 ページ参照）
- 通知（5-28 ページ参照）
- 天気（5-28 ページ参照）
- 時計（5-33 ページ参照）
- 言語設定（4-2 ページ参照）

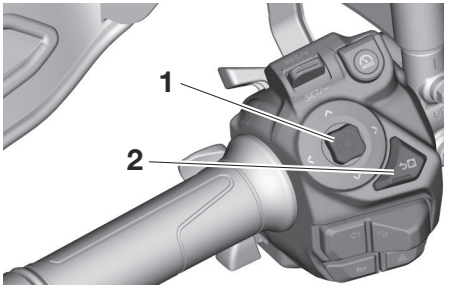
要　点

- お使いのスマートフォンによっては、一部の機能が利用できない場合があります。
- 一部の音楽および SNS アプリケーションは、他のアプリケーションと組み合わせると正常に動作しない場合があります。
- 車両の電源をオンにしてから CCU が起動するまでに約 30 秒かかります。この間、“アプリケーション”やスマートフィーチャーは利用できず、メニューはグレーで表示されます。
- バッテリーの取り外し／再接続後は、CCU が起動するまでに約 1 分かかります。



スマートフィーチャーへは、メインディスプレイ下側にあるポップアップメニューから接続できます。（5-20 ページ参照）メニューと関連するすべての機能は、ジョイスティックとホームボタン“⌂”を使用して操作します。（5-3 ページ参照）
はじめに、基本のメニュー操作方法をお読みください。その後、スマートフォンで初期設定と CCU への接続を完了してください。

ジョイスティック／ホームボタン



1. ジョイスティック
2. ホームボタン“⌂”

この取扱説明書では、次の用語を使用してジョイスティックとホームボタンの使い方を説明しています。

短押し	ジョイスティックまたはホームボタンを短く押します

長押し	ジョイスティックまたはホームボタンを 1 秒間押します

メインディスプレイからポップアップメニューを開く

- ホームボタン “⌂” を短押し
- ジョイスティックを左右に操作
- “✔” を短押し

メニューの操作

- ジョイスティックを上下左右に操作すると、メニュー項目の選択および表示をします。
- “✔” を短押しすると、選択した項目が実行されます。
- ホームボタン “⌂” を短押しすると、前の画面に戻ります。
- ホームボタン “⌂” を長押しすると、メニューが閉じます。

要　点

- メニュー項目に “‹ ˆ ˇ ›”（矢印）が表示されたときは、ジョイスティックを矢印の方向に操作すると、ハイライト表示された機能の表示ができます。
- 一部のメニューには、“<”（戻る）が表示されます。その場合は、ジョイスティックを左に操作して前の画面に戻ることができます。
- 一部のメニューには、“>”（進む）が表示されます。メニューがハイライト表示されているときに、ジョイスティックを右に操作するか、“✔” を短押しすると、次の画面を開くことができます。

Yamaha Motorcycle Connect アプリ

Yamaha Motorcycle Connect アプリは、CCU とスマートフォンを接続するために必要な無料アプリです。アプリは名前で検索して、スマートフォンのアプリケーションストアからダウンロードできます。

要　点

- Yamaha Motorcycle Connect を使用するには、Yamaha Motorcycle Connect の利用規約に同意する必要があります。
- Yamaha Motorcycle Connect アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- ナビゲーションやその他の機能では、スマートフォンで GPS のアクセス許可を “常に許可” に設定する必要があります。
- スマートフォンの動作は機種により異なります。接続、Bluetooth 検出、アプリのアクセス許可、およびその他の設定については、個々のスマートフォンで手順を参照してください。

初期設定

JAUA4474

スマートフィーチャーを使用するには

1. アプリケーションストアからスマートフォンに Yamaha Motorcycle Connect アプリをダウンロードして、インストールします。インストールを完了させ、Bluetooth でスマートフォンを CCU にペアリングし接続します。
2. ナビゲーションシステムを使用するには、アプリケーションストアからスマートフォンに Garmin Motorize アプリをダウンロードして、インストールします。インストールを完了させ、USB 経由でスマートフォンを CCU に接続します。
3. オーディオ、電話、ナビゲーションシステムを使用するには、Bluetooth ヘッドセットを CCU にペアリングし接続します。

Yamaha Motorcycle Connect アプリのペアリング

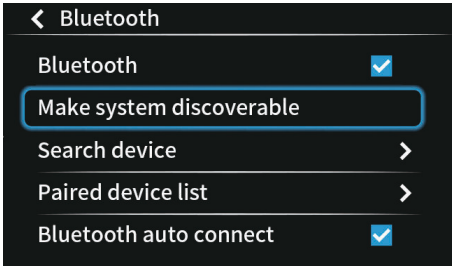
JCAN0150

注 意

次のようなときは Bluetooth 接続が正常にできないことがあります。

- **強い電波、ノイズのある場所で操作するとき。**
- **近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。**

1. スマートフォンに Yamaha Motorcycle Connect アプリをダウンロードして、インストールします。
2. メニューシステムで、“App Applications（アプリケーション）” → “Settings（設定）” → “Connections（コネクション）” → “Bluetooth” に移動します。
3. “Bluetooth” の横に青いチェックマークが付いていることを確認します。そして “Make system discoverable（デバイス検出モード）” を選択します。



4. Yamaha Motorcycle Connect アプリを開き、ペアリングディスプレイに移動します。アプリの指示に従って CCU を検出し、ペアリングし接続します。

要 点

CCU を検出した後、3 分以内にペアリングを完了させないと、ペアリングは失敗になります。失敗した場合は、“Make system discoverable（デバイス検出モード）” を再度選択して再試行してください。

5. 車両のディスプレイに表示されているパスキーが、スマートフォンにも表示されたら、ジョイスティックで “Pair（ペア）” を選択し、“✔” を短押しします。



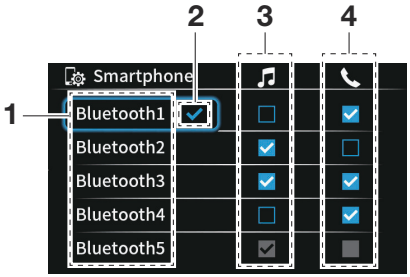
6. スマートフォン側でペアリングを許可すると、Bluetooth の接続が完了し、“Paired device list（登録済みデバイス）” 画面にスマートフォン名が表示さ

れます。

要　点

- パスキーが表示された後、30 秒以内にペアリングを完了させないと、失敗になります。失敗した場合は、“Make system discoverable（デバイス検出モード）”を再度選択して再試行してください。
- 接続されると、メインディスプレイの上部に Yamaha Motorcycle Connect アプリアイコン“App”が点灯します。

7. ペアリングが成功すると、車両のディスプレイが“Paired device list（登録済みデバイス）”に切り替わり、画面にスマートフォン名が表示されます。



1. デバイス名
2. 接続中
3. オーディオ用接続
4. 電話用接続

8. Bluetooth の接続が完了すると、オーディオ／電話／通知／天気の機能が使用可能になります。

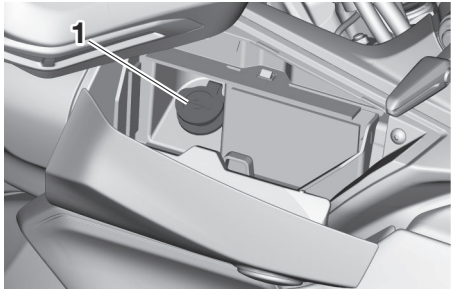


要　点

- 連絡先情報を車両と共有するためのリクエストがスマートフォンに表示されます。CCU へのデータアップロードや通知へのアクセス許可を拒否した場合でも、後でスマートフォンから設定することができます。
- Bluetooth のペアリング履歴がスマートフォンから削除された場合、再度ペアリングを正常に行うには、一度“Paired device list（登録済みデバイス）”から対応するスマートフォン名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- Bluetooth のペアリング履歴が CCU の“Paired device list（登録済みデバイス）”から削除された場合、再度ペアリングを正常に行うには、一度スマートフォンのペアリング履歴からから車両の CCU 名を削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- 車両が Yamaha Motorcycle Connect アプリと初めてペアリングされると、メニューシステムの言語は、アプリで選択された言語に合わせて変更されます。最初にインストールしたとき、アプリはスマートフォンのシステム言語を採用します。言語が CCU で、サポートされていない場合は、自動的に英語が選択されます。

USB 接続

小物入れ内にある USB ジャックにスマートフォンを接続します。（5-50 ページ参照）



1. USB Type-A ジャック

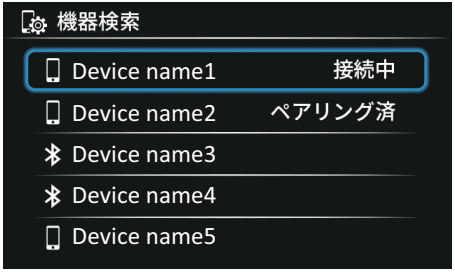
JCA27740

注 意

USB ジャックを傷つけないように注意してください。

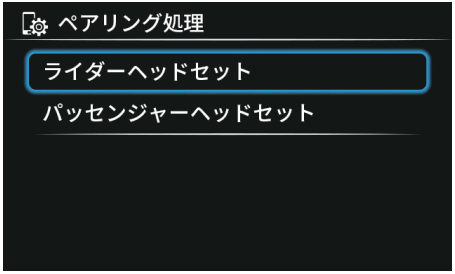
Bluetooth ヘッドセットのペアリング

1. 接続するヘッドセットを Bluetooth で検出可能な設定にします。
2. メニューシステムの次の設定項目に進みます：“App Applications（アプリケーション）” → “設定” → “コネクション” → “Bluetooth” → “機器検索” → “ヘッドセット”

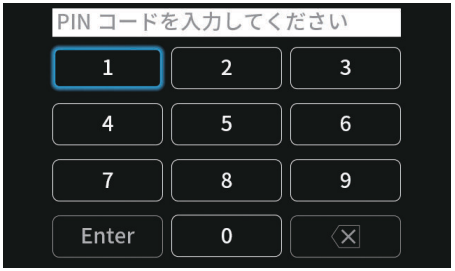


少しおいて、使用できるヘッドセットのデバイス名がリストに表示されます。リストからペアリングするヘッドセットを選択します。

3. ライダーヘッドセットまたはパッセンジャーヘッドセットのいずれかを選択します。



この時点で、一部のヘッドセットではPIN コードの入力が必要になる場合があります。



接続すると、ディスプレイが“登録済みデバイス”に切り替わり、ヘッドセットアイコン“”が表示されます。

要 点

ヘッドセットのペアリング完了後でも、“登録済みデバイス”からライダーまたはパッセンジャーへ設定を切り替えることができます。（5-24 ページ参照）

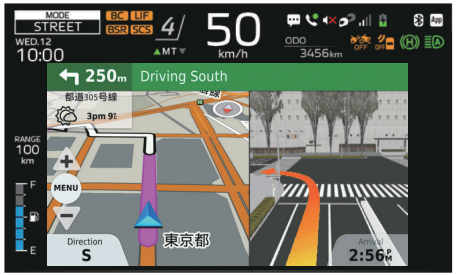
JAUA4900

ナビゲーションシステム：Garmin Motorize

JWA21401

⚠警 告

- **ナビゲーションシステムを操作する場合は、必ず車両を停止してください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**



スマートフォンを車両に接続すると、ナビゲーションアプリによる画像と音声（別途Bluetooth ヘッドセットが必要です）でルート案内するナビゲーションシステムを使用することができます。ナビゲーションシステムの使用には、Yamaha Motorcycle Connect アプリと Garmin 社が提供する Garmin Motorize ナビゲーションアプリをアプリケーションストアからスマートフォンにダウンロードしてください。

ナビゲーションを使用するには、次の準備をしてください。

- スマートフォンを USB ジャックに接続
- Bluetooth で Yamaha Motorcycle Connect アプリを接続
- Bluetooth でヘッドセットを接続（音声ルート案内）

要 点

- Garmin Motorize アプリを使用するには、Garmin Motorize の利用規約に同意する必要があります。
- ヤマハ発動機は、Garmin Motorize アプリの使用に起因するいかなる損害についても責任を負いません。
- 常に Garmin Motorize アプリが画面に表示された状態で使用してください。別のアプリ（電話、アラームなど）が画面に表示された場合、スマートフォンがスリープ状態から自動ロックされ、ナビゲーションアプリ機能が停止する場合があります。
- Garmin Motorize アプリの GPS へのアクセス許可を、スマートフォンの設定で“常に許可”に設定してください。
- Garmin Motorize アプリは、スマートフォンまたは OS バージョンによっては使用できない場合があります。
- iOS のスマートフォンは、Yamaha Motorcycle Connect アプリが起動していなくてもナビゲーションシステムを使用できます。

ナビゲーションシステムの使い方

ナビゲーションシステムは、ジョイスティックとホームボタンを使用して操作します。

- ホームボタン“⌂”を長押しすると、メインディスプレイからナビゲーションシステムが開きます。
- “✔”を短押しすると、ナビゲーションシステムメニューが開きます。
- ジョイスティックを上下に操作すると、地図のズームを調整をします。
- ホームボタン“⌂”を長押しすると、ナビゲーションが終了し、メインディスプレイに戻ります。



ナビゲーションシステムが Garmin Motorize アプリに接続できない場合は、このエラー画面が表示されます。続ける場合は、“OK”を選択し“✔”を短押ししてください。

JAUA5000

電話

この車両は、スマートフォンと Bluetooth ヘッドセットを利用して電話機能を使用することができます。この機能を使用するには、スマートフォンと Bluetooth ヘッドセットのそれぞれを CCU と Bluetooth でペアリングして接続してください。(4-3 ページ参照) 電話機能はジョイスティックとホームボタンを使用して操作します。(5-3 ページ参照)

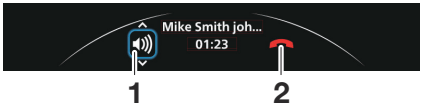
電話を受ける



接続されたスマートフォンに電話がかかってくると、ヘッドセットから着信音が鳴り、ディスプレイ下側に電話機能が表示されます。緑色の電話アイコンを選択し“✔”を短押しして、電話に応答します。通話中は、ディスプレイ右上に電話表示アイコン（緑）“ ”が表示されます。

要　点

着信中にジョイスティックを上下に操作すると、着信音量を調整できます。



1. 音量
2. 通話終了

音量アイコンをハイライト表示し、ジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。通話終了アイコンをハイライト表示し、“✔”を短押しして通話を終了します。



1. 通話音量を調整
2. 通話終了
3. 通話音声の出力先切り替え (Bluetooth ヘッドセット／スマートフォン)

ポップアップメニューを開くと、ディスプレ

イ下側にある電話機能が非表示になりますが、メニューシステムの“ Phone”に移動すると、再度表示されます。通話中にメニューシステムの“ Applications（アプリケーション）” → “電話”に移動すると、通話画面から使用できる機能を選択できます。（5-27 ページ参照）

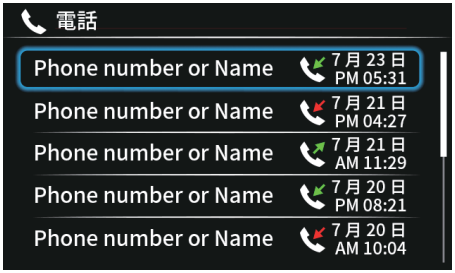
要　点

通話画面をホームボタン“ ”で閉じても、通話は終了しません。

音量アイコンを選択し、ジョイスティックを上下に操作して、通話の音量レベルを調整します。通話終了アイコンを選択し、“✔”を短押しして通話を終了します。

電話をかける

1. メニューシステムの次の設定項目に進みます：“ Applications（アプリケーション）” → “電話”
   通話中ではない場合には、直近の発着信履歴が表示されます。履歴から連絡先を選択し、“✔”を短押しすると通話を開始します。ディスプレイは通話中の画面になります。



2. スマートフォンと CCU を接続している場合でも、スマートフォンから直接電話をかけることができます。スマートフォンから直接電話をかけると、車両のディスプレイ下側に電話機能が表示されます。通話音声は、接続された Bluetooth ヘッドセットから再生されます。

要　点

連絡先情報がスマートフォンから CCU に共有されていない場合、直近の発着信履歴には、スマートフォンが接続されているときに通話した電話番号のみが表示されます。

JWA21420

⚠警 告

- **走行中はスマートフォンを操作しないでください。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**
- **常に道路の状況に注意を払い、運転に集中してください。**
- **周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。**

4

接続エラーが発生したときは

JAUA4100

スマートフォンや Yamaha Motorcycle Connect アプリ、Garmin Motorize アプリと CCU の接続にエラーが発生した場合、以下の画面が表示されます。



“詳細”を選択し、画面の指示に従って接続を確認してください。



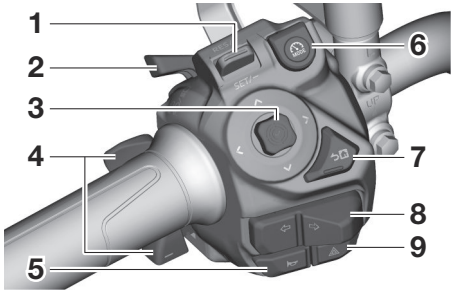
エラーが解消しない場合は、次のことを試してください。

1. 車両の電源をオフにします。30 秒後、電源を再度オンにしてください。
2. USB プラグを抜きます。10 秒後、USB プラグを再度接続してください。
3. スマートフォンの Bluetooth をオフにします。その後、再度オンにしてください。
4. スマートフォンと CCU の両方から Bluetooth のペアリング履歴を削除して、再度ペアリングを行ってください。
5. Yamaha Motorcycle Connect アプリと Garmin Motorize アプリを再起動してください。

ハンドルスイッチ

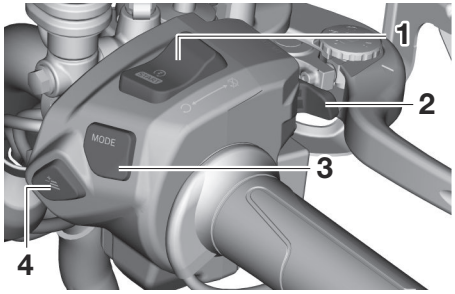
JAU6605B

＜左＞



1. ACC/YVSL 設定スイッチ“RES/+”/“SET/-”
2. ヘッドライトスイッチ“≡D/≡D/≡D/≡Ⓐ”
3. ジョイスティック“✔”
4. シフトレバー
5. ホーンスイッチ“”
6. ACC/YVSL ボタン“MODE”
7. ホームボタン“”
8. 方向指示器スイッチ“⇦/⇨”
9. ハザードスイッチ“⚠”

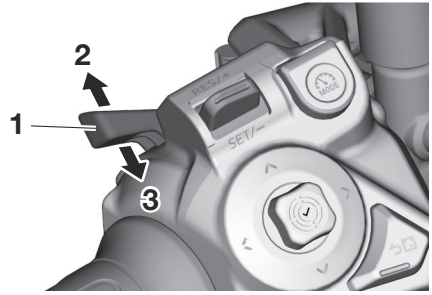
＜右＞



1. スターター／エンジンストップスイッチ“⊗/◠/≋”
2. Y-AMT スイッチ“AT/MT”
3. YRC モードボタン“MODE”
4. ACC 車間設定ボタン“”

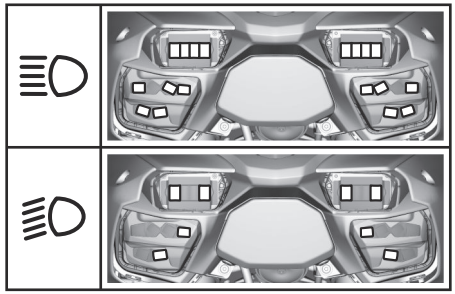
JAUA4373

ヘッドライトスイッチ“≡D/≡D/≡D/≡Ⓐ”



1. ヘッドライトスイッチ“≡D/≡D/≡D/≡Ⓐ”
2. A 方向
3. B 方向

このスイッチを外側（A 方向）に押すとハイビームになります。
スイッチを外側（A 方向）に押したままにすると、アダプティブハイビーム機能がオンになります。
ヘッドライトがハイビーム/アダプティブハイビームに設定されているときに、スイッチを内側（B 方向）に押すとロービームに戻ります。
ヘッドライトがロービームに設定されているときに、スイッチを内側（B 方向）に押している間、ハイビームになります。



JAUA1741

方向指示器スイッチ“⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。軽く押すと

強く押すの 2 種類の使い方があります。
軽く押す : 進路変更する側にスイッチを軽く押します。進路変更する側の方向指示灯が、3 回点滅します。
強く押す : 進路変更する側にスイッチを強く押します。進路変更する側の方向指示灯が、次の条件がすべて満たされるまで点滅し続けます。

- 約 150 m 走行する。
- 15 秒以上経過する。
- 車速が 5 km/h 以上で走行する。

JCA28520

注 意

指定の時間または走行距離以上走行しても方向指示器が自動的にオフにならない場合があります。

方向指示器を手動でキャンセルするには、同じ方向にもう一度スイッチを押します。

JAU66030

ホーンスイッチ“ ”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU94790

スターター／エンジンストップスイッチ“ / / ”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを“ ”に合わせてから、スイッチを“ ”まで押してください。エンジンを始動させる前に、7-1 ページの始動手順を参照してください。
転倒などの非常時に、エンジンをすぐに停止させるには“ ”にします。通常は“ ”にしておきます。“ ”にすると、エンジンは始動できません。

JAU91671

ハザードスイッチ“ ”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます。（全ての方向指示器が点滅します。）
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。
ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、または LOCK にしてもハザードランプは点滅し続けます。
ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAUA5892

アダプティブクルーズコントロール／YVSL スイッチ

アダプティブクルーズコントロールシステムの詳細については、3-11 ページを参照してください。
YVSL の詳細については、3-17 ページを参照してください。

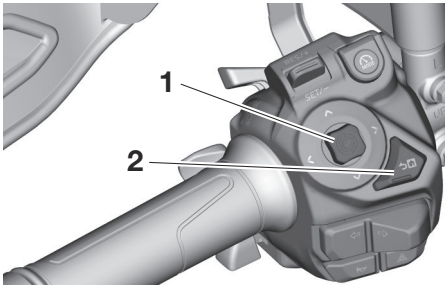
JAUA4382

YRC モードボタン“MODE”

YRC モードを切り替えるときに、このボタンを短押しします。
このボタンを長押しすると、ディスプレイの下部に YRC モードのポップアップが開きます。
YRC モードの詳細については、5-11 ページと 5-33 ページを参照してください。

JAUA4390

ジョイスティック“✔”とホームボタン“⌂”



1. ジョイスティック
2. ホームボタン“⌂”

ディスプレイやメニューシステムを操作するときに使用します。
次の用語を使用してジョイスティックとホームボタンの使い方を説明しています。

短押し	ジョイスティックまたはホームボタンを短く押します
長押し	ジョイスティックまたはホームボタンを 1 秒間押します

メインディスプレイからポップアップメニューを開く

- ホームボタン“⌂”を短押し
- ジョイスティックを左右に操作
- “✔”を短押し

メニューの操作

- ジョイスティックを上下左右に操作すると、メニュー項目の選択および表示をします。
- “✔”を短押しすると、選択した項目が実行されます。
- ホームボタン“⌂”を短押しすると、前の画面に戻ります。
- ホームボタン“⌂”を長押しすると、メニューが閉じます。

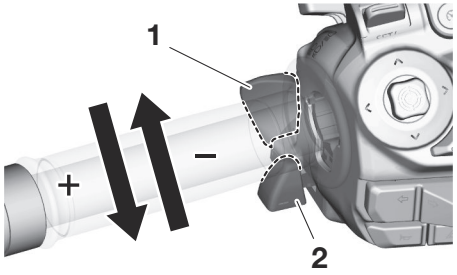
要　点

ナビゲーションシステムが接続されていない場合、ホームボタン“⌂”でナビゲーションのホーム表示に切り替えることはできません。

機能の詳細については、5-10 ページと 5-20 ページを参照してください。

JAUA2720

シフトレバー



1. シフトレバー“+”
2. シフトレバー“–”

シフトレバーは、Y-AMT にギヤチェンジをする信号を送ります。“+”方向に押して放すと、シフトアップします。
“–”方向に押して放すと、シフトダウンします。

JAUA2730

Y-AMT スイッチ“AT/MT”

このスイッチは、Y-AMT モードの“AT”（自動変速）と“MT”（手動変速）を切り替えます。

JAUA5930

警告灯と表示灯



1. タイヤ空気圧警告灯 “(!)”
2. UBS 警告灯 “UBS”
3. エンジン警告灯 “”
4. ニュートラルランプ “N”
5. ハイビーム表示灯 “”
6. 方向指示器表示灯 “” / “”
7. シフトタイミングインジケーターランプ “○”
8. ABS 警告灯 “ABS”
9. スタビリティコントロール表示灯 “SC”
10. スマートキーシステム表示灯 “”
11. Y-AMT 故障表示灯 “”

JAU88680

方向指示器表示灯 “” / “”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU91820

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU88690

ハイビーム表示灯 “”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAUA6940

エンジン警告灯 “”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要　点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要　点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。
- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2 センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リアブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーなどの行

為はしないでください。

JAUA5940

Y-AMT 故障表示灯 “ ”

Y-AMT システムに異常が発生したとき、この表示灯が点灯または点滅します。
表示灯が点滅している場合、車両を運転することはできますが点検が必要になります。ヤマハ販売店で点検を受けてください。
表示灯が点灯したままの場合は、エンジンを始動したり、車両を運転したりしないでください。
走行中に Y-AMT 故障表示灯が点灯したときは、Y-AMT システムが正常に作動していないおそれがあります。

- 使用中のギヤからギヤチェンジできなくなる場合があります。
- この場合、クラッチがつながったままになっているため、停車の際に振動を感じる場合があります。

安全を確認して車両を停止し、交通の妨げにならない場所に駐車してください。Y-AMT システムの点検はヤマハ販売店にご依頼ください。

要　点

ギヤチェンジができない場合は、8-18 ページに記載されている方法を使用してニュートラルにギヤチェンジし、車両を移動できるようにしてください。

車両の電源をオンにすると、Y-AMT 故障表示灯 “ ” が数秒間点灯し、その後消灯します。
表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU92700

ABS 警告灯 “ ”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

要　点

警告灯が点灯しなかったり、走行中に警告灯が点灯する場合は直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

JWA21120

⚠ 警 告

5 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき:

- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

JAUA6631

UBS 警告灯 “ ”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、時速 5km 以上で走行すると消灯します。また、BC（ブレーキコントロール）をオフにすると警告灯が点灯します。走行中に UBS 警告灯が点灯したときは、前後アシスト UBS、レーダー連携 UBS が正しく作動していないおそれがあります。

JWA22551

⚠ 警 告

以下の場合は、直ちにヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

- **車両の電源をオンにしても UBS 警告灯が点灯しないとき**
- **5 km/h 以上の速度で走行しても UBS 警告灯が消灯しないとき**
- **BC（ブレーキコントロール）が ON で走行中に UBS 警告灯が点灯したとき**

JAUA2750

シフトタイミングインジケーターランプ“○”

シフトアップのタイミングをお知らせします。ランプが点灯または消灯するエンジン回転数や点灯に関する設定を、ポップアップメニューで調整することができます。（詳しくは 5-37 ページを参照してください。）

要　点

- シフトタイミングインジケーターランプは、ギヤが“AT”モードまたはニュートラルもしくは 6 速の場合は作動しません。
- 車両の電源をオンにしたとき、インジケーターランプが数秒間点灯し、その後消灯します。インジケーターランプが全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU78086

スマートキーシステム表示灯“ ”

車両とスマートキーとの通信が確立しているとき、またスマートキーに関連する操作が行われたとき、この表示灯が点滅します。スマートキーシステムにエラーが発生したときも、表示灯が点滅します。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が点灯しない場合や消灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAUA4940

スタビリティコントロール表示灯“SC”

TCS（トラクションコントロールシステム）がオフに設定されている場合は、この表示灯が点灯します。

走行中に TCS（トラクションコントロールシステム）、SCS（スライドコントロールシステム）、LIF（リフトコントロールシステム）、または BSR（バックスリップレギュレーター）が作動すると、この表示灯が点滅します。

要　点

車両の電源をオンにすると、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA28471

注 意

IMU の初期化を妨げる可能性があるため、車両の電源をオンにするときは、車両を動かしたり振動を与えたりしないでください。IMU の初期化不良が発生した場合、IMU が正常に初期化されるまでトラクションコントロールシステムは作動せず、スタビリティコントロール表示灯 “SC” が点灯します。

JAUA4161

タイヤ空気圧警告灯“ ”

タイヤの空気圧が低いと検知された場合、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、できるだけ早く車両を停止し、タイヤを点検してください。

JWA23050

⚠ 警 告

適切なタイヤ空気圧にしないと制御不能となり、事故につながる可能性があります。

センサーのバッテリーが放電したとき、または故障が検出されたとき、警告灯が点滅します。警告灯が点滅したときは、ヤマハ販売店に車両の点検を依頼してください。

要　点

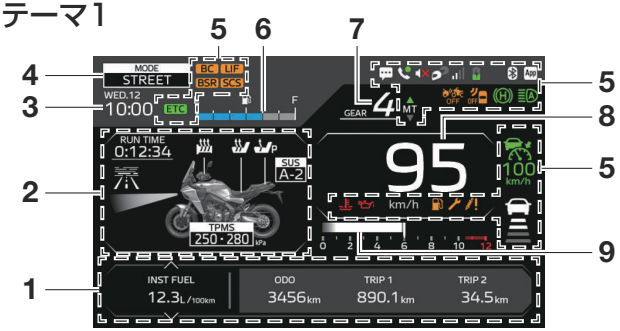
- 車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や消灯しない場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- TPMS が無効になっていると、タイヤ空

気圧警告灯はいかなる場合も点灯／点滅しなくなり、インフォメーションディスプレイの空気圧情報は表示されなくなります。

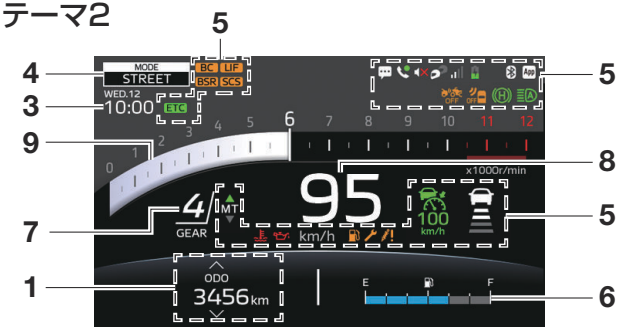
JAUA1864

ディスプレイ

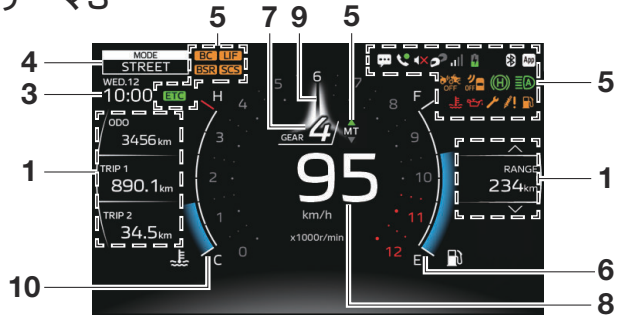
テーマ1



テーマ2



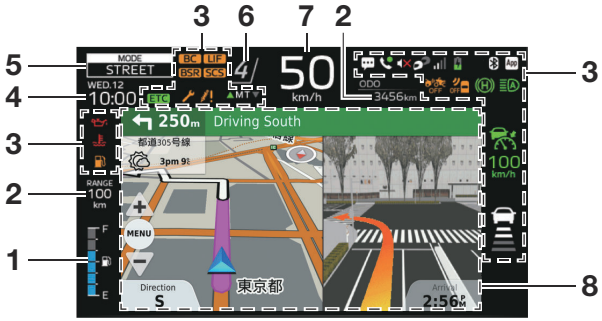
テーマ3

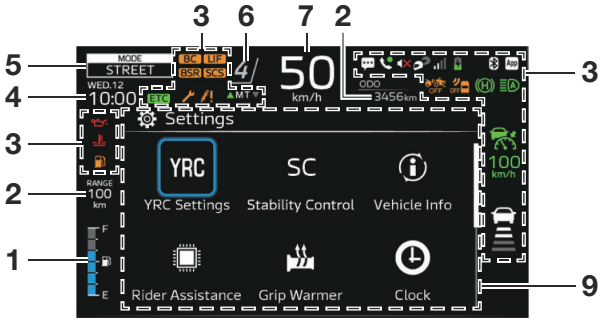


1. インフォメーションディスプレイ
2. ステータスディスプレイ
3. 時計
4. YRC モードディスプレイ
5. 警告灯と表示灯
6. 燃料計
7. ギヤポジションディスプレイ
8. スピードメーター
9. タコメーター
10. 水温計

メニューシステムまたはナビゲーション機能の使用中

メニューシステムまたはナビゲーション機能を開いている場合、ディスプレイの情報は図のように表示されます。





1. 燃料計
2. インフォメーションディスプレイ
3. 警告灯と表示灯
4. 時計
5. YRC モードディスプレイ
6. ギヤポジションディスプレイ
7. スピードメーター
8. ナビゲーション
9. メニューシステム

JAUA5658

要　点

- ディスプレイ画面の明るさは、メニューシステムの設定で調整できます。(5-32 ページ参照)
- ディスプレイ画面が高温になると、損傷を避けるために自動的に暗くなり、明るさ調整もできなくなります。
- このモデルは TFT 液晶により、様々な光源下での良好なコントラストおよび見やすさを実現しています。場合によっては少し見えにくい部分が出ることもあります。
- 表示単位は、メニューシステムの“⚙ Settings”→“Unit”から、変更できます。(5-31 ページ参照)
- 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

ディスプレイシステムの操作

ディスプレイはジョイスティック／“✔”とホームボタン“⮌⌂”で操作できます。(5-3 ページ参照) それぞれの操作には、さまざまな状況に応じた機能があります。詳細については、以下をご確認ください。

ジョイスティックを上下左右に操作

メインディスプレイの場合 : 上下に動かすと、インフォメーションディスプレイに表示される項目が切り替わります。左右に動かすとメニューシステムが開きます。

ナビゲーションディスプレイの場合 : 地図のズーム調整をします。

YRC モードのポップアップ表示の場合 : YRC の項目をハイライト表示し、調整をします。

メニューシステム表示の場合 : さまざまなメニュー項目をハイライト表示し、調整をします。

“✔”を短押し

メインディスプレイの場合 : メニューシステムを開きます。

ナビゲーションディスプレイの場合 : ナビゲーションメニュー画面を開きます。

メニューシステム表示の場合 : ハイライト表示されたメニュー項目を選択します。

“✔”を長押し

メインディスプレイの場合 : オーディオなどの音量をミュート（消音）します。

ホームボタン“⮌⌂”を短押し

メインディスプレイまたはナビゲーションディスプレイの場合 : メニューシステムを開きます。

メニューシステム表示の場合 : キャンセルまたは前の画面に戻ります。

ホームボタン“⮌⌂”を長押し

メインディスプレイの場合 : ナビゲーションディスプレイに切り替わります。

ナビゲーションディスプレイの場合 : メインディスプレイに切り替わります。

メニューシステム表示の場合 : 直前に開いていたメインディスプレイまたはナビゲーションディスプレイに戻ります。

時計

この時計は 12 時間表示です。時刻はスマートフォンを接続すると自動的に更新されますが、メニューシステムの“⚙ Settings”→“Clock”から手動設定することもできます。(5-33 ページ参照)

スピードメーター

車両の速度を示します。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン: 10500 r/min 以上

ギヤポジションディスプレイ
選択しているギヤポジションが表示されます。この車は 6 段変速です。ギヤがニュートラルのときは、ニュートラルランプ“N”が点灯し、ギヤポジションディスプレイに“N”が表示されます。

燃料計
フューエルタンク内の燃料残量を示します。燃料が減るにつれて、表示セグメントが“F”（満）から“E” （空）に向けて減っていきます。 最後のセグメントが点滅を始めたときは、速やかに給油してください。

JCAE0121

注 意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

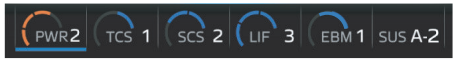
水温計（テーマ 3 の場合）
冷却水の温度は、天候やエンジン負荷によって変化します。冷却水の温度が上限を超えると、水温計が点滅を始めます。水温計が点滅したときは、車両を停車させエンジンを冷ましてください。

YRC モードディスプレイ
YRC モードディスプレイは、“SPORT”、“STREET”、“RAIN”、“CUSTOM 1”、“CUSTOM 2”、“D+”、“D”のうち、どの YRC モードが選択されているか表示されます。
YRC モードボタン“MODE”で選択し、メニューシステムでカスタマイズできます。(5-33 ページ参照)

要 点

- 使用可能な YRC モードは、現在の Y-AMT モード (“AT” / “MT”) によって異なります。
- “CUSTOM 1”、“CUSTOM 2”、“D+”、“D” は、Yamaha Motorcycle Connect アプリから名前をカスタマイズすることができます。

YRC モードポップアップディスプレイ



YRC モードボタン“MODE”を長押しすると、画面下部に YRC モード（ポップアップ）が表示されます。YRC モード（ポップアップ）が開いている間に、YRC モードボタン“MODE”を短押しして項目を切り替え、ジョイスティックを使用して個々の項目を調整します。

要 点

選択した YRC モードがカスタマイズ可能な場合、ジョイスティックを使用して“PWR”、“TCS”、“SCS”、“LIF”、“EBM”、“SUS”のハイライト表示された項目を調整できます。

YRC モードの詳細は、3-21 ページを参照してください。

インフォメーションディスプレイ
インフォメーションディスプレイには、表示画面に応じて、次の項目から選択し表示するように設定できます。

- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)
- 平均燃費 (AVG FUEL)
- 瞬間燃費 (INST FUEL)
- 航続可能距離 (RANGE)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)
- 気温計 (AIR)
- 水温計 (COOLANT)
- 平均速度 (AVG SPEED)
- 走行時間 (TRIP TIME)
- 稼働時間 (RUN TIME)
- 前輪タイヤ空気圧 (TIRE FRONT)
- 後輪タイヤ空気圧 (TIRE REAR)

ジョイスティックを上下に操作して、表示される項目を切り替えます。
それぞれのテーマで表示されるお気に入り項目は、メニューシステムの “⚙ Settings” → “Vehicle Info” からカスタマイズできます。(5-38 ページ参照)
お気に入りに設定した項目は、ナビゲーションディスプレイやその他の設定画面 (最小化表示) の上部にも 1 つずつ表示されます。
ナビゲーションディスプレイで、メニューシステムの “ⓘVehicle Info” をハイライト表示させて、ジョイスティックを上下に操作すると、画面上部の情報表示を変更することができます。

要　点

Garmin Motorize が接続されていない場合、最小化された表示でインフォメーションディスプレイのお気に入りを切り替えることはできませんが、メニューシステムの “⚙ Settings” → “Vehicle Info” から変更できます。

インフォメーションディスプレイの表示項目をリセットするには



メニューシステムから、“ⓘ Vehicle Info” を選択します。(5-21 ページ参照) インフォメーションディスプレイの項目に青いハイライトが表示されます。ジョイスティックを使用してハイライトされた項目を変更します。項目が点滅している場合は、“✔” を長押ししてリセットします。

オドメーター (ODO)
車両の総走行距離が表示されます。

要　点

オドメーターは最大値 999999 で固定され、リセットできません。

トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)
“TRIP 1” と “TRIP 2” は、ゼロにリセットされてからの走行距離が表示されます。
“TRIP 1” と “TRIP 2” は、9999.9 に到達するとゼロにリセットされ、カウントを続けます。

平均燃費 (AVG FUEL)
表示単位がキロメートルの場合、平均燃費は “km/L” または “L/100km” に設定できます。(5-31 ページ参照)
表示単位がマイルの場合、平均燃費は “MPG” で表示されます。

瞬間燃費 (INST FUEL)
表示単位がキロメートルの場合、瞬間燃費は “km/L” または “L/100km” に設定できます。(5-31 ページ参照)
表示単位がマイルの場合、瞬間燃費は “MPG” で表示されます。

航続可能距離 (RANGE)
現在の走行状況と燃料残量を考慮し、走行可能距離の予測値を表示します。

要　点

燃料タンクの予備レベルに達すると、“TRIP F” に置き換えられます。

フューエルトリップメーター (TRIP F)
燃料タンクの予備レベルに達すると、“TRIP F” が表示され、その時点からの走行距離の記録を開始します。フューエルトリップメーターは、給油後ある程度の距離を走行すると自動的にリセットされます。

要　点

フューエルトリップメーターが無効な場合は、“RANGE” に置き換えられます。

気温計 (AIR)
気温を、-9 °C から 50 °C まで 1 °C 刻みで表示されます。表示される温度は走行状態によって車両温度の影響を受けるため、実際の外気温と異なる場合があります。

要　点

- 計測された気温が -9 °C 未満の場合、“---” と表示されます。
- 計測された気温が 50 °C 以上の場合、“---” と表示されます。

水温計 (COOLANT)
冷却水の温度を、-30 °C から 130 °C まで 1 °C 刻みで表示されます。

要　点

- 冷却水の温度が -30 °C 未満の場合、“-30” と表示されます。
- 冷却水の温度が上限に達した場合、“Hi” と表示されます。

平均速度 (AVG SPEED)
最後にリセットしてからの平均速度を表示します。

走行時間 (TRIP TIME)
最後にリセットしてからのエンジンの稼働時間を表示します。

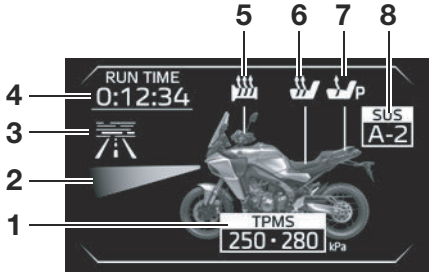
稼働時間 (RUN TIME)
最後にエンジンを始動してからのエンジン稼働時間を表示します。

前輪／後輪タイヤ空気圧 (TIRE FRONT / TIRE REAR)
TPMS によって検出された前輪または後輪の現在のタイヤ空気圧を表示します。

要　点

- 車両の電源をオンにすると、車両が動き出すまでタイヤ空気圧は、“---” “---” と表示されます。
- タイヤの空気圧は、 5 刻みで表示されます。

ステータスディスプレイ（テーマ 1）



1. 前輪／後輪タイヤ空気圧ディスプレイ “TPMS”
2. ヘッドライトステータスインジケーター
3. マトリクス LED ヘッドライト検知ステータスインジケーター
4. 稼働時間 “RUN TIME”
5. グリップウォーマーアイコン “♨”

6. シートヒーターアイコン“ ”（装備している場合）
7. パッセンジャーシートヒーターアイコン“ P”（装備している場合）
8. 電子制御サスペンションモードディスプレイ“SUS”

テーマ1には、下記の項目をビジュアルで表示させるステータスディスプレイがあります。

- 稼働時間“RUN TIME”
- グリップウォーマーアイコン“ ”
- シートヒーターアイコン“ ”（装備している場合）
- パッセンジャーシートヒーターアイコン“ P”（装備している場合）
- 電子制御サスペンションモードディスプレイ“SUS”
- 前輪／後輪タイヤ空気圧ディスプレイ“TPMS”
- ヘッドライトステータスインジケーター
- マトリクス LED ヘッドライト検知ステータスインジケーター

稼働時間“RUN TIME”

最後にエンジンを始動してからのエンジン稼働時間を表示します。

グリップウォーマーアイコン“ ”

グリップウォーマーは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。3 つの温度設定があり、それぞれが 10 段階の温度レベル間で調節できます。（5-29 ページ参照）

アイコンには、現在の設定状況が表示されます。

：切
：低
：中
：高

JCA17932

注 意

- **グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。**
- **暖かい日は、グリップウォーマーを使用しないでください。**
- **ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。**

シートヒーターアイコン“ ”（装備している場合）

シートヒーターは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。3 つの温度設定があり、それぞれが 10 段階の温度レベル間で調節できます。（5-29 ページ参照）

アイコンには、現在の設定状況が表示されます。

：切
：低
：中
：高

JCA23980

注 意

- **シートヒーターを使うときは、臀部や脚部を保護できる衣類を着用してください。**
- **外気温が 20°C 以上のときは、シートヒーターを高設定にしないでください。**
- **シートが擦り切れたり傷んだりしてきたときは、シートヒーターの使用を中止して、シートを交換してください。**

パッセンジャーシートヒーターアイコン“ P”（装備している場合）

シートヒーターは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。3 つの温度設定があり、それぞれが 10 段階の温度レベル間で調節できます。（5-29 ページ参照）

アイコンには、現在の設定状況が表示されま

す。

：切
：低
：中
：高

JCA23980

注 意

- **シートヒーターを使うときは、臀部や脚部を保護できる衣類を着用してください。**
- **外気温が 20°C 以上のときは、シートヒーターを高設定にしないでください。**
- **シートが擦り切れたり傷んだりしてきたときは、シートヒーターの使用を中止して、シートを交換してください。**

電子制御サスペンションモードディスプレイ “SUS”

現在選択されている YRC モードの “SUS” 設定を表示します。(5-35 ページ参照)

前輪／後輪タイヤ空気圧ディスプレイ “TPMS”

TPMS によって測定されたタイヤ空気圧が表示されます。左側の数字は前輪タイヤの空気圧、右側の数字は後輪タイヤの空気圧を示します。

要 点

- 車両の電源をオンにすると、車両が動き出すまでタイヤ空気圧は、“---” と表示されます。
- タイヤの空気圧は、 5 刻みで表示されます。

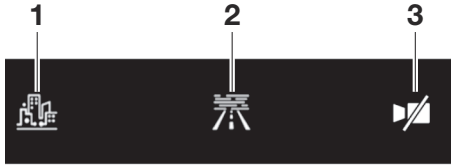
ヘッドライトステータスインジケーター



1. ロービーム（下向き）
2. ハイビーム（上向き）

ヘッドライトのハイビーム／ロービームの状態を示します。また、アダプティブハイビームのハイビーム／ロービームの状態を示します。

マトリクス LED ヘッドライト検知ステータスインジケーター



1. 市街地
2. 霧
3. カメラ検出エラー

アダプティブハイビームがロービームに切り替わる原因となる、検出されている状態を示します。

ACC／YVSL 画面



1. ACC/YVSL ディスプレイ

テーマ 3 : ACC または YVSL システムが作動中またはスタンバイ状態では、右側のインフォメーションディスプレイは ACC/YVSL ディスプレイが表示されます。



1. ACC/YVSL ディスプレイ

要　点

ACC システムの詳細については、 3-11 ページを参照してください。
YVSL システムの詳細については、 3-17 ページを参照してください。

ACC アイコン “ ” / “ ” / “ ”
ACC システムがスタンバイ状態の場合、点灯します。また、ACC システムが作動中（クルージング中）の場合は緑色、異常がある場合はオレンジ色に点灯します。

要　点

このアイコンがオレンジ色に点灯した場合は、ヤマハ販売店に車両の点検を依頼してください。

YVSL アイコン “ ” / “ ” / “ ”
YVSL システムがスタンバイ状態の場合、点灯します。また、YVSL が作動中の場合は緑色、異常がある場合はオレンジ色に点灯します。

要　点

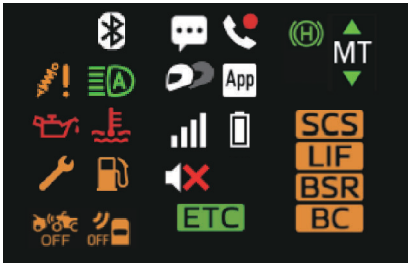
このアイコンがオレンジ色に点灯した場合は、ヤマハ販売店に車両の点検を依頼してください。

速度設定アイコン “ 100 km/h ” / “ 100 km/h ”
ACC システムまたは、YVSL システムに現在設定している速度を表示します。
100 km/h : 速度が設定され、システムはスタンバイ状態です。
100 km/h : 速度が設定され、システムは作動中です。
--- km/h : 速度が設定されていません。

先行車捕捉アイコン “ ”
ACC システムが先行車を捕捉すると点灯します。

車間設定アイコン “ ”
ACC システムに現在設定している先行車との追従距離を示します。
（バー 1 本）：最短
（バー 2 本）：短
（バー 3 本）：長
（バー 4 本）：最長

警告灯と表示灯



低燃料警告灯 “ ”
フューエルタンク内の燃料残量が約 3.7 L 以下になると点灯します。

水温警告灯 “ ”
エンジン冷却水温が高温になると、点灯します。車両を停止させてエンジンをオフにし、エンジンを冷やしてください。

JCA10022

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けないでください。

油圧警告灯 “ ”
エンジン運転中に油圧が低下すると、点灯します。車両の電源をオンにした直後はエンジンの油圧がまだ上がっていないため、エンジンが始動するまで表示されます。

要 点

異常が検知されると、繰り返し点滅します。

JCA26410

注 意

油圧が低下している場合、エンジンの使用を続けないでください。

補助システム警告灯 “ ”
エンジン以外のシステムに異常が検知されると、点灯します。

Y-AMT アイコン “AT” / “MT”
Y-AMT の状況がアイコンと矢印で表示されます。
AT：自動変速モード
MT：マニュアル変速モード
▲：現在シフトアップできません。
▼：現在シフトダウンできません。
▲：シフトアップが可能です。
▼：シフトダウンが可能です。

要 点

Y-AMT の詳細は、3-25 ページを参照してください。

FCW オフアイコン “ ”
メニュー システムで FCW（フォワードコリジョンワーニング）がオフに設定されている場合に点灯します。（5-39 ページ参照）

要 点

- TCS（トラクションコントロールシステム）がオフに設定されている場合も点灯します。
- FCW がオンのときに、このアイコンが点灯している場合は、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。

BSD オフアイコン “ ”
メニューシステムで、BSD（ブラインドスポットディテクション）がオフに設定されている場合に点灯します。（5-39 ページ参照）

要 点

- TCS（トラクションコントロールシステム）がオフに設定されている場合も点灯します。
- BSD がオンのときに、このアイコンが点灯している場合は、ヤマハ販売店に点検を依頼してください。

VHC アイコン “Ⓗ” と VHC オフアイコン “Ⓝ”
VHC アイコン “Ⓗ” は、VHC（ビークルホールドコントロール）が車両を保持するためにブレーキを使用している場合に緑色に点灯します。
VHC オフアイコン “Ⓝ” は、メニュー システムで VHC がオフに設定されている場合に点灯します。（5-40 ページ参照）

要 点

メニューシステムで VHC をオフに変更していないときに、VHC オフアイコン “Ⓝ” が点灯している場合は、ヤマハ販売店に点検

を依頼してください。

SCU 警告灯 “”
前後サスペンションに異常が検知されると、点灯します。

ネットワーク接続アイコン “”
接続されているスマートフォンのネットワーク接続状態を示します。
アイコンなし：スマートフォンが接続されていません。
：スマートフォンは接続されていますが、ネットワークに接続されていません。
：スマートフォンが接続されており、ネットワークに接続されています。アイコンのセグメントは電波の強度を示します。

スマートフォンのバッテリー残量レベルアイコン “”
接続されているスマートフォンのバッテリー残量レベルを示します。
アイコンなし：スマートフォンが接続されていません。
：中央のバーが上下に動き、バッテリーの残量を示します。
：スマートフォンは充電中です。

Bluetooth 接続アイコン “”
Bluetooth 接続状態を示します。
アイコンなし：車両の Bluetooth 機能が使用不可になっています。
：車両の Bluetooth 機能は使用可能ですが、スマートフォンに接続されていません。
：車両の Bluetooth 機能が使用可能で、スマートフォンが接続されています。

ヘッドセットアイコン “”
Bluetooth ヘッドセットが車両に接続されると表示されます。ヘッドセットの接続をライダーとパッセンジャーで変更した場合と、2 つ同時に接続した場合に、アイコンが変わります。

Yamaha Motorcycle Connect アプリアイコン “”
Yamaha Motorcycle Connect アプリが車両に正常に接続されると表示されます。
：接続しているスマートフォンが高温になるとアイコンが黄色に変わります。

要　点

ディスプレイと CCU の間に通信エラーが発生した場合、アイコンが点滅します。

オーディオのミュートアイコン “”
オーディオがミュート（消音）になっている場合に表示されます。

電話アイコン “” / “”
通話中は緑色、不在着信があった場合は赤色のアイコンが表示されます。メニューシステムの “ Applications” → “電話” から直近の発着信履歴を開くと、不在着信のアイコンは消灯します。

通知アイコン “”
接続されているスマートフォンが SNS やメールなどの通知を受信したときに表示されます。車両の電源をオフにするまでアイコンは点灯したままになります。メニューシステムの “ Applications” → “通知” から通知を確認すると、アイコンは消灯します。

要　点

- この機能は、スマートフォンの Yamaha Motorcycle Connect アプリが CCU に接続されている場合にのみ使用できます。
- 通知を表示するには、スマートフォンで Yamaha Motorcycle Connect アプリが通知にアクセスすることを許可する設

定が必要になります。

ETC アイコン “ETC” （装備している場合）
ETC 車載器を接続すると、車載器の状態が表示されます。
車載器が利用できる時は緑色、利用できない時は赤色で “ETC” が表示されます。

BC 表示灯 “BC”
“BC”（ブレーキコントロール）が無効になっている場合、点灯します。

JCA28551

注 意

IMU の初期化を妨げる可能性があるため、車両の電源をオンにするときは、車両を動かしたり振動を与えたりしないでください。IMU の初期化不良が発生した場合、IMU が正常に初期化されるまでブレーキコントロールシステムは作動せず、BC 表示灯 “BC” が点灯します。

SCS 表示灯 “SCS”
“SCS”（スライドコントロールシステム）が無効になっている場合、点灯します。

LIF 表示灯 “LIF”
“LIF” （リフトコントロールシステム）が無効になっている場合、点灯します。

BSR 表示灯 “BSR”
“BSR”（バックスリップレギュレーター）が無効になっている場合、点灯します。

アダプティブハイビームアイコン “AHB” / “AHB”
アダプティブハイビームが作動中の場合、このアイコンは緑色に点灯します。異常がある場合はオレンジ色に点灯します。

メッセージポップアップ



1. メッセージポップアップ

ディスプレイの下部にさまざまなメッセージがポップアップ表示されます。これらは 10 秒後に消えるか、“✔” または、ホームボタン “⌂” を短押しすると手動で表示を消すことができます。

要 点

メッセージのデフォルト言語は英語ですが、Yamaha Motorcycle Connect アプリの言語設定で変更することができます。

後輪ブレーキ高温



ACC システムが連続して作動した場合に、後輪ブレーキが過熱すると、表示されます。

タンクキャップが開いています



燃料タンクのキャップが開いた状態で車両の電源をオンにすると、表示されます。

速度が速すぎる／遅すぎる



車速が ACC システムを起動するには遅すぎたり、速すぎる場合に表示されます。

ACC 自動解除（高速／低速）



車両のクルージングスピードが現在のギアに対して遅すぎたり、速すぎる場合に表示されます。

ACC 自動解除（低速シフトアップ）



車両がシフトアップしたが、クルージングスピードが新しいギアに対して遅すぎる場合に表示されます。

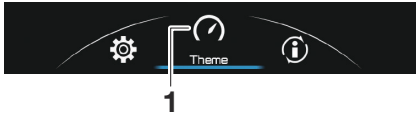
スマートキー電池残量低下



スマートキーのバッテリー残量が少なくなると、このメッセージが表示されます。

JAUA5677

ポップアップメニューシステム



1. ポップアップメニュー

この車両のメニューシステムは、左側のハンドルバーにあるジョイスティックとホームボタンで操作できます。（5-3 ページ参照）

メインディスプレイからポップアップメニューを開く

- ホームボタン“ ”を短押し
- ジョイスティックを左右に操作
- “✔”を短押し

メニューの操作

- ジョイスティックを上下左右に操作すると、メニュー項目の選択および表示をします。
- “✔”を短押しすると、項目が実行されます。
- ホームボタン“ ”を短押しすると、前の画面に戻ります。

- ホームボタン“ ”を長押しすると、メニューが閉じます。

要　点

- メニューアイコンに“ ”（矢印）が表示されたときは、ジョイスティックを矢印の方向に操作すると、選択した機能の表示ができます。
- 一部のメニューページや項目は、“ ”（戻る）/ “ ”（進む）が表示されます。その場合、ジョイスティックを指示された方向に操作し、メニューを移動することができます。
- 車両が走行中の場合、ポップアップメニューの“ Settings”は、グレーに表示されます。

ポップアップメニューには、次の主な機能があります。

Theme	ディスプレイのビジュアルテーマを選択します。(5-21 ページ参照)
Vehicle Info	インフォメーションディスプレイの各項目のリセットと表示切替をします。(5-21 ページ参照)
Music	ポップアップ オーディオプレーヤーを表示します。(5-21 ページ参照)
Applications	スマートフォンのアプリケーションメニューを表示します。(5-22 ページ参照)
Phone（着信時と通話中のみ）	通話するための電話機能を表示します。(5-28 ページ参照)
Windscreen	ウインドスクリーンを上下に調整します。(5-29 ページ参照)
Grip Warmer	グリップウォーマーを操作します。（5-29 ページ参照）
Seat Heater（装備している場合）	シートヒーターを操作します。（5-29 ページ参照）
P Seat Heater（装備している場合）	パッセンジャーシートヒーターを操作します。(5-29 ページ参照)
Settings	車両の操作に関連する設定を変更します。(5-30 ページ参照)

Theme



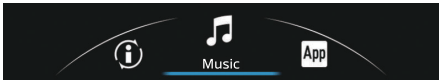
ジョイスティックを上下に操作することで、メインディスプレイのビジュアルテーマを変更することができます。

Vehicle Info



インフォメーションディスプレイの各項目のリセットと表示切替ができます。(5-11 ページ参照)

Music

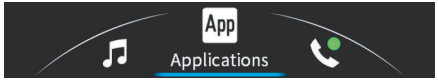


矢印で強調表示されている間、ジョイスティックを上下に操作すると、それに応じてオーディオの音量が調整できます。



“✔” を短押しすると、簡易版のオーディオプレーヤーが開きます。完全版のオーディオ プレーヤーは、 “App Applications” → “オーディオ” から利用できます。(5-22 ページ参照)
ジョイスティックを上下に操作して音量を調節します。ジョイスティックを左右に操作すると、前後の曲へスキップします。“✔” を短押しすると、再生/一時停止します。

App Applications



このメニューから、スマートフォンやヘッドセットの接続、設定ができます。

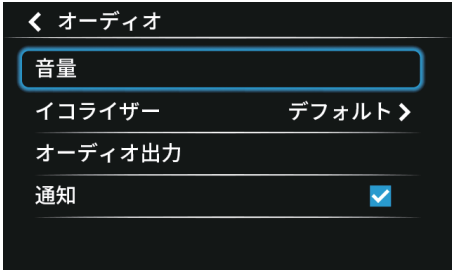


設定	CCU 設定（Audio / 接続 / システム）
オーディオ	フルオーディオプレーヤー
電話	電話機能
通知	スマートフォン通知機能
天気	気象情報に関する機能

要　点

- アイコンの順序は、Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用して整理することができます。
- CCU 接続が確立されていないアプリケーションのアイコンはグレー表示されます。

App Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ



接続されている Bluetooth ヘッドセットの音量レベルを調節できます。“通知” はアラート音のオン／オフを選択できます。

要　点

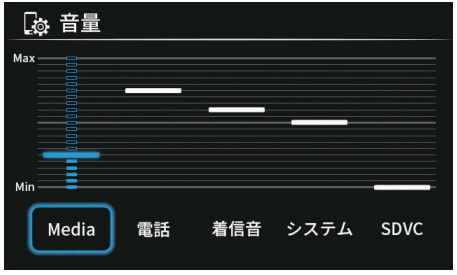
- ここで音量レベルを調節しても、接続されているスマートフォン側の音量設定は変更されません。音量レベルが大きすぎる場合や小さすぎる場合は、スマートフォンやヘッドセットの音量設定を確認してください。
- 通知音と着信音はスマートフォン側で設定されます。

App Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ → 音量

JWA21430

⚠警　告

周辺の状況へ注意を払い、安全を確保するために音量レベルを十分にさげてください。



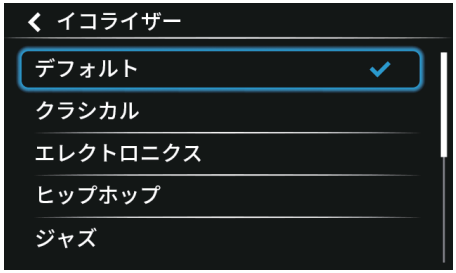
各機能の音量設定が調節できます。
Media：オーディオプレーヤーの音量（20 段階）
電話：通話音量（20 段階）

要　点

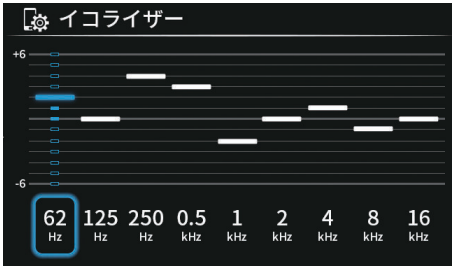
通話音量はポップアップメニューの電話機能でも調整できます。（5-28 ページ参照）

着信音：着信音の音量（10 段階）
システム：スマートフォンのシステム音量（10 段階）
SDVC：車速連動音量調節 (SDVC) は、走行速度に応じて音量を自動的に調整する機能です。（低／中／高／オフ）

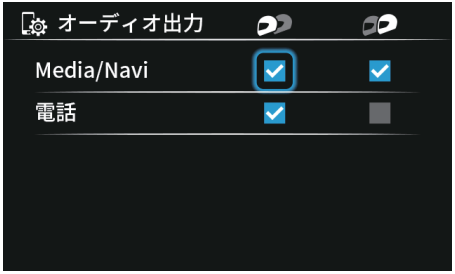
Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ → イコライザー



オーディオ出力を、いろいろなイコライザープリセットから選択できます。プリセットされた出力レベルはジョイスティックで変更でき、“✔”を短押しすると確認できます。既存のプリセットを変更すると、“カスタマイズ”に保存されます。



Applications（アプリケーション）→ 設定 → オーディオ → オーディオ出力



Bluetooth ヘッドセットを接続すると、“”／“”がディスプレイ上部に表示されます。ここでは、Media/Navi と電話の音声出力先を、ライダーヘッドセット“”とパッセンジャーヘッドセット“”とで切り替えすることができます。

要　点

電話の音声出力先として、一度に選択できるヘッドセットは 1 つだけです。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション



Bluetooth と Yamaha Motorcycle Connect アプリへの接続が設定ができます。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション → Bluetooth

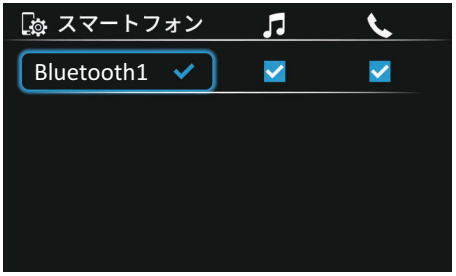


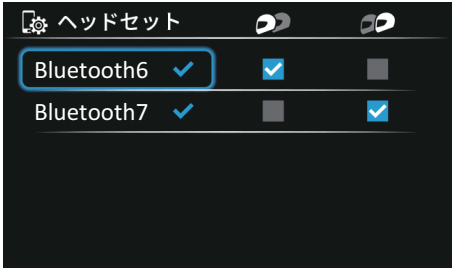
スマートフォンとヘッドセットへのBluetooth 接続の設定ができます。Bluetooth デバイスのペアリングと接続の手順については、4-3 ページと 4-5 ページを参照してください。

要　点

“Bluetooth 自動接続”が有効になっている場合、CCU は過去にペアリングされた利用可能な登録済みデバイスに自動的に接続します。“Bluetooth 自動接続”が無効になっている場合は、“登録済みデバイス”でリストから接続したいデバイスを選択し、手動で接続する必要があります。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → コネクション → Bluetooth → 登録済みデバイス





過去にペアリングされたデバイスのリストが表示されます。接続されると、デバイス名の横に青いチェックマークが表示されます。スマートフォンからの音声は、オーディオと電話とで選択できます。

Bluetooth ヘッドセットは、ライダーとパッセンジャーとで切り替えることができます。

デバイス名を選択すると、そのデバイスの選択肢が表示されます。



選択したデバイスの接続（Bluetooth が有効な範囲内にある場合）、切断、またはペアリング履歴を削除できます。

要　点

- Bluetooth のペアリング履歴をスマートフォンから削除した場合、再度ペアリングするには、対応するペアリング履歴を“登録済みデバイス”から削除した後に、あらためてペアリングを行ってください。
- Bluetooth のペアリング履歴を“登録済みデバイス”から削除した場合、再度ペアリングするには、対応するペアリング履歴をスマートフォンから削除した後に、あら

ためてペアリングを行ってください。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → システム情報

現在のシステムソフトウェアのバージョンを表示し、USB メモリを使用して更新することができます。
CCU の更新ソフトウェアがリリースされることがあります。詳しくはヤマハ発動機のホームページを定期的にご確認ください。

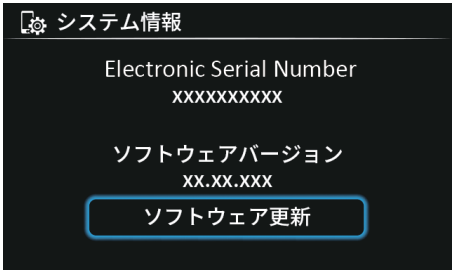
JCA27751

注 意

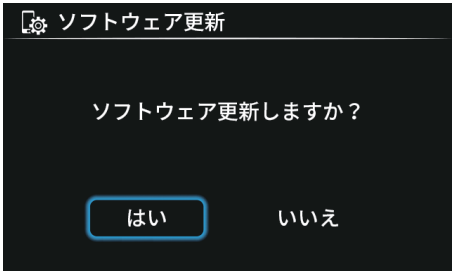
データ転送が完了するまで車両の電源はオンにしたまま、USB メモリは取り外さないでください。

システムソフトウェアを更新する

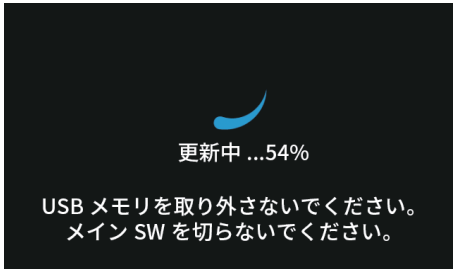
1. ヤマハ発動機のホームページにアクセスして、最新の更新ソフトウェアを USB メモリにダウンロードし、USB ジャックに接続します。（5-50 ページ参照）



2. “ソフトウェア更新” を選択します。



3. “はい” を選択して、ソフトウェアの更新を開始します。更新が適切に完了すると、“完了しました。” と表示されます。



要 点

更新が完了するまで、車両の電源をオフにしたり、USB メモリを取り外したり、車両を動かしたりしないでください。

JCA27740

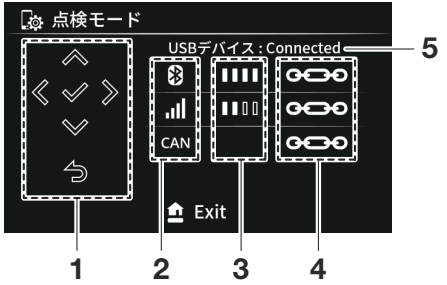
注 意

USB ジャックを傷つけないように注意してください。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → 点検モード

CCU への接続、ジョイスティック、ホームボタンの状態が表示されます。

5



1. ジョイスティック／ホームボタンの状態
2. 接続状態
3. 信号強度
4. 接続の種類
5. USB デバイス名と接続状態

接続の種類は次のとおりです。

：Bluetooth

：モバイルネットワーク

CAN：CAN（コントローラエリアネットワーク：CCU とマルチファンクションメーターとの接続）

接続状態の種類は次のとおりです。

：接続されています

：切断されました

：接続状態不明です

要　点

この画面は、ホームボタンを短押ししても閉じません。ホームボタンを長押しして閉じてください。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → 法的情報

ソフトウェアのサードパーティライセンスは、こちらで確認できます。

Applications（アプリケーション）→ 設定 → システム → リセット

CCU と関連するすべての設定、ペアリング、および保存されたデータのリセットができます。

要　点

- リセット後、CCU は数分で再起動します。
- 車両を売却または譲渡する前に、CCU をリセットしてスマートフォンのすべての個人データ（通話履歴や連絡先情報など）を削除してください。
- CCU がリセットされたら、Bluetooth のペアリング履歴と Yamaha Motorcycle Connect アプリのペアリング履歴をスマートフォンから削除してください。削除しない限り、CCU とそのスマートフォンを再びペアリングすることができません。
- 走行中は、CCU をリセットすることはできません。

Applications（アプリケーション）→ オーディオ



1. ブラウズ
2. 戻る／次へ
3. 再生／一時停止
4. リピートなし／すべてリピート／1 曲をリピート
5. シャッフル
6. 音量レベル

ジョイスティックを上下に操作して、音量レベルを調整できます。ジョイスティックを左右に操作して各機能（ブラウズ、戻る／次へ、再生／一時停止、リピートなし／すべてリピート／1 曲をリピート、シャッフル）を選択し、“✔”を短押しして選択を実行しま

す。



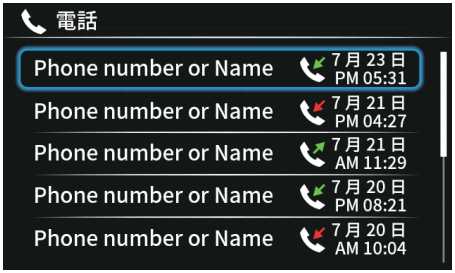
楽曲情報は、スマートフォンの音楽プレーヤーアプリケーションから取り込まれます。

要　点

- 接続しているスマートフォンの音楽プレーヤーアプリケーションを先に起動する必要がある場合があります。
- スマートフォンや音楽プレーヤーのアプリケーションによっては、オーディオプレーヤーが自動的に再生したり、“オーディオ”画面の機能が使用できない場合があります。

Applications（アプリケーション）→電話

通話中でない場合には、直近の発着信履歴が表示されます。



直近の発着信履歴が表示されます。履歴から連絡先を選択し、“✔”を短押しすると通話が開始されます。

：発信（緑）
：不在着信（赤）
：着信（緑）

要　点

- 同じ連絡先からの発着信は、連絡先の横に回数が表示されます。
- 発着信履歴は最大 30 件まで保存されます。上限に達すると、古い履歴から削除されます。

リストから名前または番号を選択して通話を開始すると、通話中の画面が表示されます。



1. 通話音量を調整
2. 通話終了
3. 通話音声の出力先切り替え（Bluetooth ヘッドセット／スマートフォン）

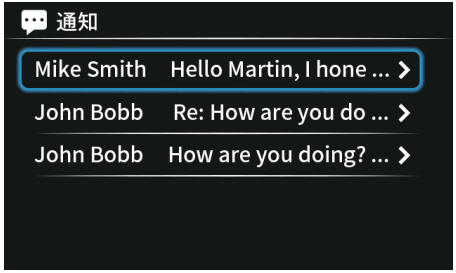
音量アイコンを選択し、ジョイスティックを上下に操作して通話音量を調整します。
通話終了アイコンを選択し、“✔”を短押しすると通話が終了します。

要　点

- ホームボタン“”でこの画面を閉じても、通話は終了しません。（5-28 ページ参照）
- 連絡先情報を CCU にダウンロードするには、スマートフォン側でアクセス許可をする必要があります。
- 連絡先情報のダウンロードには時間がかかる場合があります。ダウンロードが完了する前に電話がかかってきた場合は、電

話番号のみが表示されます。

Applications（アプリケーション）→ 通知

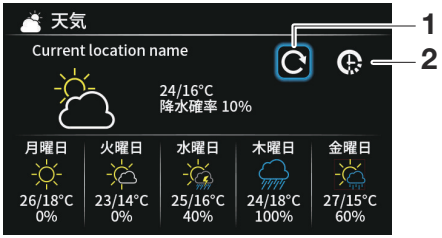


接続されたスマートフォンからの通知のリスト（車両とペアリングされた以降）が表示されます。選択したメッセージを開いて内容を確認できます。接続しているスマートフォンから通知を受信すると、通知アイコン“”が表示されます（5-16 ページ参照）。通知を選択し“✔”を短押しすると、メッセージが表示されます。

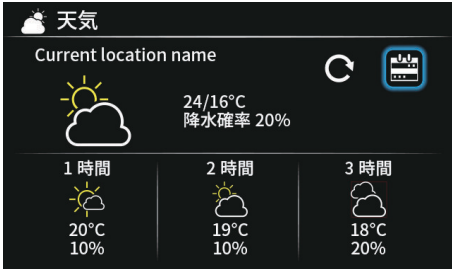
要　点

- 新しい通知をすべて確認すると、通知アイコン“”は消灯します。
- 通知は最大 100 件まで保存されます。上限に達すると、古い通知から削除されます。
- 長いメッセージだと、すべてを表示できない場合があります。
- 走行中は、メッセージを開いたり読んだりすることはできません。

Applications（アプリケーション）→ 天気

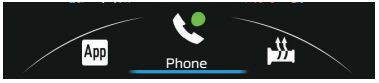


1. 更新
2. 予報間隔



天気情報が表示されます。更新アイコンを選択すると、更新された天気情報が表示されます。予報間隔アイコンから、天気情報の予報間隔を変更できます。

Phone



着信時および通話中に、ポップアップメニューに表示されます。選択すると、ディスプレイ下側の電話機能が開きます。（4-7 ページ参照）

Windscreen



ジョイスティックを上下に操作して、ウインドスクリーンの高さを調整します。

要　点

ウインドスクリーンを長時間調整し続けると、システムがオーバーヒートし、冷却されるまで作動しなくなります。

Grip Warmer



グリップウォーマーは、ジョイスティックを上下に操作して、3 つの温度設定またはオフのいずれかから選択し、温度調節ができます。温度設定は“Settings”→“Grip Warmer”から調整することができます。(5-30 ページ参照)

ポップアップメニューのグリップウォーマーのアイコンは、現在選択されている温度設定を表します。

：切
：低
：中
：高

Seat Heater （装備している場合）



シートヒーターは、ジョイスティックを上下に操作して、3 つの温度設定またはオフのいずれかから選択し、温度調節ができます。温度設定は“Settings”→“Seat Heater”→“Rider Seat Heater”から調整することができます。(5-31 ページ参照)

ポップアップメニューのシートヒーターのアイコンは、現在選択されている温度設定を表します。

：切
：低
：中
：高

P Seat Heater（装備している場合）

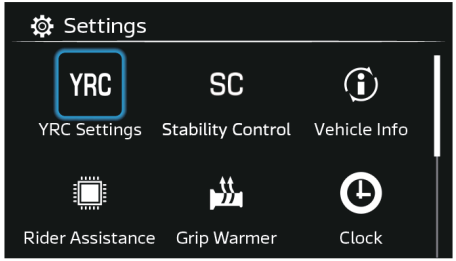


パッセンジャーシートヒーターは、ジョイスティックを上下に操作して、3 つの温度設定またはオフのいずれかから選択し、温度調節ができます。温度設定は“Settings”→“Seat Heater”→“Passenger Seat Heater”から調整することができます。(5-31 ページ参照)

ポップアップメニューのパッセンジャーシートヒーターのアイコンは、現在選択されている温度設定を表します。

：切
：低
：中
：高

Settings



“Settings”メニューには、次の項目が表示されます。

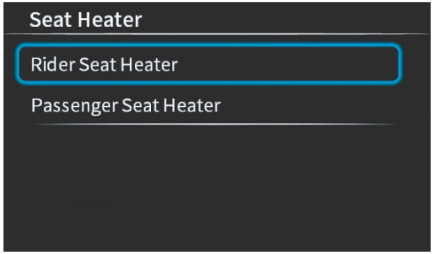
Grip Warmer	グリップウォーマーの温度を調整します。(5-30 ページ参照)
Seat Heater (装備している場合)	シートヒーターの温度を調整します。(5-31 ページ参照)
Maintenance	車両メンテナンス間隔のトリップメーター表示およびリセットします。(5-31 ページ参照)
Unit	ディスプレイに表示する単位を変更します。(5-31 ページ参照)
Display	ディスプレイの明るさと背景の設定を変更します。(5-32 ページ参照)
Clock	時刻の調整／自動調整を設定します。(5-33 ページ参照)
All Reset	工場出荷時の設定へリセットします。(5-33 ページ参照)
YRC Settings	YRC モードの設定を変更します。(5-33 ページ参照)
SUS Calibration	電子制御サスペンションの調整をします。(5-37 ページ参照)
Shift Indicator	シフトインジケーターの設定を変更します。(5-37 ページ参照)
Vehicle Info	インフォメーションディスプレイのお気に入り表示される項目をカスタマイズします。(5-38 ページ参照)
Stability Control	スタビリティコントロールシステムのオン/オフを切り替えます。(5-39 ページ参照)
Rider Assistance	マトリックス LED ヘッドライトや TPMS などのライダーアシスタンスを設定します。(5-39 ページ参照)

Settings → Grip Warmer

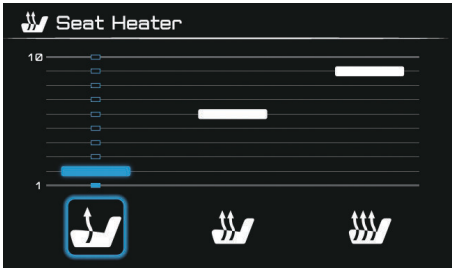


グリップウォーマーには 3 つの温度設定があり、それぞれの設定温度を調節できます。調整する温度設定を“✔”を短押して選択し、ジョイスティックを上下に操作して温度レベルを 1-10 段階で調整します。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

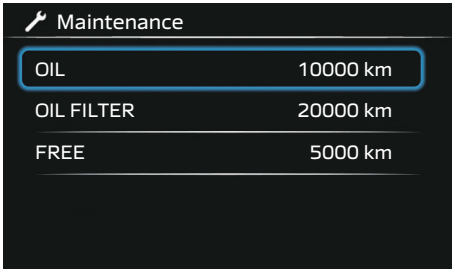
Settings → Seat Heater（装備している場合）



ライダーシートヒーターおよびパッセンジャーシートヒーターには、それぞれ 3 つの温度設定があり、設定温度を調節できます。調整する温度設定を“✔”を短押して選択し、ジョイスティックを上下に操作して温度レベルを 1-10 段階で調整します。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。



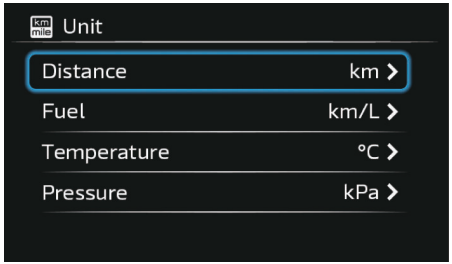
Settings → Maintenance





エンジンオイルの交換“OIL”、オイルフィルターの交換“OIL FILTER”およびお好みのメンテナンス項目“FREE”のメンテナンス後の走行距離が表示されます。
それぞれの項目のメンテナンスが完了したら“✔”を短押しして確定させて、リセットします。

Settings → Unit



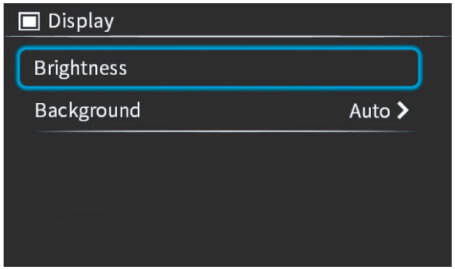
ディスプレイの表示単位は次のように変更できます。

- Distance（距離）：km または mile
- Fuel（燃費）：km/L、L/100km または MPG
- Temperature（温度）：°C または°F
- Pressure（空気圧）：kPa または psi または、kgf/cm2

要　点

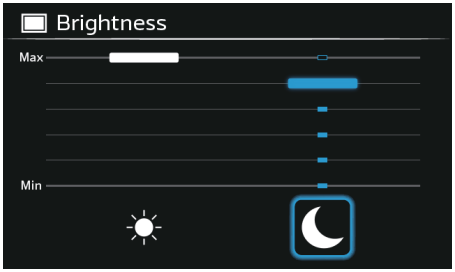
距離単位に“mile”を選択すると、燃費単位は自動的に“MPG”に変更されます。その場合、“Fuel”はグレー表示になり、選択できません。

Settings → Display



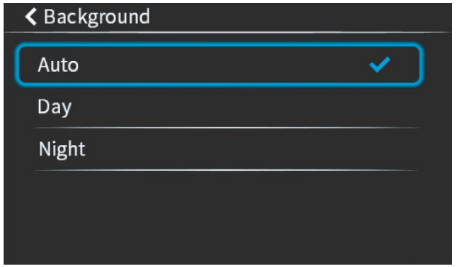
マルチファンクションメーターには、周囲の明るさを感知し、ディスプレイの明るさを自動的に昼／夜で切り替えるセンサーが装備されています。ディスプレイの明るさは昼／夜のそれぞれで自動または手動で調整することができます。

Brightness



ジョイスティックを左右に操作して昼または夜を選択し、ジョイスティックを上下に操作して明るさを 1-6 段階で調整します。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

Background

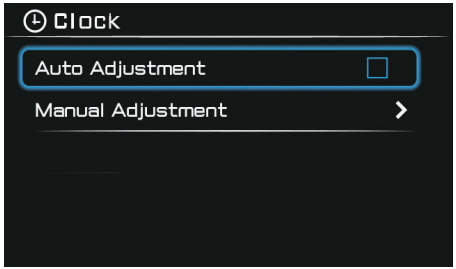


周囲の明るさに応じて自動切り替えを有効にするには、“Auto” を選択します。
ディスプレイの設定を維持するには、“Day” (白) or “Night” (黒)を選択します。

要　点

テーマ 3 では、“Night” (黒) のみ使用できます。

Settings → Clock



時計はスマートフォンと同期して自動調整するように設定できます。自動調整をするには、Yamaha Motorcycle Connect アプリと CCU を接続してください。(4-1 ページ参照)



時計を手動で調整するには、ジョイスティックを左右に操作して項目を選択し、ジョイスティックを上下に操作して項目を調整します。"✔" を短押しすると、時計が設定され、前のメニューに戻ります。

Settings → All Reset

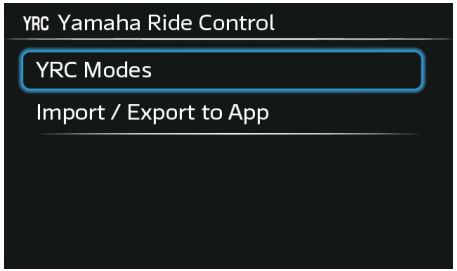


YRC Settings、ディスプレイの明るさ、グリップウォーマー／シートヒーターの設定、スタビリティコントロール、単位など、インフォメーションディスプレイのリセット可能なすべての設定をリセットします。

要　点

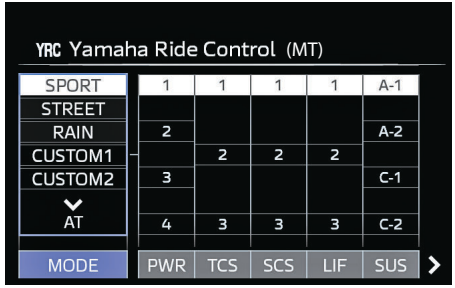
このリセットは CCU には影響しません。CCU をリセットするには、5-26 ページを参照してください。

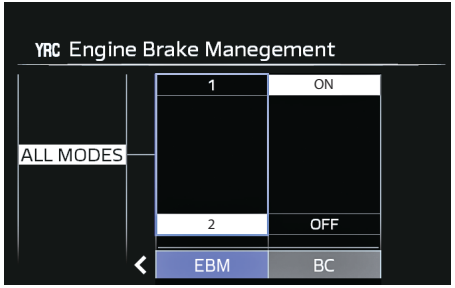
Settings → YRC Settings



このメニューには、YRC モードに関するさまざまな設定や機能が含まれています。

Settings → YRC Settings → YRC Modes





以下の設定ができます。

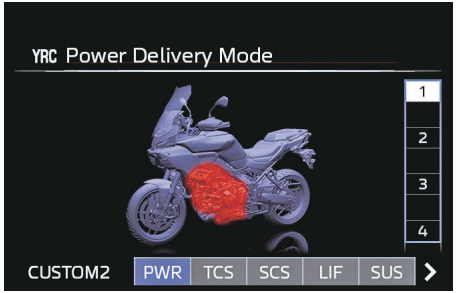
- “MT”の場合、YRC モードを“SPORT”、“STREET”、“RAIN”、“CUSTOM 1”、“CUSTOM 2”の中から選択します。
- “AT”の場合、YRC モードを“D+”と“D”から選択します。
- “CUSTOM 1”、“CUSTOM 2”、“D+”、“D”を選択した場合は、“PWR”、“TCS”、“SCS”、“LIF”、“SUS”の設定を変更することができます。
- “EBM”、“BC”の設定を変更することができます。

ジョイスティックを上下に操作して変更したい YRC モード設定を選択します。
ジョイスティックを左右に操作して変更したい YRC 項目を選択します。
ジョイスティックを上下に操作して、選択した YRC 項目の値を調整します。“✔”を短押しすると選択した YRC 項目がハイライトされ、ホームボタン“⮌⌂”を短押しすると、表示が戻ります。
ホームボタン“⮌⌂”を短押しすると、保存され、前のメニューに戻ります。

要　点

- “CUSTOM 1”、“CUSTOM 2”、“D+”、“D”の名前や各項目の設定値は、Yamaha Motorcycle Connect アプリから変更することもできます。（ 5-36 ページ参照）
- “EBM”、“BC”の設定は、すべての YRC モードで適用されます。

PWR （パワーデリバリーモード）



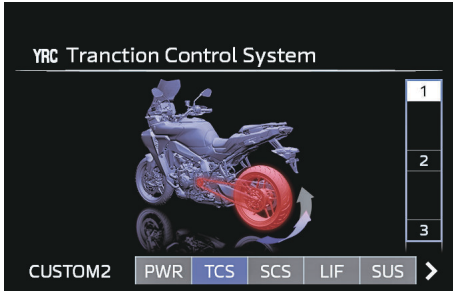
PWR は、4 段階の設定レベルがあります。（3-21 ページ参照）

レベル 1 ：スポーティなエンジン出力
レベル 2 ：スムーズなエンジン出力
レベル 3 ：マイルドなエンジン出力
レベル 4 ：雨天等のエンジン出力を抑えたい場合

要　点

“AT”の場合、YRC モード“D+”と“D”では、PWR はレベル 2、レベル 3、レベル 4 のみ設定できます。

TCS（トラクションコントロールシステム）



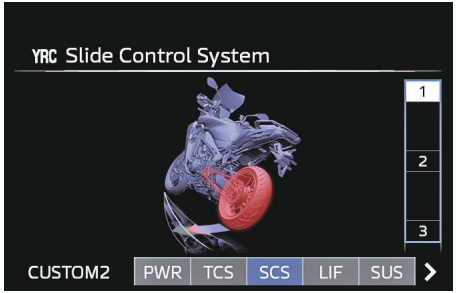
この車両は、可変トラクションコントロールシステムが装備されています。各設定レベルにおいて、車体を大きく傾けるほど、トラクションコントロール（システム介入）が強くなります。3 段階の設定レベルがあり、レベル 1 ではシステム介入が最小限に抑えら

れ、レベル 3 では後輪のスリップを抑制するためにシステム介入が最大になります。(3-21 ページ参照)
レベル 1 ：スポーティな走行に適しています。
レベル 2 ：ストリート走行に適しています。
レベル 3 ：濡れた路面や滑りやすい路面での走行に適しています。

要　点

トラクションコントロールシステムは、メニュー画面の“⚙ Settings”→“Stability Control”からのみ、完全にオフにすることができます。(5-39 ページ参照)

SCS （スライドコントロールシステム）

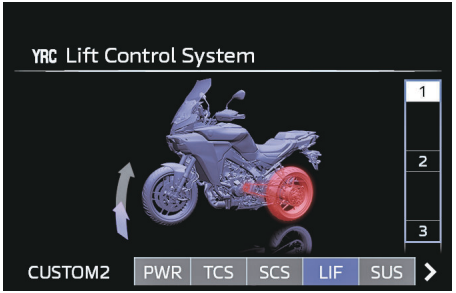


SCS は、3 段階の設定レベルがあります。レベル 1 ではシステム介入が最小限に抑えられ、レベル 3 では後輪の横すべりを抑制するためにシステム介入が最大になります。(3-22 ページ参照)
レベル 1 ：スポーティな走行に適しています。
レベル 2 ：ストリート走行に適しています。
レベル 3 ：濡れた路面や滑りやすい路面での走行に適しています。

要　点

スライドコントロールシステムは、メニュー画面の“⚙ Settings” → “Stability Control”からのみ、完全にオフにすることができます。(5-39 ページ参照)

LIF （リフトコントロールシステム）

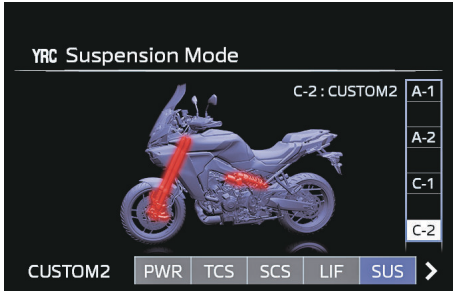


LIF は、1 から 3 に設定できます。 レベル 1 を設定すると、システムの介入量が最小になり、レベル 3 では、ホイールの浮き上がりを最も強く抑制します。(3-22 ページ参照)
レベル 1 ：リフトコントロールが、最も少なくなります。よりスポーティな走行に適しています。
レベル 2 ：中程度のリフトコントロールになります。スポーティな走行に適しています。
レベル 3 ：リフトコントロールが、最も多くなります。ストリート走行に適しています。

要　点

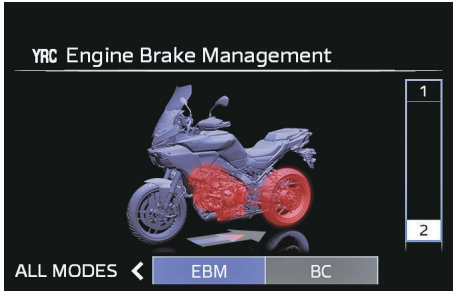
リフトコントロールシステムは、メニュー画面の“⚙ Settings” → “Stability Control”からのみ、完全にオフにすることができます。(5-39 ページ参照)

SUS （電子制御サスペンション）



SUS は、 A-1、A-2、C-1、C-2 に設定できます。A-1 は減衰力を強めに設定したスポーティセッティングで、滑らかな路面コンディションに適しています。A-2 は減衰力をソフトにしたコンフォートセッティングで、荒れた路面コンディションに適しています。 C-1 と C-2 は、Yamaha Motorcycle Connect アプリからカスタマイズ可能な設定です。（3-23 ページ参照）

EBM （エンジンブレーキマネージメント）

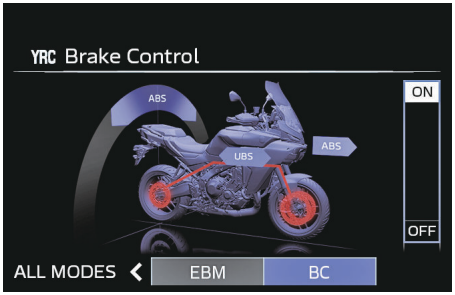


EBM は、2 段階の設定レベルがあります。レベル 1 ではシステムの介入が最小限に抑えられ、レベル 2 では、エンジンブレーキを最も強く抑えることができます。（ 3-23 ページ参照）

レベル 1：システムの介入が最も少ないため、エンジンブレーキが最も強く働きます。

レベル 2：システムの介入が最も強いため、エンジンブレーキが最も弱くなります。

BC（ブレーキコントロール）



OFF: 標準の ABS 制御です。走行速度とホイールの回転速度からブレーキ圧を調整します。車体が直立した状態でブレーキをかけたとき、最大限の効果を得られるように設計されています。

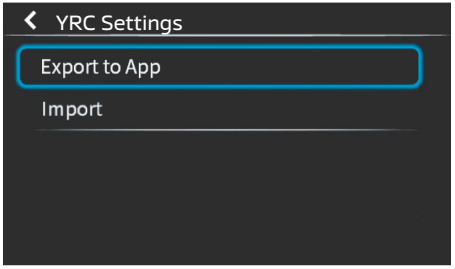
ON：標準の ABS 制御に加え、コーナリングアシストブレーキが有効になります。IMU からの情報に基づきコーナリング時の制動力を調整し、ホイールがスリップすることを抑制します。

ブレーキシステムの詳細については、3-23 ページを参照してください。

要　点

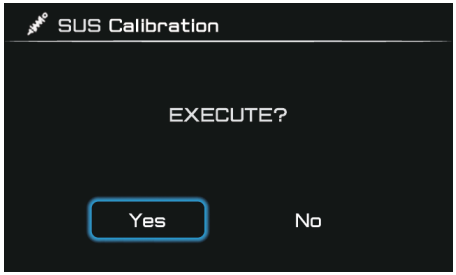
- 熟練したライダーやトラック走行の場合、さまざまな条件により、BC システムが希望のコーナリングスピードや意図したコーナリングラインに対して、想定よりも早く作動する場合があります。
- BC が OFF に設定されている場合、UBS は作動しません。

⚙ Settings → YRC Settings → Import / Export to App



Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用して YRC モード設定をインポート/エクスポートすることができます。

Settings → SUS Calibration

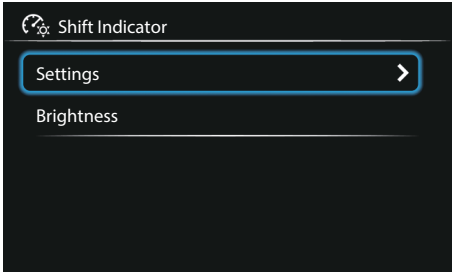


リヤサスペンションの修理を行った場合、センサーのキャリブレーションを行う必要があります。“Yes”を選択すると、10 秒以内にキャリブレーションの結果 [“Success”（成功）または“Failed”（失敗)]が表示されます。

要　点

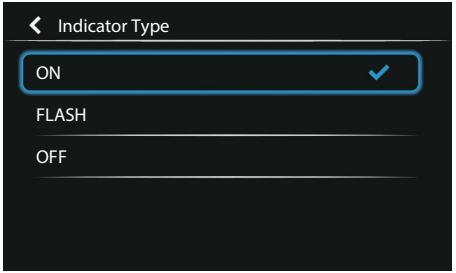
キャリブレーションを行うときは、メインスタンドを立て、車両に荷重がかからないようにしてください。

Settings → Shift Indicator



シフトタイミングインジケーターランプの設定を変更できます。

Settings → Shift Indicator → Settings → Indicator Type

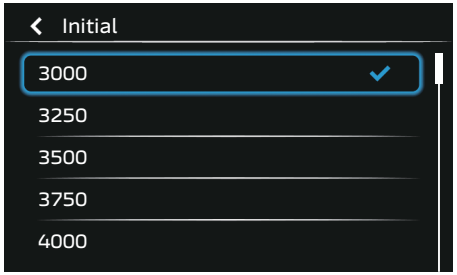


設定したエンジン回転数に達したとき、シフトタイミングインジケーターランプを点灯させるには“ON”、点滅させるには“FLASH”、消灯させるには“OFF”、を選択します。“✔”を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

要　点

選択した設定に応じて、シフトタイミングインジケーターランプが点灯または点滅します。

Settings → Shift Indicator → Settings → Initial

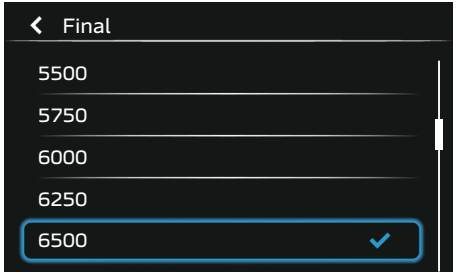


シフトタイミングインジケーターランプが点灯するエンジン回転数（r/min）を選択します。3000-10250 r/min の間で、250 r/min 単位で調整できます。“✔”を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

要　点

“Initial”は、“Final” より低い回転数（r/min）で設定されます。

Settings → Shift Indicator → Settings → Final



シフトタイミングインジケーターランプが消灯するエンジン回転数（r/min）を選択します。 3250-10500 r/min の間で、250 r/min 単位で調整できます。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

要　点

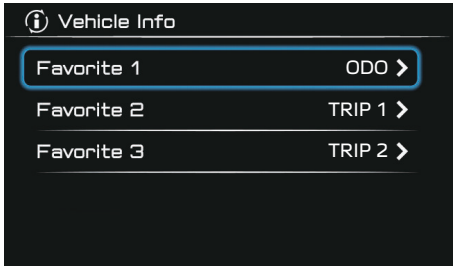
- “Initial”は、“Final” より低い回転数（r/min）で設定されます。
- ギヤがニュートラルまたは6速のとき、シフトタイミングインジケーターランプは点灯しません。

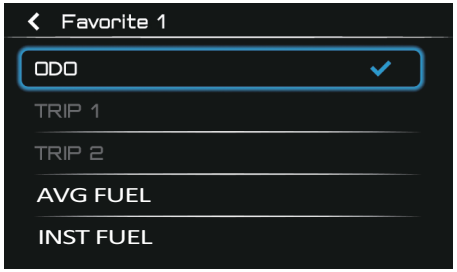
Settings → Shift Indicator → Brightness



ジョイスティックを上下に操作して、シフトタイミングインジケーターランプの明るさを 1-6 の間で選択します。“✔” を短押しして設定を確認し、前のメニューに戻ります。

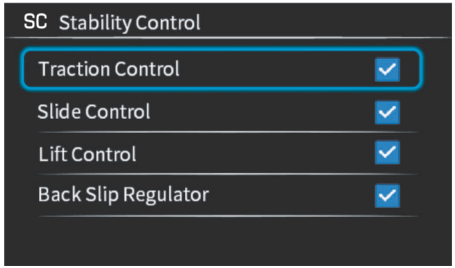
Settings → Vehicle Info





インフォメーションディスプレイの中から、お気に入りを３つ選択できます。（5-11 ページ参照）

Settings → SC Stability Control

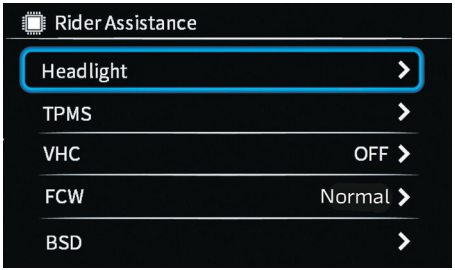


このメニューでは、スタビリティコントロールシステムであるトラクションコントロールシステム(TCS)、スライドコントロールシステム(SCS)、リフトコントロールシステム(LIF)、バックスリップレギュレーター(BSR)のオン／オフを行います。(3-21 ページ参照)
それぞれのシステムの設定をオフにすると、対応するシステムの表示灯もしくはアイコンが点灯します。(5-16 ページ参照)
トラクションコントロールシステム(TCS)をオン／オフにすると、スライドコントロールシステム(SCS)、リフトコントロールシステム(LIF)、バックスリップレギュレーター(BSR)も同時にオン／オフになります。スタビリティコントロールシステム表示灯“SC” が点灯すると、トラクションコントロールシステム(TCS)が、オフの状態を示します。(5-6 ページ参照)

要　点

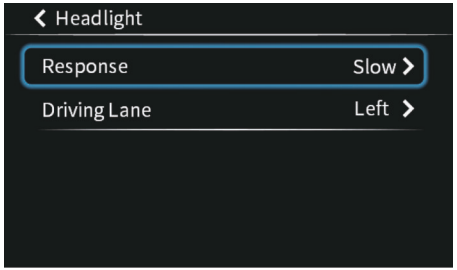
車両の電源をオンにすると、トラクションコントロールシステム(TCS)が自動的にオンになります。

Settings → Rider Assistance



このメニューは、マトリックス LED ヘッドライトや TPMS などライダーアシスタンスに関する設定を行います。

Settings → Rider Assistance → Headlight

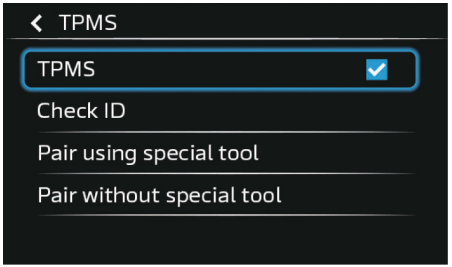


Response：アダプティブハイビーム使用時、マトリックス LED ヘッドライトカメラの検出速度を次の様に変更することができます。

- Slow：スムーズに調整されますが、急激な光の変化には反応が鈍くなります。
- Middle：応答速度と滑らかさのバランスの取れた設定です。
- Fast：すばやく調整され、変化する光の状況にすばやく適応できます。

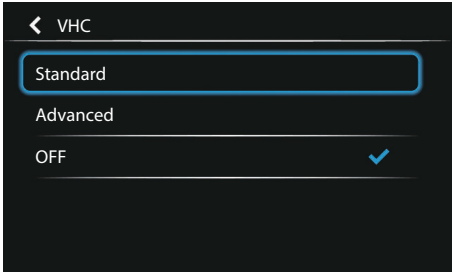
Driving Lane：マトリックス LED ヘッドライトカメラの走行車線設定です。交通規制に合わせて、通行できる車線 “Left（左）” または “Right（右）” を選択してください。

Settings → Rider Assistance → TPMS



TPMS（タイヤ空気圧監視システム）の選択や設定ができます。“TPMS”は TPMS を有効／ 無効にする場合に使用します。
TPMS を無効にすると、タイヤ空気圧警告灯はいかなる場合も点灯／点滅しなくなり、インフォメーションディスプレイの空気圧情報は表示されなくなります。その他の項目（“Check ID”、“Pair using special tool”、“Pair without special tool”）は販売店の業務利用のみとなります。

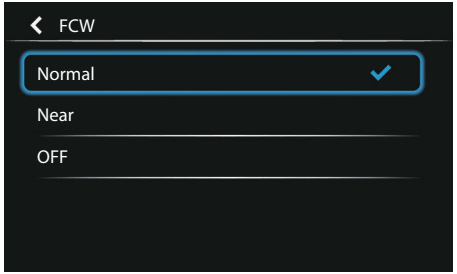
Settings → Rider Assistance → VHC



VHC（ビークルホールドコントロール）の選択や設定ができます。(3-27 ページ参照)

- Standard：停車中にブレーキレバーまたはブレーキペダルを強く作動させると、VHC が解除されるまでブレーキの作動を保持します。
- Advanced：“Standard”と同じですが、傾斜地に停車した時には、システムが自動的にブレーキの作動状態を維持します。
- OFF：VHC システムが無効になり、VHC オフアイコン “Ⓗ” が点灯します。(5-17 ページ参照)

Settings → Rider Assistance → FCW



FCW（フォワードコリジョンワーニング）の選択や設定ができます。(3-8 ページ参照)

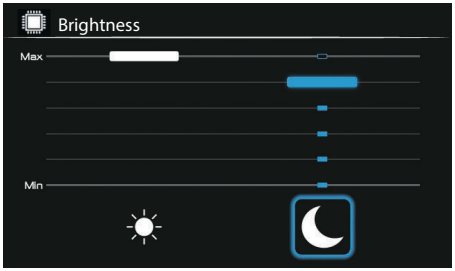
- Normal：FCW は、オンになります。
- Near：FCW がオンで、先行車の検出範囲が狭くなります。
- OFF：FCW システムが無効なり、FCW オフアイコン “OFF” が点灯します。(5-17 ページ参照)

Settings → Rider Assistance → BSD



BSD（ブラインドスポットディテクション）の選択や設定ができます。（3-10 ページ参照）
BSD：BSD システムを有効/無効にする場合に使用します。無効にすると、BSD オフアイコン“ ”が点灯します。（ページ参照）

Settings → Rider Assistance → BSD → Brightness



サイドミラーの BSD 表示灯の明るさをレベル 1-6 段階で昼／夜別にプリセットから選択できます。“✔”を短押しすると設定され、前のメニューに戻ります。

フューエルタンクキャップ

JAU98600

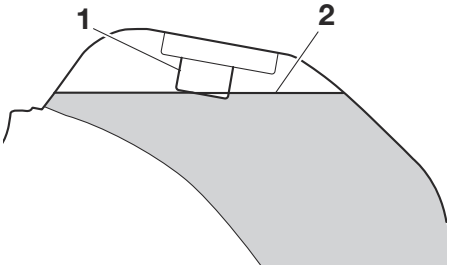
JWA12172

⚠警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実**

に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開閉については、3-37 ページを参照してください。

JAU31461

燃料

JAU28333

指定燃料

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 19 L

JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

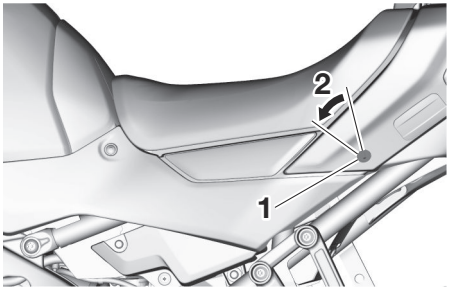
JAU92640

シート

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、反時計方向に回します。



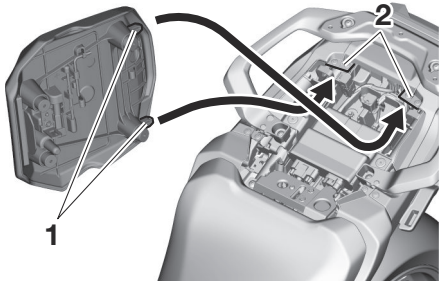
1. シートロック
2. 解除

2. タンデムシートの前部を少し持ち上げ、前方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの後部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込み、タンデムシートの前部を押し下げてタン

デムシートをロックします。



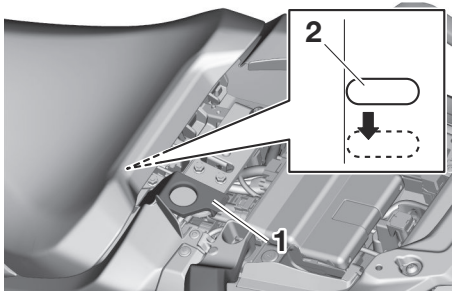
1. 突起
2. シートホルダー

2. キーを抜き取ります。

ライダーシート

ライダーシートの取り外しかた

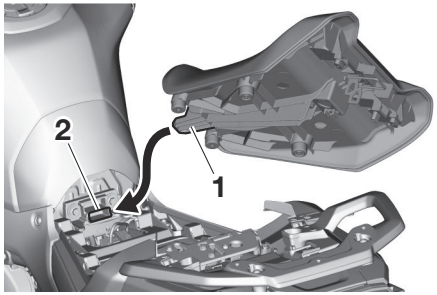
1. タンデムシートを取り外します。
2. キャップを外し、ライダーシート後部の下にあるライダーシートロックレバーを図のように左に押して、ライダーシートを取り外します。



1. キャップ
2. ライダーシートロックレバー

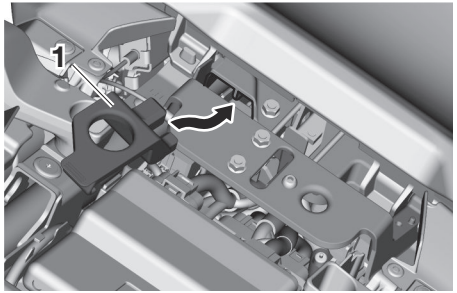
ライダーシートの取り付けかた

1. ライダーシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込み、シートの後部を押し下げてロックします。



1. 突起
2. シートホルダー

2. キャップを取り付けます。



1. キャップ

3. タンデムシートを取り付けます。

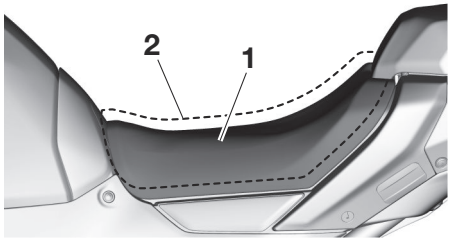
要　点

- 走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。
- ライダーシートは高さを調整できます。次の項目を参照してください。

JAU63051

ライダーシートの高さ調整

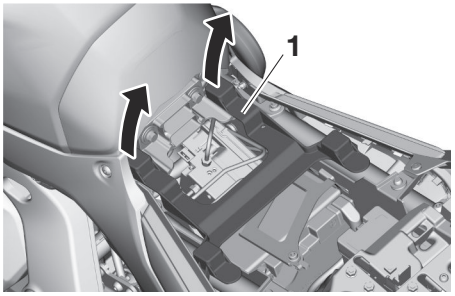
ライダーシートの高さは、運転者の好みに合わせて 2 つの位置のうちどちらかに調整することができます。
出荷時、ライダーシートは低い位置に調整されています。



1. 低い位置
2. 高い位置

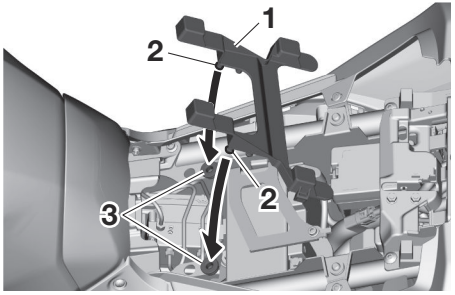
高い位置に変更するには

1. タンデムシートとライダーシートを取り外します。
2. ライダーシートハイトアジャスターを上方向に引いて取り外します。



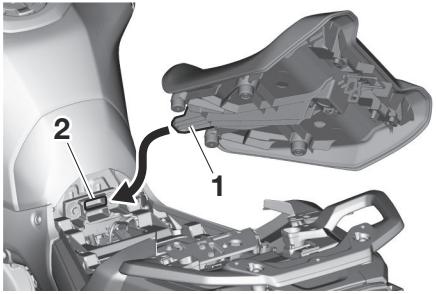
1. ライダーシートハイトアジャスター

3. 図のように、ライダーシートハイトアジャスターの前部にある突起をグロメットに差し込みます。



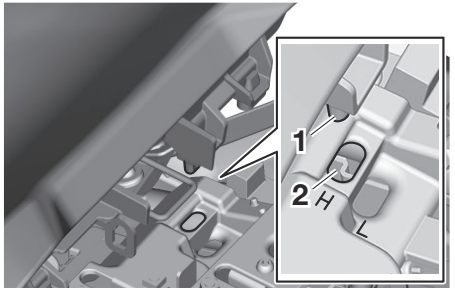
1. ライダーシートハイトアジャスター
2. 突起
3. グロメット

4. 図のように、ライダーシート前方の突起をシートホルダー B に差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダーB（高い位置用）

5. 図のように、ライダーシート底部の突起を“H”位置の溝に合わせてから、ライダーシート後部を押し下げてロックします。

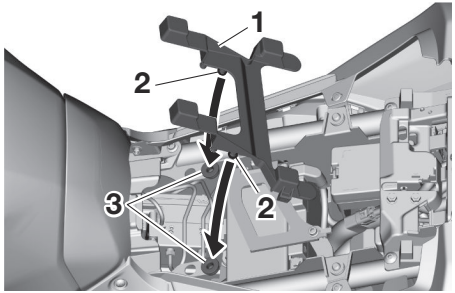


1. 突起
2. “H” 位置の溝

6. タンデムシートを取り付けます。

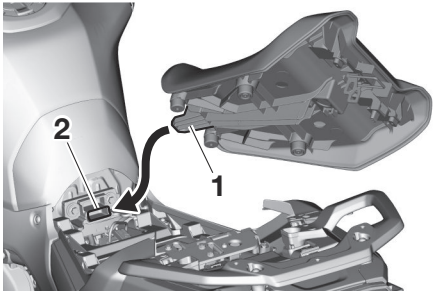
低い位置に変更するには

1. タンデムシートとライダーシートを取り外します。
2. ライダーシートハイトアジャスターを上方向に引いて取り外します。
3. 図のように、ライダーシートハイトアジャスターの後部にある突起をグロメットに差し込みます。



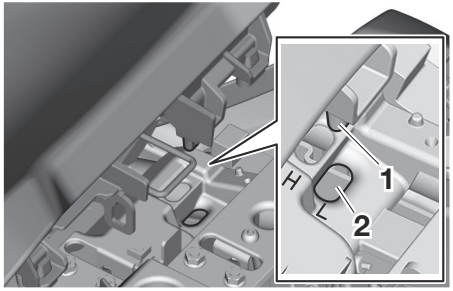
1. ライダーシートハイトアジャスター
2. 突起
3. グロメット

4. 図のように、ライダーシート前方の突起をシートホルダー A に差し込みます。



1. 突起
2. シートホルダー A（低い位置用）

5. 図のように、ライダーシート裏側の突起を “L” 位置の溝に合わせてから、ライダーシート後部を押し下げてロックします。



1. 突起
2. “L” 位置の溝

6. タンデムシートを取り付けます。

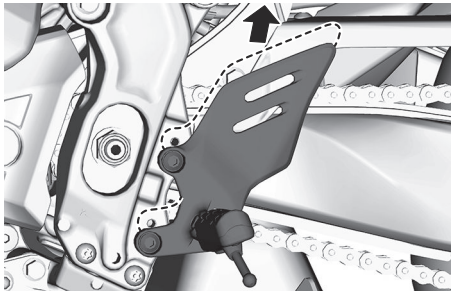
要　点

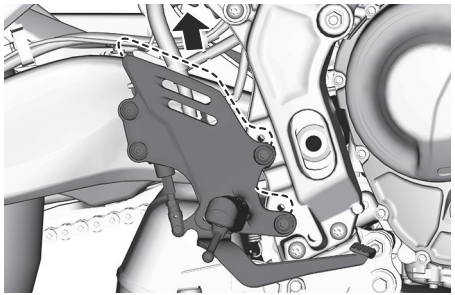
走行前に、必ずシートが正しく固定されていることを確認してください。

JAU91560

ライダーフートレスト位置の調整

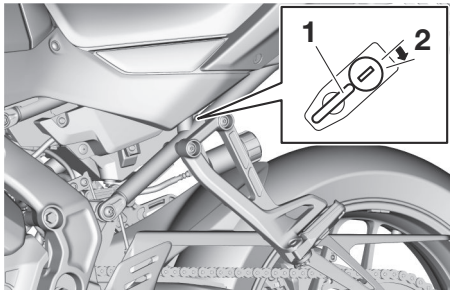
ライダーフートレストは、2 つの位置のうちいずれかに調整することができます。工場出荷時、フートレストは低い位置に調整されています。フートレスト位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。





JAU14283

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651

⚠警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

JAU45643

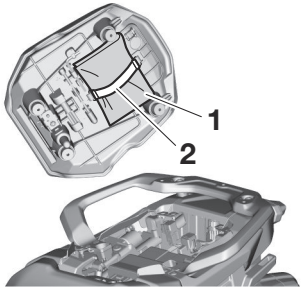
書類入れ

タンデムシートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。 車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにし、ゴムバンドで固定してください。

JCA28461

注 意

電子部品（IC チップ）を内蔵した電子車検証は、IC タグを損傷しないように大切に保管してください。



1. 書類入れ
2. ゴムバンド

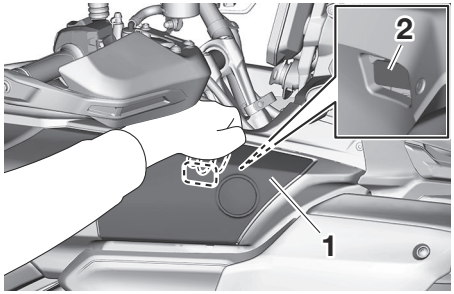
JAUA5953

小物入れ

JWA23080

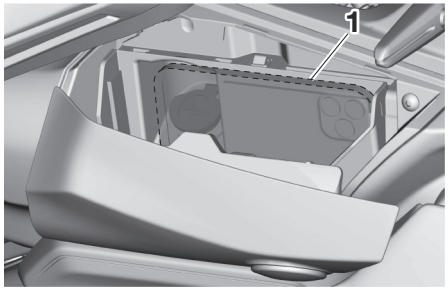
⚠警 告

小物入れ内に積む荷物は、荷重制限 0.5 kg を越えないでください。



1. 小物入れカバー
2. ボタン

小物入れの裏側にあるボタンを押すと、小物入れカバーが開きます。



1. スマートフォン

図のようにスマートフォンを収納することができます。
スマートフォンは、小物入れ内にある USB ジャックに接続して充電することができます。(5-50 ページ参照)

要 点

スマートフォンのケーブルをカバーに挟まないように注意してください。

JCA28830

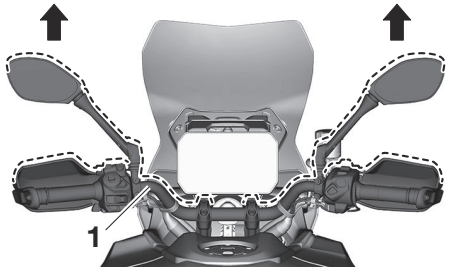
注 意

- **小物入れ内は直射日光の熱で温度が高くなります。スマートフォンなど熱の影響を受けやすいもの、消耗品、可燃性のものを小物入れ内に入れたままにしないでください。過度の熱にさらされると、スマートフォンが正常に動作しない場合があります。**
- **スマートフォンを小物入れ内に置いているときに損傷から保護するには：金属製のもの、工具、または鋭利なものをそのまま入れないでください。これらを収納する場合は、適切な緩衝材で包んでください。**
- **ヤマハ発動機は、スマートフォンデバイスに生じたいかなる損害についても責任を負いません。**

JAU46833

ハンドル位置の調整

ハンドルは、運転者の好みに合わせて 2 つの位置のうちいずれかに調整することができます。ハンドル位置の調整はヤマハ販売店に依頼してください。

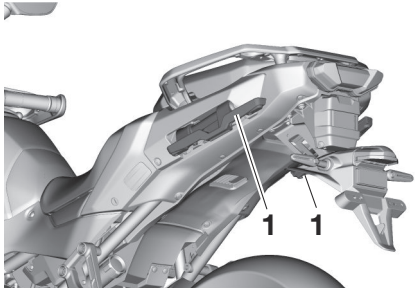


1. ハンドル

JAU99581

サイドケースホルダー

この車にはサイドケースホルダーが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。



1. サイドケースホルダー

JAUA0643

フロントフォークおよびリヤクッションの調整

このモデルには、電子制御サスペンションシステム（KADS）が装備されています。“KADS”および“YRC Setting”についての詳細は、3-23 ページ、5-33 ページを参照してください。

要　点

リヤサスペンションの修理を行った場合、メニュー画面よりセンサーのキャリブレーションを行う必要があります。キャリブレーションの詳細については、5-37 ページを参照してください。

フロントフォークのスプリングプリロード

JWA14671

⚠警 告

スプリングプリロードアジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

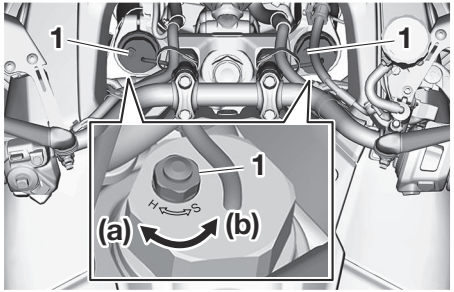
JCA27260

注 意

サスペンション調整時には、アルマイト処理された表面を傷つけないよう、細心の注意を

払ってください。

プリロードアジャスターを(a)方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b)方向に回すと小さくなります。
スプリングプリロードの調整は、アジャスターを(b)方向に止まるまで回し、(a)方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a)方向へ 0 回転
標準：
(a)方向へ 2 回転
最大（ハード）：
(a)方向へ 10 回転

リヤクッションのスプリングプリロード

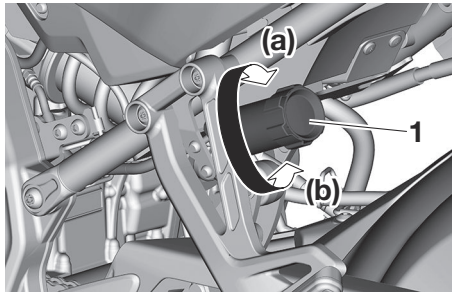
JWA10222

⚠ 警 告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- **シリンダー本体を加工または分解しないでください。**
- **リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。**
- **シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。**
- **損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。**
- **点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。**

プリロードアジャスターを(a)方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b)方向に回すと小さくなります。
スプリングプリロードの調整は、アジャスターを(b)方向に止まるまで回し、(a)方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
(a)方向へ 1 段
標準：
(a)方向へ 13 段
最大（ハード）：
(a)方向へ 24 段

要　点

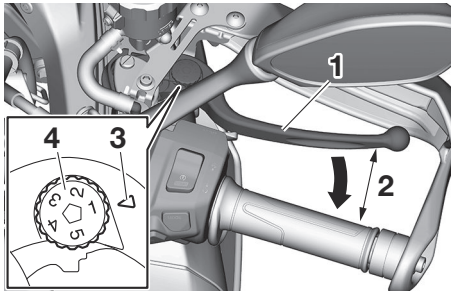
アジャスターを(b)方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。

5

JAU45543

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。
握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. 合マーク
4. アジャスター

要　点

アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

JAU70642

DC コネクター

この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。
コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAUA4413

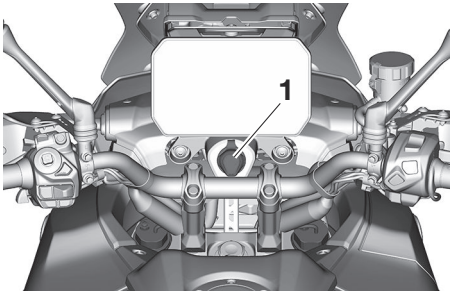
USB ジャック

この車には、5V の USB ジャックが搭載されています。USB ジャックは、車両の電源がオンのときに使用できます。

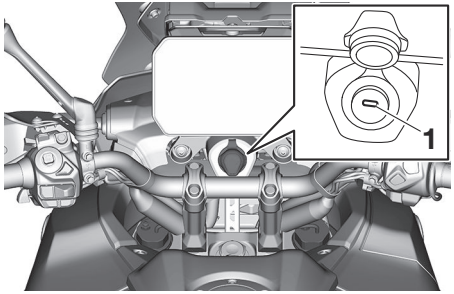
要　点

- エンジンが停止しているときに USB ジャックを使用しないでください。
- 条件によっては、USB に接続していてもデバイスのバッテリー残量が低下する場合があります。

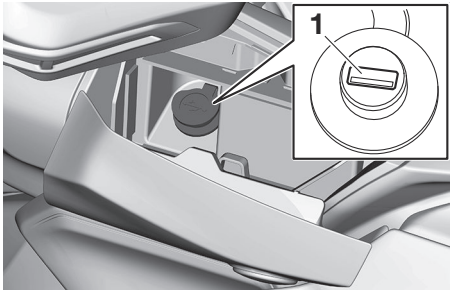
ハンドルバー側：



1. USB ジャックキャップ



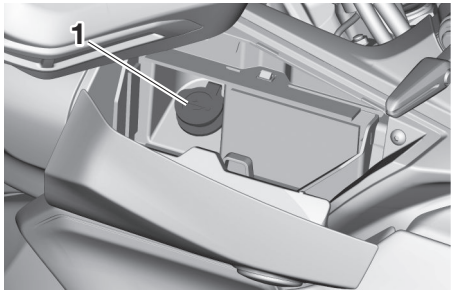
1. USB Type-C ジャック



1. USB Type-A ジャック

JCA28780

小物入れ内：



1. USB ジャックキャップ

注 意

- USB ジャックを水や衝突から保護するために、USB ジャックを使用しない場合は、キャップを取り付けてください。
- 破損を防ぐため、USB ジャックのキャップを開閉する際は、無理な力を加えないようにしてください。
- USB ジャックキャップが正しく取り付けられていることを確認し、雨天時や洗車時には USB ジャックを使用しないでください。USB ジャックが濡れた場合は、車両の電源を切った状態で乾かしてから使用してください。
- USB ジャックに接続されたケーブルを引っ張ったり、力を加えたりしないでくださ

さい。

JAU92960

ETC コネクター

この車には ETC コネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。（サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。）

JWA10242

⚠警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAUA6260

イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、サイドスタンドが上がっていないときや、ブレーキをかけていないときのエンジン始動を防止します。また、サイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

要　点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、3-35 ページ、5-1 ページを参照してください。

JWA11541

⚠警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

JAUA6271

エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. ブレーキレバーを握ります。
6. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい　　**いいえ** → ニュートラルスイッチ、ブレーキランプスイッチ、Y-AMTシステムの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
7. サイドスタンドを上げます。
8. リヤブレーキをかけます。
9. ギヤを入れます。
10. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい　　**いいえ** → サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
11. サイドスタンドを上げます。
12. ブレーキを放します。
13. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

いいえ　　**はい** → ブレーキランプスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。**走行可能です。**

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。（※） ● エンジンオイルの量が適当であること。（※） ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

ならし運転

JAU31471

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 6300 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

エンジン始動

JAUA5981

JWA11562

⚠ 警 告

- **エンジンを始動するときには、5-52 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. 車両の電源をオンにし、スターター／エンジンストップスイッチが“⏀”にセットされていることを確認します。
2. 車両の電源をオンにすると、表示灯と警告灯が数秒間点灯し、その後消灯することを確認します。（5-4 ページ参照）

要　点

- エンジン警告灯または、Y-AMT 故障表示灯が点灯したままの場合は、エンジンを始動しないでください。このような場合は、ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。
- ABS 警告灯および UBS 警告灯は、走行するまで、点灯したままになります。
- 油圧警告灯は、エンジンが始動するまで表示されます。（5-16 ページ参照）

3. ギヤをニュートラルにします。

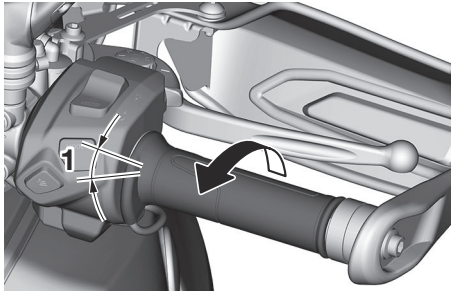
要　点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で車両の点検を受けてください。

4. スロットルを完全に閉じます。
5. スターター／エンジンストップスイッチの“⏀”側を押して、エンジンを始動します。

要　点

- スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスターター／エンジンストップスイッチを押してください。
- 意図しない加速を避けるため、スロットルグリップを開けたままエンジンを始動すると、Y-AMT は車両が加速するのを防ぎます。スロットルを閉じ、エンジン回転数が下がると加速できます。
- エンジンが始動しない場合、スロットルグリップを 1/4 回転（20°）開けた状態で再度始動してください。



1. 1/4 回転（20°）

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU68221

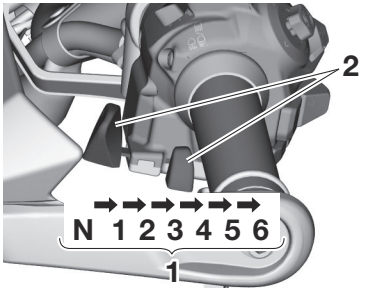
要　点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 慣性計測装置（IMU）：メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。
- エンジン自動停止システム：車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAUA2803

ギヤチェンジのしかた



1. ギヤの位置
2. シフトレバー

ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション (Y-AMT) は、“AT” ／ “MT” どちらのモードでもシフトレバーによる変速をすることができます。（5-3 ページ参照）

ギヤポジションの順番は図の通りです。

要　点

車両の電源をオンにした状態で、Y-AMT のギヤチェンジをしてください。

- ギヤをニュートラルにするには、ニュートラルランプが点灯するまで、繰り返しシフトレバーを “-” 方向に押します。
- ニュートラルから 1 速にギヤチェンジするときは、エンジン回転数を 1800

r/min よりも低くし、サイドスタンドは上げてください。
- エンジン回転数が低すぎると、シフトアップすることはできません。
- エンジン回転数が高すぎると、シフトダウンすることはできません。
- 停車すると、トランスミッションは自動的に 1 速にシフトダウンし、クラッチを接続します。
- ギヤを入れた状態で車両の電源をオンにした場合、ブレーキレバーを握るまたはブレーキペダルを踏むまでギヤを変えることはできません。

JCA28590

注 意

ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度
1 速: 0 km/h–95 km/h
2 速: 20 km/h–130 km/h
3 速: 25 km/h–155 km/h
4 速: 30 km/h–180 km/h
5 速: 35 km/h–180 km/h
6 速: 40 km/h 以上

シフトダウン速度
6 速 → 5 速: 170 km/h 以下
5 速 → 4 速: 145 km/h 以下
4 速 → 3 速: 125 km/h 以下
3 速 → 2 速: 100 km/h 以下
2 速 → 1 速: 75 km/h 以下

JWA20720

⚠ 警 告

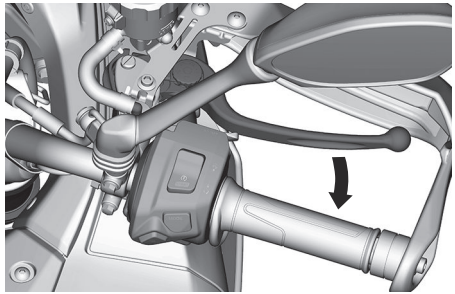
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

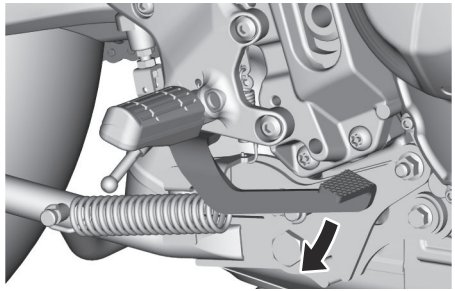
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

＜フロントブレーキ＞



＜リヤブレーキ＞



JWA11573

⚠警 告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JCA26500

注 意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

JAUA2401

駐車

駐車するときは、車両の電源をオフにしてエンジンを止め、スマートキーをロックしてください。

要　点

Y-AMT は、1 速ギヤでエンジンが停止すると 1 秒後に自動的にクラッチを接続するため、車両を移動することができなくなります。車両の電源をオフにした状態で車両をニュートラルポジションに保つには、シフトダウンしてニュートラルにしてからメインスイッチを OFF にします。

エンジン始動中（ニュートラルを除く）、サイドスタンドを出すとエンジンが停止します。このとき、電源の切り忘れを防ぐため、アラームが鳴って運転者にお知らせします。アラームを止めるには、車両の電源をオフにするかサイドスタンドを上げます。

車両から離れるときは、ハンドルロックをかけ、運転者がスマートキーを携帯してください。

要　点

- スマートキーシステムがオンで、車両がスマートキーシステムの作動範囲内にあると、スマートキーを身につけていない他の

人でもエンジンの始動などが可能になります。
- 上記のアラームを鳴らないようにすることができます。詳しくは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JWA11582

⚠警 告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

点検整備の実施

JAUA3580

日常点検

6-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA22780

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **エンジンが停止していても、車両の電源がオンになっているだけで、Y-AMT の部品の一部が意図せずに動作する可能性があります。その場合、体の一部や衣服を挟み込み、重傷を負うおそれがありますので注意してください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠ 警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

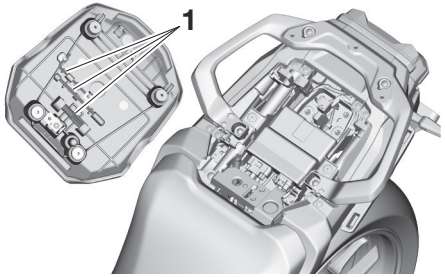
要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検

整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU85240

サービスツール



1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。また、車両購入時に別に手渡されるサービスツールがあります。

JAU30457

エンジンオイル

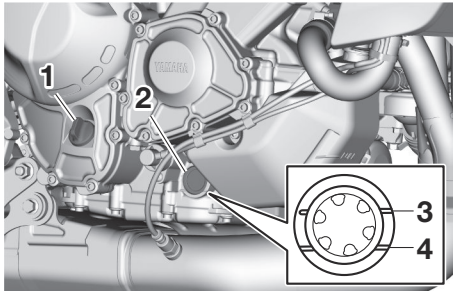
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを 2～3 分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立て（車を垂直にする）、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓からエンジンオイル量を点検します。

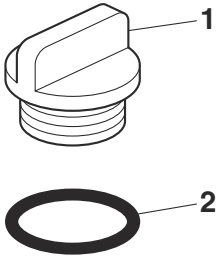


1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、9-4 ページ参照）

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

JAU47505

エンジンオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと、または 1 年ごと
エンジンオイル量：
オイル交換時:
2.80 L
オイルフィルター取り外し時:
3.20 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目以降：
30000 km 走行ごと

JWA11861

⚠ 警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。 ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU91020

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

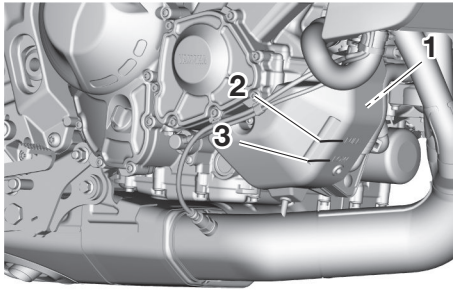
JAU30723

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



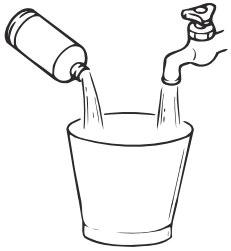
1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30805

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。



JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12112

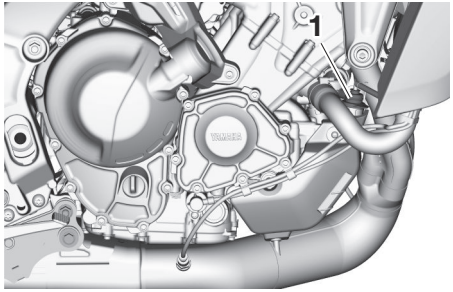
注 意

混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30812

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

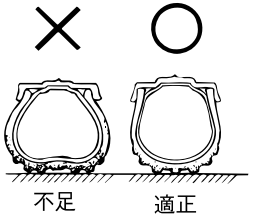
注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAU36765
エアクリーナーエレメントの交換
エアクリーナーエレメントは、定期的な交換が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。
ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU65360
タイヤ

空気圧



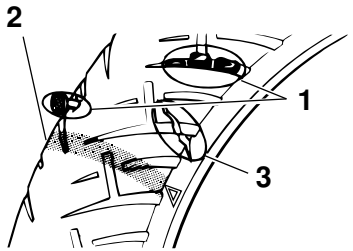
タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
2 名乗車：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

要　点
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642
タイヤの亀裂、損傷の点検
タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8 mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

前輪：
120/70ZR17M/C (58W)

後輪：
180/55ZR17M/C (73W)

指定タイヤ：

前輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX SPORT TOURING T32F

後輪：
BRIDGESTONE/BATTLAX SPORT TOURING T32R

JAU31122
ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検
ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741
⚠警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

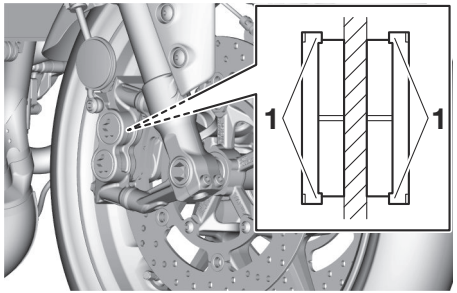
ブレーキのきき具合の点検
乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761
⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

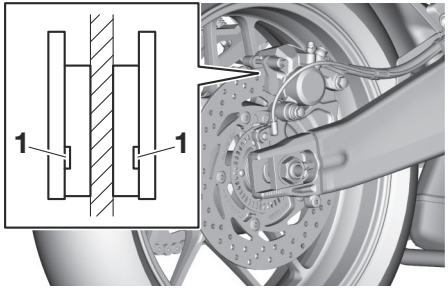
JAU36505
ブレーキランプスイッチの点検
ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプは ABS の構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU49291
ブレーキパッドの点検
ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。
＜フロントブレーキ＞
ブレーキパッドのインジケーターとブレーキディスクのすき間がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター

＜リヤブレーキ＞
ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。

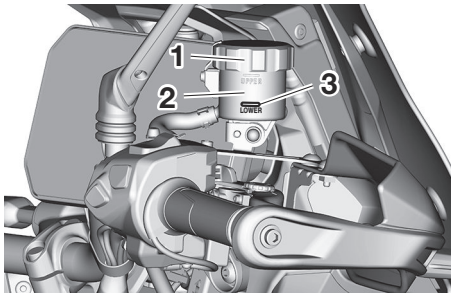


1. インジケーター溝

JAU44233

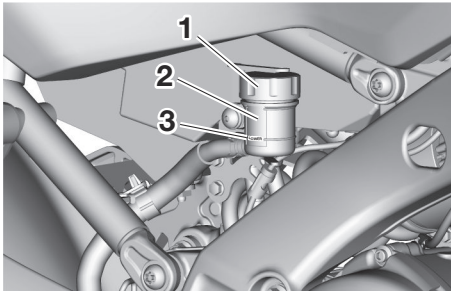
ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために 2 年ごとに交換してください。**

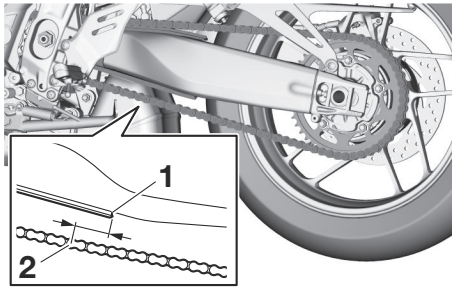
JAU22762

ドライブチェーン

JAU92611

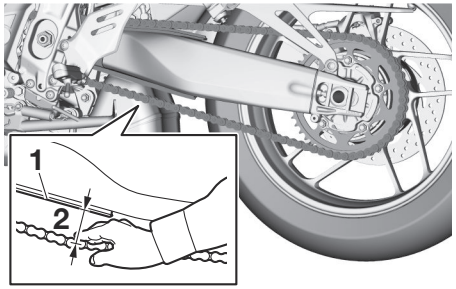
ドライブチェーンの点検

1. ギヤをニュートラルにしてメインスタンドを立てます。
2. 図のように、ドライブチェーンガードの端から前方へ 53 mm を測定し、チェーンの中間位置（ポイント B）を見つけます。



1. ドライブチェーンガード端
2. ポイント B

3. ドライブチェーンの中間位置（ポイント B）を手で下側に押します。このとき、ドライブチェーンガードの下側からポイント B までの長さ（セット長 A）が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。



1. ドライブチェーンガード
2. セット長 A

要　点

セット長 A（ドライブチェーンのたわみ量）を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

セット長 A：
45.0–50.0 mm

4. ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

JCA17791

注 意

ドライブチェーンのたわみ量が 55.0 mm 以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

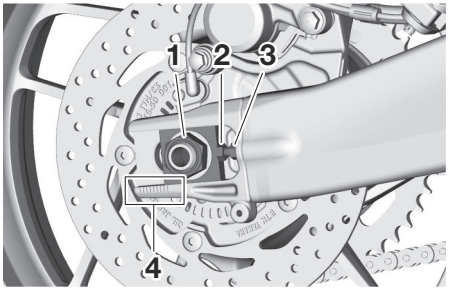
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

5. 車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロッキングナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. アジャスター
3. ロックナット
4. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
105 N·m (10.5 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23027

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

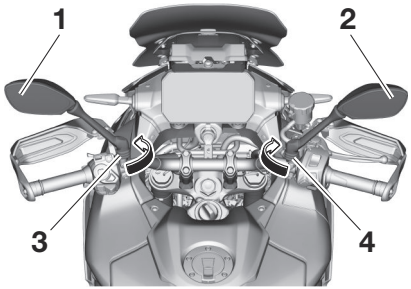
この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。

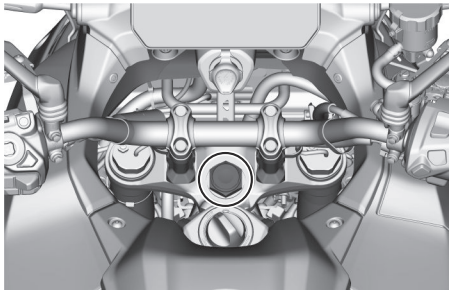


1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

● バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621
車体各部の給油脂状態の点検
車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651
アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）
アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU74800

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。 爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

JCA23660

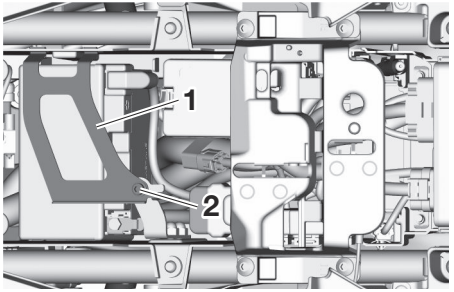
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12 Vです。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、指定されたバッテリーを使用してください。指定以外のバッテリーを使用すると、IMU が故障してエンジンが停止するおそれがあります。**

JAU93260

バッテリーの取り外し

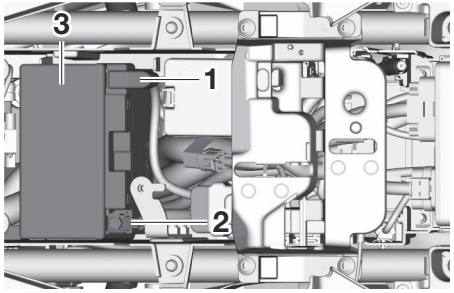
1. ライダーシートとライダーシートハイトアジャスターを取り外します。（5-42 ページ参照）
2. ボルトを外し、バッテリーホルダーを取り外します。



1. バッテリーホルダー
2. ボルト

3. −（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。

4. バッテリーを取り外します。



1. +リード線
2. −リード線
3. バッテリー

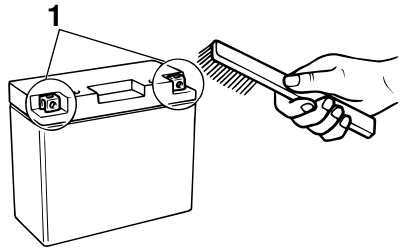
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

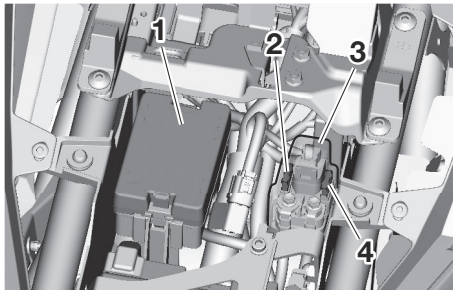


1. ターミナル

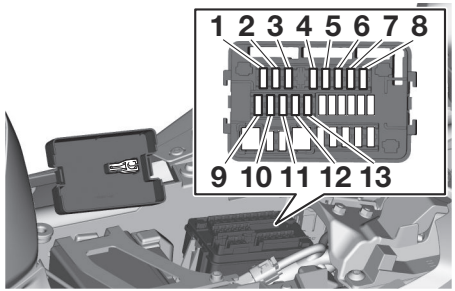
JAUA4691

ヒューズ交換

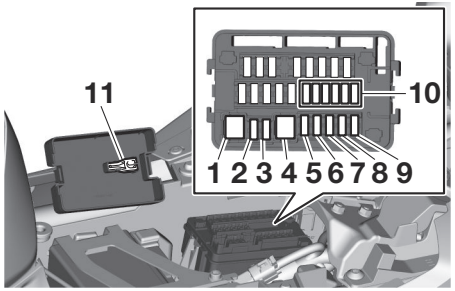
ヒューズボックス、サブヒューズは、ライダーシートの下にあります。（5-42 ページ参照）



1. ヒューズボックス
2. サブヒューズ
3. スターターリレーケースカバー
4. スペアサブヒューズ



1. ブレーキランプヒューズ
2. クルーズコントロールヒューズ
3. アクセサリーヒューズ 2
4. シグナルヒューズ
5. イグニッションヒューズ
6. イグニッションヒューズ 2
7. ヘッドライトヒューズ
8. ABS コントロールユニットヒューズ
9. DC ターミナルヒューズ 1
10. イグニッションヒューズ 3
11. アクセサリーヒューズ
12. ラジエターファンモーターヒューズ
13. ヒーターヒューズ



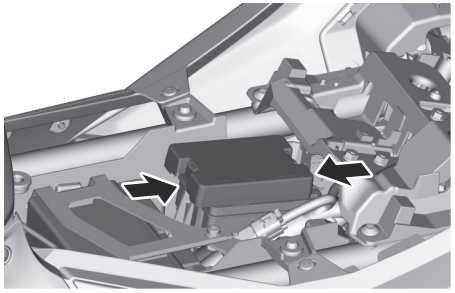
1. Y-AMT モーターコントロールヒューズ
2. ABS ソレノイドヒューズ
3. ABS モーターヒューズ
4. メインヒューズ
5. バックアップヒューズ
6. SCU ヒューズ
7. フューエルインジェクションヒューズ
8. 電子制御スロットルバルブヒューズ
9. バックアップヒューズ 2
10. スペアヒューズ
11. ヒューズプラー

ヒューズが切れた場合は、以下のように交換します。

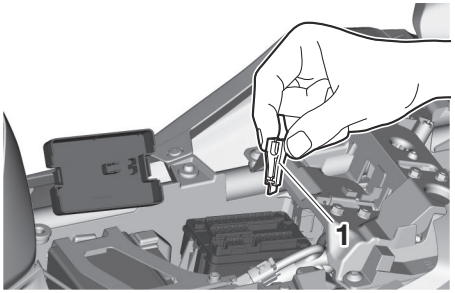
要　点

ヒューズを取り外すときは、ヒューズプラーをご使用ください。

1. 車両の電源をオフにします。
2. 図のように、ヒューズボックスカバーの 2 点を内側に押しながら上方向に引き、カバーを取り外します。



3. ヒューズプラーで切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



1. ヒューズプラー

規定ヒューズ：
DC ターミナル 1:
5.0 A
メイン:
60.0 A
サブ:
30.0 A
アクセサリー:
5.0 A
アクセサリー 2:
2.0 A
ヘッドライト:
10.0 A
ブレーキランプ:
2.0 A
シグナル:
7.5 A
イグニッション:
15.0 A
イグニッション 2:
5.0 A
イグニッション 3:
5.0 A
ラジエターファンモーター:
15.0 A
ヒーター:
7.5 A
ABS モーター:
30.0 A
SCU:
7.5 A
フューエルインジェクション:
7.5 A
ABS ソレノイド:
15.0 A
ABS コントロールユニット:
7.5 A
Y-AMT モーターコントロール:
50.0 A
クルーズコントロール:
2.0 A
バックアップ:
10.0 A
バックアップ 2:
15.0 A
電子制御スロットルバルブ:
7.5 A

4. 車両の電源をオンにし、装置が正しく作動することを点検します。
5. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。
6. ヒューズプラーを戻し、ヒューズボックスカバーを取り付けます。

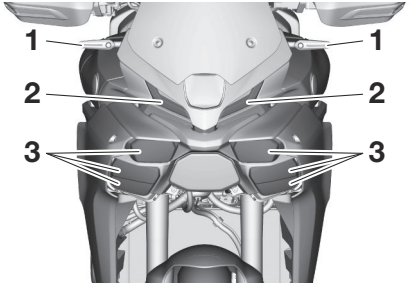
JCA12862

注 意

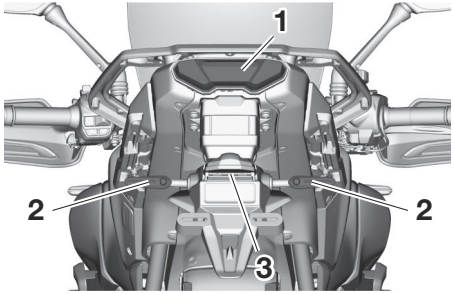
- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

灯火装置および方向指示灯の点検

JAU29447



1. 方向指示灯（前）
2. マーカーランプ
3. ヘッドライト



1. ブレーキ/テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（8-14ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（10-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

運行において異常が認められた箇所の点検

JAU29571

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAUA3600

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

スマートキーシステムが作動しないときは？

スマートキーシステムが作動しないときは、次の項目を確認してください。

- スマートキーがロックの状態になっていませんか？3-32 ページを参照して、スマートキーをアンロック状態に切り替えてください。
- スマートキーの電池が消耗していませんか？車両の電源をオンする時にキー表示灯が約 20 秒点滅したときは、電池を交換してください。（3-33 ページ参照）
- 強い電波やノイズのある場所などで使用していませんか？スマートキーシステムは微弱な電波を使用しています。スマートキーシステムの作動を妨げる具体的な例については 3-29 ページを参照してください。
- スマートキーに電池が入っていない、または電池が正しく取り付けられていない状態ではないですか？電池の取り付け状態を確認してください。（3-33 ページ参照）
- 車両に登録されている、専用のスマートキーを使用していますか？車両に登録された専用のスマートキーを使用しないと、スマートキーシステムは作動しません。登録されている、専用のスマートキーを使用してください。
- 壊れたスマートキーを使用していませんか？3-30 ページを参照してください。壊れたスマートキーを使用した場合、スマートキーシステムは作動しません。
- バッテリーがあがっていませんか？バッテリーの電圧が低下しているか、バッテリーがあがっていると通信不良の原因になります。バッテリーを充電するか、交換してください。スマートキーシステムが作動しないときのバッテリー交換方法については、8-13 ページを参照してください。

以上のことを確認してもスマートキーシステムが作動しない場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

スマートキーを使わずにエンジンを始動する方法については、8-19 ページのエマージェンシーモードを参照してください。

JAUA2841

手動でギヤチェンジする

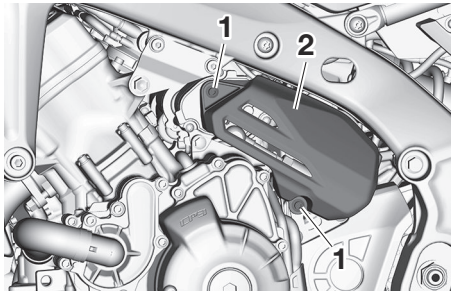
ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション (Y-AMT) システムに異常が発生した場合や、バッテリーが上がった場合に、車両の電源がオフの状態であれば、以下の方法でトランスミッションを手動でニュートラルポジションにすることができます。

JWA22731

⚠警 告

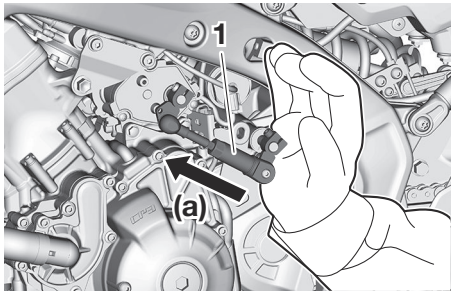
- **エンジンが熱いときはこの手順を行わないでください。重度のヤケドを負うおそれがあります。**
- **シフトロッドにカバーが取り付けられていない場合は、車両の電源をオンにしないでください。意図しないシフト作動が発生し、体の一部や衣服を挟み込み、重傷を負うおそれがあります。**

1. ボルトを外して、カバーを取り外します。



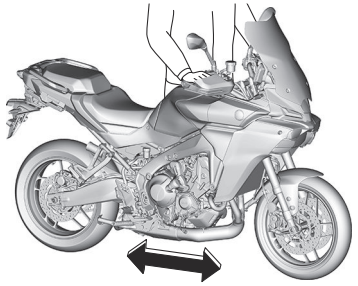
1. ボルト
2. カバー

2. 図のようにシフトロッドの下に手を置き、しっかりとカチッと音がするまで (a) 方向に強く押します。



1. シフトロッド

3. ハンドルバーを握り、ギヤチェンジが行われたことを示すカチッという音がするまで、車両を少し前後に動かします。



4. さらにシフトダウンが必要な場合は、ギヤがニュートラルになり車両を移動させることができるまで、手順 2～3 を繰り返します。
5. カバーを取り付けます。

JAUA2620

スマートキーシステムのエマージェンシーモード

スマートキーを紛失したとき、またはスマートキーの電池切れや故障などでスマートキーが使用できないときに、このモードの操作を行うことで、スマートキーがなくても車両の電源をオンにし、エンジンを始動することができます。

要　点

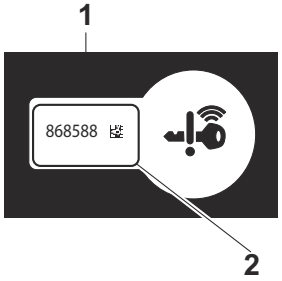
各操作を行うとき、それぞれの操作で決められた時間内に操作を終了しないと、エマージェンシーモードの操作を中止します。

1. 車を安全な場所に停車させ、メインスイッチが LOCK または OFF になっていることを確認します。
2. スマートキーシステム表示灯が 1 回点滅するまでメインスイッチノブを 5 秒押します。この操作を 3 回行うと、スマートキーシステム表示灯が 3 秒間点灯し、エマージェンシーモードに移行したことを知らせます。



1. スマートキーシステム表示灯 “ ”

3. スマートキーシステム表示灯が消灯後、ID 番号カードを参照して ID を入力します。



1. ID 番号カード
2. ID 番号

4. ID の入力数値は、スマートキーシステム表示灯の点滅回数を数えて行います。

操作例（ID:123456 を入力するとき）
メインスイッチノブを押し続けます。
↓
スマートキーシステム表示灯が点滅を開始します。
↓



1 回点滅したところでメインスイッチノブをはなします。
↓
1 番目（ID の左端）の数値「1」が確定します。
↓
再びメインスイッチノブを押し続けます。
↓



2 回点滅したところでメインスイッチノブをはなします。
↓
2 番目（ID の左から 2 つ目）の数値「2」が確定します。
↓
以下、6 番目（ID の右端）の数値を確定するまで繰り返します。正しい 6 桁の ID を入力すると、スマートキーシステム表示灯が 10 秒間点灯します。

要　点

下記のいずれかに該当した場合は操作が無効となり、エマージェンシーモードを終了します。このとき、スマートキーシステム表示灯は 3 秒間速く点滅します。この場合は、ステップ「2」からやり直してください。

- ID の入力作業中に 10 秒以上、メインスイッチノブの操作が無いとき
- スマートキーシステム表示灯を 9 回以上点滅させたとき
- ID が正しく入力されなかったとき

5. スマートキーシステム表示灯が点灯している間にメインスイッチノブをもう一度押すと、エマージェンシーモードが完了します。スマートキーシステム表示灯が一瞬消灯したあと、再度約 4 秒点灯します。
6. スマートキーシステム表示灯が点灯して

いる間にメインスイッチを ON にする
と、通常どおり車両を操作できます。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

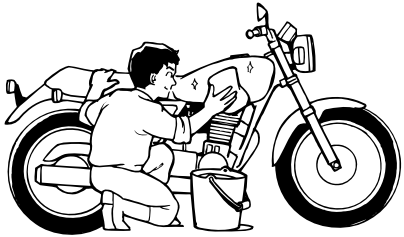
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27796

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠ 警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12215

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**

- **ウインドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU28001

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

⚠警　告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注　意

- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU98590

ウインドスクリーンの取り扱い

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドスクリーンの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA22090

⚠警 告

ウインドスクリーンとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。 物を置かないでください。

JCA28210

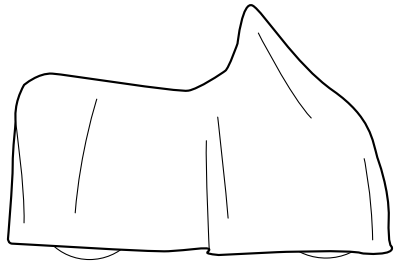
注 意

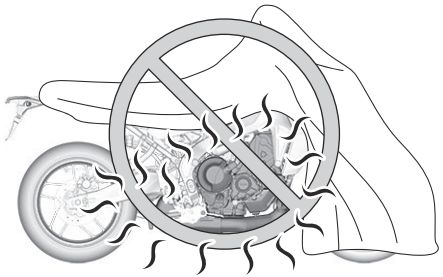
- **ウインドスクリーンにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドスクリーンは使用しないでください。**

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。
低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。
大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。
ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力して

ホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索



製品仕様

寸法:
- 全長:
  - 2175 mm
- 全幅:
  - 900 mm
- 全高:
  - 1440/1530 mm
- シート高:
  - 845/860 mm
- 軸間距離:
  - 1500 mm
- 最低地上高:
  - 135 mm

重量:
- 車両重量:
  - 232 kg
- 乗車定員:
  - 2 名

性能:
- 最小回転半径:
  - 2.9 m

エンジン:
- 行程:
  - 4 ストローク
- 冷却方式:
  - 水冷
- 動弁機構:
  - DOHC
- 配列:
  - 直列
- 気筒数:
  - 3 気筒
- 総排気量:
  - 888 cm^3

フロントブレーキ:
- ブレーキ形式:
  - 油圧式ダブルディスクブレーキ
- 指定ブレーキフルード:
  - BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ:
- ブレーキ形式:
  - 油圧式シングルディスクブレーキ
- 指定ブレーキフルード:
  - BF-4 (DOT-4)

フロントタイヤ:
- 種類:
  - チューブレス
- サイズ:
  - 120/70ZR17M/C (58W)
- メーカー/銘柄:
  - BRIDGESTONE/BATTLAX SPORT TOURING T32F

リヤタイヤ:
- 種類:
  - チューブレス
- サイズ:
  - 180/55ZR17M/C (73W)
- メーカー/銘柄:
  - BRIDGESTONE/BATTLAX SPORT TOURING T32R

動力伝達機構:
- 1 速:
  - 2.571 (36/14)
- 2 速:
  - 1.947 (37/19)
- 3 速:
  - 1.619 (34/21)
- 4 速:
  - 1.380 (29/21)
- 5 速:
  - 1.190 (25/21)
- 6 速:
  - 1.037 (28/27)

エレクトリカル:
- 電圧:
  - 12V

バルブワット数:
ヘッドライト:
LED
ブレーキ/テールランプ:
LED
方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
LED
番号灯:
5.0 W
マーカーランプ:
LED
エンジンオイル:
推奨オイル:
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス
エンジンオイル量:
オイル交換時:
2.80 L
オイルフィルター取り外し時:
3.20 L
冷却水容量:
リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.28 L
ラジエターと全ての経路:
1.72 L
バッテリー:
バッテリー型式:
YTZ10S
バッテリー容量:
12 V, 8.6 Ah (10 HR)
スパークプラグ:
メーカー/型式:
NGK/LMAR9A-9
プラグギャップ:
0.8–0.9 mm

JAU36645

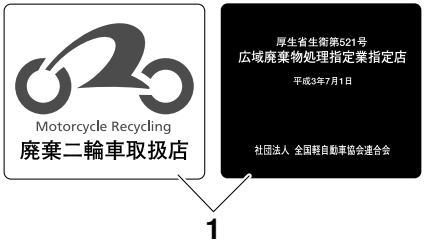
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



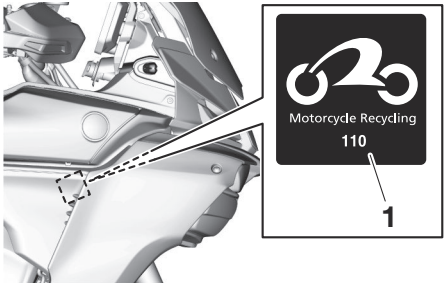
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/
公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

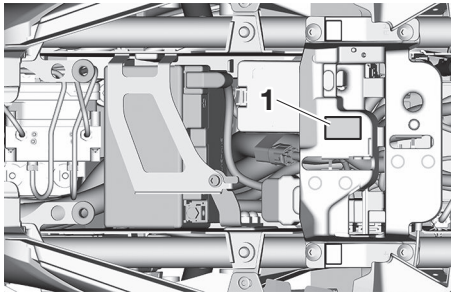
サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-BVV

JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、ライダーシート下のフレームに貼り付けてあります。

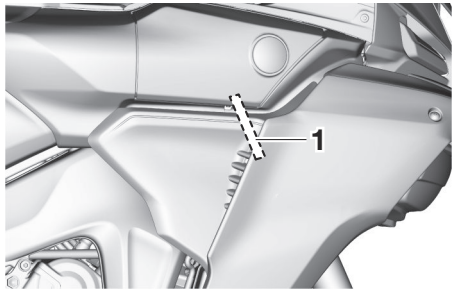


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
TRACER9 GT+ Y-AMT
モデルラベル
製品仕様を示しています。
O
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

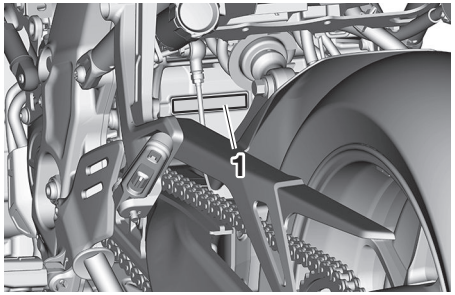


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

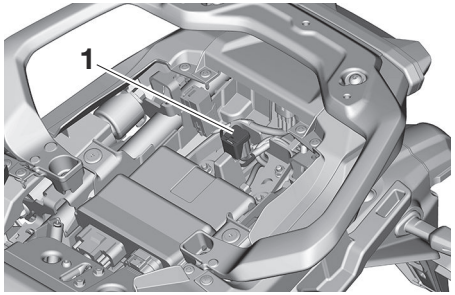


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

JAUA1211

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。

https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の３種類の車両情報を記録しています。

1）車体番号

2）エンジン/モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報

3）故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報

記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。

1）適切なメンテナンスや故障探求のため

2）適正な保証修理判定のため

3）製品の研究開発

4）製品、機能、およびサービスの品質向上のため

5）その他の事業目的を達成するため

6）法的義務の履行や係争事案対応のため

車両情報の提供に関して

利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および業務委託先に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口

車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。

ユーザー情報

ヤマハ発動機株式会社
〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
dpo@yamaha-motor.co.jp
こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。
関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。
お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

アルファベット

Pre-ride Suspension Damping system..... 3-27
Shift Indicator settings.....5-37

あ

アダプティブクルーズコントロール（ACC）システムの操作 3-13
アダプティブクルーズコントロールスイッチ/YVSL スイッチ 5-2
ACC（アダプティブクルーズコントロール）システム.....3-11
あなた自身と同乗者のために.....1-1
アフターケア用品について..... 9-4
アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い.....9-2
アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）.....8-12

い

ESS（緊急停止信号）システム..... 3-26
ETC コネクター..... 5-52
EBM（エンジンブレーキマネジメント）.....3-23
イグニッションサーキットカットオフシステム.....5-52

う

ウインドスクリーンの取り扱い.....9-3
運行において異常が認められた箇所の点検.....8-17

え

エアクリーナーエレメントの交換..... 8-6
ABS（アンチロックブレーキシステム）.....3-19
ABS 警告灯.....5-5
SC（スタビリティコントロールシステム）.....3-21
SCS（スライドコントロールシステム）.....3-22
SUS（電子制御サスペンションダンピングシステム）.....3-23
FCW（フォワードコリジョンワーニング).....3-8
LIF（リフトコントロールシステム）..... 3-22
エンジンオイル.....8-2
エンジン警告灯.....5-4
エンジン始動.....7-1
エンジンのかかり具合、異音の点検 8-4

か

環境・住民の方との調和のために..... 1-6

き

ギヤチェンジのしかた..... 7-2

け

警告灯と表示灯.....5-4
原動機番号.....11-3

こ

コーナリングライト.....3-4
故障診断コネクター..... 11-3
小物入れ.....5-47
こんなときは.....8-18

さ

サービスツール.....8-2
サービスマニュアル（別売）の紹介 11-2
サイドケースホルダー..... 5-48
サイドスタンド.....5-52

し

シート..... 5-42
シフトタイミングインジケーターランプ 5-6
シフトレバー.....5-3
車体各部の給油脂状態の点検.....8-12
車台番号.....11-2
車両情報.....11-2
車両情報の記録に関して..... 11-4
車両の特徴.....3-1
手動でギヤチェンジする..... 8-18
ジョイスティックとホームボタン.....5-3
初期設定..... 4-3
書類入れ.....5-46

す

スターター／エンジンストップスイッチ 5-2
スタビリティコントロール表示灯.....5-6
スマートキーおよびメカニカルキーの取り扱い.....3-30
スマートキーシステムのエマージェンシーモード..... 8-19
スマートキーシステムの概要.....3-29
スマートキーシステムの作動範囲 3-30
スマートキーシステム表示灯.....5-6

索引

スマートキー操作のしかた.....3-32
スマートキーの電池交換のしかた 3-33
スマートフィーチャー..... 4-1

せ

接続エラーが発生したときは.....4-9
洗車..... 9-1

た

タイヤ..... 8-6
タイヤ空気圧警告灯..... 5-6

ち

駐車..... 7-4

て

TCS（トラクションコントロールシステム）.....3-21
DC コネクター.....5-50
TPMS（タイヤ空気圧監視システム）.....3-28
ディスプレイ.....5-8
低速、加速の状態の点検..... 8-4
点検整備の実施.....8-1
電話..... 4-7

と

灯火装置および方向指示灯の点検 8-17
ドライブチェーン.....8-10
ドライブチェーンの給油..... 8-11

な

ナビゲーションシステム：Garmin Motorize.....4-6
ならし運転.....7-1

に

日常点検箇所／点検内容..... 6-1
日常点検の実施.....6-1
二輪車を廃棄する場合は？.....11-1

ね

燃料..... 5-42

は

ハイビーム表示灯..... 5-4
ハザードスイッチ.....5-2
バックミラー.....8-11
バッテリー.....8-13
ハンドル位置の調整..... 5-48
ハンドルスイッチ.....5-1

ひ

BSR（バックスリップレギュレーター）.....3-24
BSD（ブラインドスポットディテクション）.....3-10
BC（ブレーキコントロール）.....3-23
PWR（パワーデリバリーモード）..... 3-21
ヒューズ交換.....8-14

ふ

VHC（ビークルホールドコントロール）.....3-27
フューエルタンクキャップ.....5-41
フューエルタンクキャップの開閉 3-37
ブレーキ..... 7-3
ブレーキ液量の点検..... 8-9
ブレーキシステム..... 3-19
ブレーキパッドの点検..... 8-8
ブレーキランプスイッチの点検.....8-8
ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検.....8-8
ブレーキレバーの握り調整.....5-50
フロントフォークおよびリヤクッションの調整..... 5-48

へ

ヘッドライトスイッチ..... 5-1
ヘルメットホルダー..... 5-46

ほ

方向指示器スイッチ..... 5-1
方向指示器表示灯..... 5-4
ホーンスイッチ.....5-2
保管のしかた.....9-3
歩行者と他の車のために..... 1-5

ま

マトリックス LED ヘッドライト..... 3-1

み

ミリ波レーダー.....3-5

め

メインスイッチ.....3-35
メニューシステム.....5-20

も

モデルラベル.....11-2

や

Yamaha Motorcycle Connect アプリ 4-2

ゆ

USB ジャック.....5-50
UBS（ユニファイドブレーキシステム）.....3-19

12

UBS 警告灯..... 5-5
ら
ライダー介入リクエスト表示.....3-8
ライダーシートの高さ調整.....5-44
ライダーフートレスト位置の調整 5-46
れ
冷却水..... 8-4
レーダー連携 UBS.....3-20
わ
YRC（ヤマハライドコントロール）..... 3-21
YRC モードボタン.....5-2
Y-AMT（ヤマハオートメイティドマニュアルトランスミッション）.....3-25
Y-AMT 故障表示灯..... 5-5
Y-AMT スイッチ..... 5-3
YVSL（ヤマハバリアブルスピードリミッター）..... 3-17

Yamaha Motorcycle Connect

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-100-BVV

PRINTED IN JAPAN
2025.03-0.4×1 CR (J)